

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第459集

上台Ⅱ遺跡発掘調査報告書

国道4号花巻東バイパス建設事業に係る発掘調査

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

うわ だい に  
**上台Ⅱ遺跡発掘調査報告書**

国道4号花巻東バイパス建設事業に係る発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されており、それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれその土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、「国道4号花巻東バイパス建設事業」に関連して、実施した上台Ⅱ遺跡の調査の結果をまとめたものであります。

今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡と縄文時代の陥し穴が多数発見され、当地の過去の様相が多少とも明らかとなりました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時にその保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所・花巻市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成16年10月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 合 田 武

## 例 言

1. 本書は、国道4号花巻東バイパス建設事業に係る岩手県花巻市高木第19地割に所在する上台Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 今回の発掘調査による成果は、平成15年度の岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第455集『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』及び現地説明会（平成15年6月7日）にて公表してきたが、本書を正式な報告とする。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載された遺跡番号はME26-2340、遺跡略号はUDⅡ-03である。
4. 発掘調査は、小山内透と阿部徳幸が担当し、調査面積2,171㎡を対象として平成15年4月8日から6月19日まで実施し、整理及び執筆・編集については小山内が担当した。
5. 分析・鑑定・委託業務は次の方々へ依頼した。（順不同・敬称略）  
 火山灰分析 バリノ・サーヴェイ株式会社 石質鑑定 花崗岩研究会  
 基準点測量 株式会社協進測量設計 航空写真（株）東邦航空
6. 本書挿入中表記の土色注記は、農林省農林水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」2000年版を使用した。地図は建設省国土地理院発行の50,000分の1（花巻）を使用した。
7. 発掘調査及び遺物整理にあたっては下記の方々からご指導・ご助言を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（アイウエオ順、敬称・所属略）  
 磯村 亨・和泉昭一・利部 修・酒井宗孝・菅原 修・高橋忠彦・高橋 学・能登谷宜康・吉川耕太郎
8. 発掘調査による出土品及び記録資料は岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

## 凡 例

1. 本報告書に記載した遺構実測図に付した方位は、国家座標第X系（日本測地系）による座標北を示す。
2. 遺構・遺物の種別を表す略号は以下のとおりである。  
 SB・・・掘立柱建物跡    SI・・・竪穴住居跡    SKI・・・竪穴状遺構    SK・・・土坑  
 SN・・・炉跡・焼土遺構    SD・・・溝跡    SKT・・・陥し穴    SKP・・・柱穴  
 RP・・・土器類    RC・・・炭化物    S・・・礫
3. 十層注記は基本層位にローマ数字、遺構埋土にはアラビア数字を用い、擾乱（根木等）はKと示した。
4. 表中の法量・推定値は（ ）、残存値は〈 〉で表示した。
5. 遺構名は種別毎の検出順に連番としたが、精査過程あるいは整理段階において欠番になったものや略号・番号の変更になったものがあり、本文中では以下の変更した遺構名で記述している。

旧遺構名	新遺構名
SK 01	SKT 26
SK 02	SKT 27
SK 06	SKT 28
SK 11	SKT 29
SK 12	SKT 30

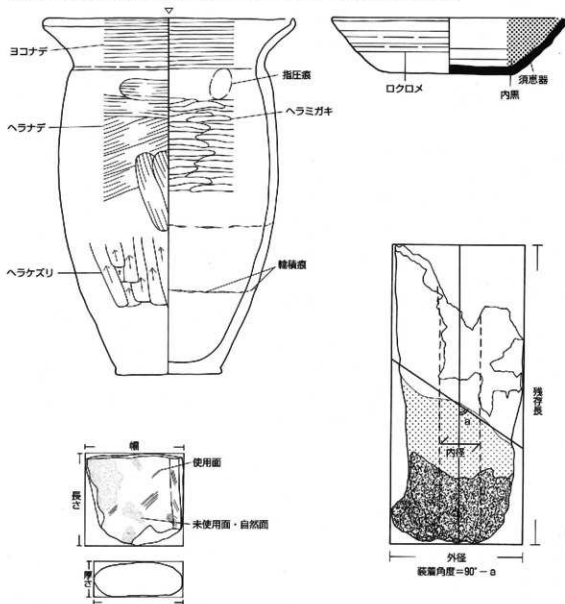
旧遺構名	新遺構名
SK 15	SKT 31
SK 44	SKT 32
SK 46	SKT 33

旧遺構名	新遺構名
SKT 05	SK 54
SK 01	SK 55
SK 37C	SK 56
SK 37D	SK 37
SI 04元 K1	SK 58

6. 挿図中に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。



7. 実測図の表現法と計測値の測定法は以下のとおりである。▽は断面の位置を示す。



# 目 次

序  
例言  
凡例

## [本 文]

第1章 発掘調査に至る経過	1
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と立地	4
第2節 遺跡の概観	4
第3節 遺跡の基本順序	4
第4節 周辺の遺跡	8
第3章 調査の概要と整理方法	14
第1節 調査と整理の経過	14
第2節 調査方法	15
(1) グリッドの設定	15
(2) 粗掘と精査	15
(3) 遺構の記録	15
第3節 整理方法	17
(1) 遺構図面	17
(2) 遺物	17
(3) 写真	17
第4章 検出遺構と出土遺物	18
第1節 縄文時代の遺構と遺物	18
(1) 陥し穴	18
(2) 出土遺物	33
第2節 古代の遺構と遺物	36
(1) 竪穴住居跡・竪穴状遺構	36
(2) 掘立柱建物跡・柱穴群	65
(3) 土坑	83
(4) その他の遺構	90
(5) 出土遺物	94
第3節 時期不明の遺構	99
(1) 土坑	99
(2) その他の遺構	104
第5章 まとめ	107
付章 自然科学的分析	110
上台Ⅱ遺跡出土火山灰の分析鑑定報告	110

## 図 版

第1図	計画路線図	2	第31図	SI 03竪穴住居跡出土遺物 (1)	51
第2図	岩手県全図	3	第32図	SI 03竪穴住居跡出土遺物 (5)	52
第3図	遺跡位置図	5	第33図	SI 04竪穴住居跡 (1)	54
第4図	地形分類図	6	第34図	SI 04竪穴住居跡 (2)	55
第5図	周辺地形と調査範囲図	7	第35図	SI 04竪穴住居跡 (3)	56
第6図	基本土層柱状図	8	第36図	SI 04竪穴住居跡出土遺物 (1)	57
第7図	周辺遺跡分布図	9	第37図	SI 04竪穴住居跡出土遺物 (2)	58
第8図	グリッド配置図	16	第38図	SI 04竪穴住居跡出土遺物 (3)	59
第9図	遺構配置図	19・20	第39図	SI 04竪穴住居跡出土遺物 (4)	60
第10図	SKT 01・03・04・07陥し穴	22	第40図	SI 04竪穴住居跡出土遺物 (5)	61
第11図	SKT 08~11陥し穴	23	第41図	SKI 01・02竪穴状遺構	63
第12図	SKT 12~15陥し穴	25	第42図	SKI 01・02竪穴状遺構出土遺物	64
第13図	SKT 16~19陥し穴	27	第43図	SB 01・02掘立柱建物跡	66
第14図	SKT 20~23陥し穴	29	第44図	柱穴群1 (全体図)	67・68
第15図	SKT 24~27陥し穴	30	第45図	柱穴群2 (北部・北東部)	69・70
第16図	SKT 28・29・30AB陥し穴	32	第46図	柱穴群3 (南部1)	71
第17図	SKT 31~33陥し穴	34	第47図	柱穴群4 (南部2)	72
第18図	縄文時代の遺物	35	第48図	柱穴群5 (南東部)	73・74
第19図	SI 01竪穴住居跡	37	第49図	SK 03-04-13-14-16-17-21-22土坑	84
第20図	SI 01竪穴住居跡出土遺物	38	第50図	SK 24-26-30-31-33-47土坑	86
第21図	SI 02竪穴住居跡 (1)	40	第51図	SK 37-36-57-48-50-51-53土坑	88
第22図	SI 02竪穴住居跡 (2)	41	第52図	SK 55-88土坑, SN 01-05礎土遺構・04中溝	91
第23図	SI 02竪穴住居跡出土遺物 (1)	42	第53図	SD 01・03・04溝跡	92
第24図	SI 02竪穴住居跡出土遺物 (2)	43	第54図	SK04-16土坑, SKP196-197柱穴出土遺物	93
第25図	SI 02竪穴住居跡出土遺物 (3)	44	第55図	古代の土器集成図1 (坏類)	96
第26図	SI 03竪穴住居跡 (1)	46	第56図	古代の土器集成図2 (甕類)	97
第27図	SI 03竪穴住居跡 (2)	47	第57図	SK 05・07・09・11・19・20・23土坑	101
第28図	SI 03竪穴住居跡出土遺物 (1)	48	第58図	SK・25-27・28-32・34・38-39土坑	103
第29図	SI 03竪穴住居跡出土遺物 (2)	49	第59図	SK 40~43・45・52・54土坑	105
第30図	SI 03竪穴住居跡出土遺物 (3)	50	第60図	SN 02-03-05-06礎土遺構, SI 02溝跡	106

## 写真図版

写真図版1	航空写真 (遺跡全景)	117	写真図版19	時期不明の遺構1 (土坑1)	135
写真図版2	調査区近景	118	写真図版20	時期不明の遺構2 (土坑2)	136
写真図版3	縄文時代の遺構1 (陥し穴1)	119	写真図版21	時期不明の遺構3 (土坑3)	137
写真図版4	縄文時代の遺構2 (陥し穴2)	120	写真図版22	時期不明の遺構4 (礎土遺構・溝跡)、現地説明会風景	138
写真図版5	縄文時代の遺構3 (陥し穴3)	121	写真図版23	縄文時代の遺物	139
写真図版6	縄文時代の遺構4 (陥し穴4)	122	写真図版24	古代の遺物1 (SI 01・02竪穴住居跡1)	140
写真図版7	古代の遺構1 (土坑1)	123	写真図版25	古代の遺物2 (SI 02竪穴住居跡2)	141
写真図版8	古代の遺構2 (SI 02竪穴住居跡1)	124	写真図版26	古代の遺物3 (SI 02竪穴住居跡1)	142
写真図版9	古代の遺構3 (SI 02竪穴住居跡2)	125	写真図版27	古代の遺物4 (SI 02竪穴住居跡2)	143
写真図版10	古代の遺構4 (SI 03竪穴住居跡1)	126	写真図版28	古代の遺物5 (SI 03竪穴住居跡3)	144
写真図版11	古代の遺構5 (SI 03竪穴住居跡2)	127	写真図版29	古代の遺物6 (SI 03竪穴住居跡4)	145
写真図版12	古代の遺構6 (SI 04竪穴住居跡1)	128	写真図版30	古代の遺物7 (SI 04竪穴住居跡1)	146
写真図版13	古代の遺構7 (SI 04竪穴住居跡2)	129	写真図版31	古代の遺物8 (SI 04竪穴住居跡2)	147
写真図版14	古代の遺構8 (SKI 01・02竪穴状遺構)	130	写真図版32	古代の遺物9 (SI 04竪穴住居跡3)	148
写真図版15	古代の遺構9 (土坑2)	131	写真図版33	古代の遺物10 (SKI 01・02竪穴状遺構, SK 01・16土坑, SKP 196-197柱穴)	149
写真図版16	古代の遺構10 (土坑3)	132	写真図版34	古代の遺物11 (鍛冶跡)	150
写真図版17	古代の遺構11 (土坑4)	133			
写真図版18	古代の遺構12 (土坑5)	134			

## 第1章 発掘調査に至る経過

「上台Ⅱ遺跡」は、花巻東バイパス改築工事の施工に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

一般国道4号は、東京都中央区を起点として青森県青森市に至る延長約858kmの我が国最長の国道で、東北地方の人の動脈を担っている主要幹線道路である。

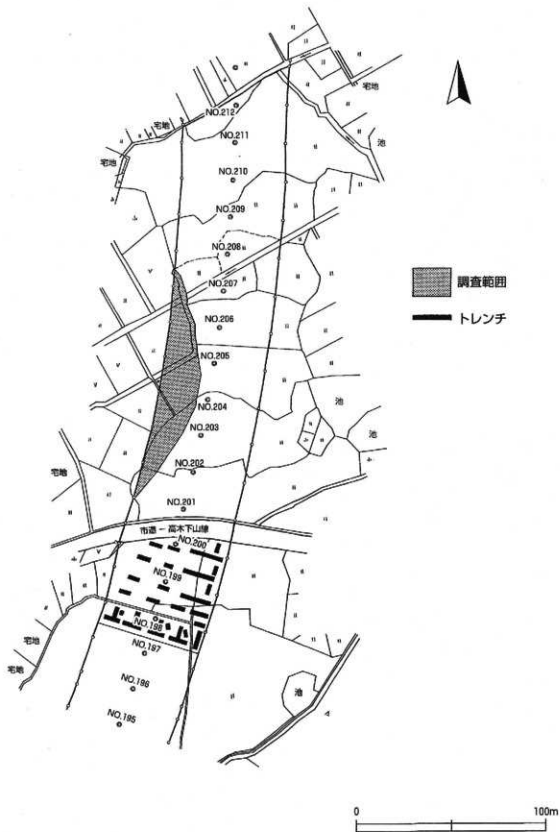
花巻東バイパスは、花巻市山の神と同市西宮野目の間約8.3km（インター取付き500m含む）の区間で計画されている。現国道は、ほぼ市街地の中心を南北に縦貫し、全幅員10～12mと狭く、近年の自動車交通の増大と車向の大型化により、交通混雑、沿道環境悪化が顕著になってきている。このため市内を通過する国道4号の交通混雑解消と東北縦貫自動車道、東北新幹線新花巻駅への交通アクセス機能を高めるため、昭和62年度に事業に着手し、平成元年度に用地買収に着手し、平成4年度には工事に着手し、平成14年度に国道283号から終点側約4.2km（インター取付き500m含む）を暫定供用している。平成14年度からは、起点から国道283号の間約4.1kmについて工事に着手した。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が平成12年度に分布調査を実施し、「上台Ⅱ遺跡」も確認されている。「上台Ⅱ遺跡」については、平成14年度に試掘調査を実施している。その結果に基づいて岩手県教育委員会は国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所（現河川国道事務所）に対し、事業について照会した。回答を受けた岩手県教育委員会は岩手工事事務所と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

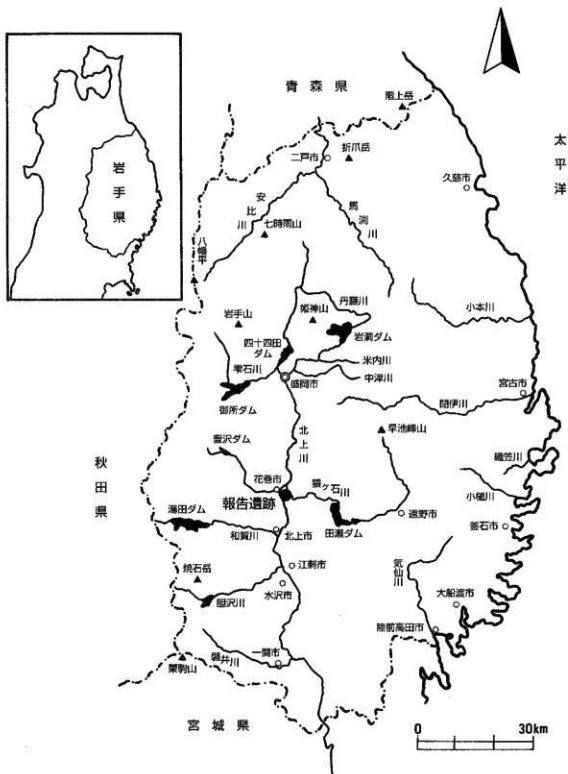
これにより、岩手県教育委員会は、平成15年度事業について平成15年1月14日付け「教生第1457号」により、財団法人岩手県文化振興事業団に、平成15年3月6日付け「教生第1630」により、岩手工事事務所長へ通知した。これを受けた財団法人岩手県文化振興事業団は平成15年4月1日付けで岩手工事事務所長と財団法人岩手県文化振興事業団理事長との間で受託契約を締結し、これにより財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが同年4月8日から「上台Ⅱ遺跡」の発掘調査に着手した。また、前年度未買収であったため、試掘調査が行えなかったB地区の試掘も合わせて行うこととなった。

（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）





第1図 計画路線図



第2図 岩手県全図

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と立地 (第2～4図)

上台Ⅱ遺跡は、岩手県花巻市高木第19地割ほかに所在する。遺跡の所在する花巻市は岩手県南の西側内陸部に位置し、西側の奥羽山脈と東側の北上山地に挟まれた南北に長い北上盆地にある。この盆地は南に流下する北上川によって盛岡以北を上流域、盛岡～前沢間を中流域、前沢以南を下流域と大きく3区域に区分されている。花巻市はこの中流域のほぼ中央に位置し、北側に平石町・石鳥谷町、東側に東和町、南側に北上市、西側に沢内村が隣接する。遺跡は花巻市の南東部、JR東日本東北幹線新花巻駅の南西方向約3.5kmに位置し、遺跡の中央部は北緯39度23分10秒、東経141度08分38秒付近にある。

花巻市周辺の地形概況としては、南流する北上川を境として東西では大きく異なり対照的となっている。東側は北上山地の西縁丘陵地帯にあたり、古生層、花崗岩類、蛇紋岩、安山岩、砂岩、頁岩を基岩とする山地と丘陵地が入り組んで発達し、台地はこれらを開析して西流し北上川に流入する猿ヶ石川などの河川に沿って、小規模な河岸段丘として分布しており、一般に段丘の発達は不良である。これに対し、西側のグリーン・タフ地域に属する奥羽山脈東縁の断層崖下には、豊沢川などの北上川の支流による砂礫の堆積によって新田の扇状地が発達している。この北上川右岸の扇状地性の台地は少なくとも新田3段以上に分類できるが、特に中位・下位段丘が広面積を占めており、北上川兩岸の段丘の非対称性が明らかである。また、北上川本流では幅1～4kmの河谷平野が発達しているが、様に低平ではなく、沖積段丘や自然堤防、旧河道などが分布している。

本遺跡はこの北上川の東側の小規模な台地、低位の河岸段丘上に立地している。

### 第2節 遺跡の概観 (第5図)

上台Ⅱ遺跡は、西側に南流する北上川、東から北側に蛇行して西流する猿ヶ石川の両河川によって、南側を除く三方を囲まれた範囲のほぼ中央に分布する台地、低位の河岸段丘上に立地する。遺跡の現況は畑地で、周囲の水田面よりも約1mほど高い標高約80mほどの浮島状となっている。遺跡はこの浮島状の微高地部分と考えられ、およそ6,000㎡の範囲と推定される。また周辺地域には同様の島状の微高地が点在し、高木島という地名も存在しており、各々が古代及び縄文時代の遺跡の可能性が高いと思われる。

### 第3節 遺跡の基本層序 (第6図)

遺跡の基本層序は、全体的に開墾整地のため削平され、遺物包含層は消失し、表土(耕作土)下は地山となっていた。一部、縁辺部の畦畔下で確認された状況からは、およそ表土から基盤層まででV層に大別され、I層表土はa層耕作土(層厚約20cm)及びb層草木根を含む黒ボク土、II層は本来遺物包含層であったと思われる黒褐色土(層厚約20cm前後)、III層は暗褐色土の漸移層(層厚約5cm)、IV層は褐色粘質土の地山(層厚30～50cm)、V層が黄褐色砂質土(層厚不明)である。また、調査区内の畦道下の状況からみて全体的にIV層上位が15～20cmほど削平されており、ほとんどの遺構はIV層中での検出となっている。



第3図 遺跡位置図



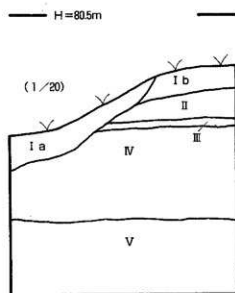
0 1:50000 2000m



第4図 地形分類図



第5図 周辺地形と調査範囲図



#### 基本図序

- I a層 10Y R 3 / 1 (黒褐色)  
新土。層厚約30cm。
- I b層 10Y R 2 / 2 (黒褐色)  
表土。草木根を含む。  
層厚0～10cm前後。
- II層 10Y R 2 / 2 (黒褐色)  
古代の遺物包含層。層厚0～20cm。
- III層 10Y R 3 / 4 (暗褐色)  
漸移層。層厚0～5cm。
- IV層 10Y R 4 / 6 (褐色)  
地山。粘質土。濃褐色出面。  
層厚30～70cm。
- V層 10Y R 5 / 4 (にぶい黄褐色)  
基盤層。砂質土。層厚不明。

第6図 基本土層柱状図

#### 第4節 周辺の遺跡 (第7図)

花巻市には岩手県教育委員会の報告によると、平成15年4月現在、約300ヶ所を超える遺跡が確認されている。第7図の図幅中には、岩手県教育委員会と花巻市教育委員会の刊行物より周辺市町村(石鳥谷町・北上市・東和町)を一部含む174遺跡を示した。本地域では多数の発掘調査及び試掘調査が行われているが、広範囲にわたる調査が行われた遺跡はあまり多くはない。上台II遺跡においては、縄文時代と古代の遺構と遺物が確認されており、ここでは花巻市内で調査報告の実施された同時期の遺跡を中心に記述する。

まず、縄文時代の主な調査遺跡としては、本遺跡の東方で猿ヶ石川左岸の中位河岸段丘上に立地し、1993年から継続して調査が実施され、大型住居を含む多数の竪穴住居跡等が検出された中期の大規模集落である九田野II遺跡、本遺跡南西に隣接する草創期の竪穴住居跡が検出された上台I遺跡などがある。このほかに本遺跡・石持I遺跡・似内遺跡・上似内遺跡・狼沢II遺跡など北上川やその支流沿いに分布する谷底・氾濫平野や低位の河岸段丘上に立地する遺跡では陥穴が検出される狩猟場が多く、石持I遺跡では約300基が確認されている。その他にも集落遺跡と推測される数多くの遺物包含地や遺物散布地が存在する。

次に、古代の主な遺跡としては、上記の石持I遺跡・似内遺跡・上似内遺跡・狼沢II遺跡や鹿理遺跡などの集落跡があり、平安時代の特に9世紀代の遺跡が多く確認されている。古代の遺跡は遺物包含地や散布地を含め、ほとんどが谷底・氾濫平野や低位の河岸段丘上に立地し、調査遺跡では立地条件によるものか縄文時代の狩猟場と複合した遺跡が多く認められる。本遺跡の北方で北上川右岸の谷底平野に立地する似内遺跡では竪穴状遺構から金粒が出土し、また鹿理遺跡では全国的にも例のない線刻水鳥が描かれた置きカマドと思われる破片資料が出土するなど一般集落とは言い難い特異的な遺跡も確認されている。



第7図 周辺遺跡分布図



周辺遺跡一覧表(1)

NO.	遺跡名	市町村	時 代	種 別	主な遺構・遺物
1	上舟Ⅱ	花巻市	縄文・古代	集落跡・狩猟場	本文
2	上台Ⅰ	花巻市	縄文・古代	集落跡	縄文土器、竪穴住居跡(早期)・土師器
3	高木古跡	花巻市	縄文・古代・中世	城跡跡	竪穴住居跡・陥し穴・土坑・埴・土器・平瓦・炭燼 縄文土器・石器・土師器・須恵器・青磁・銅鏡・銅杖
4	高木中館	花巻市	縄文・古代	集落跡・狩猟場	竪穴住居跡・陥し穴・土坑・縄文土器・土師器・須恵器
5	上ノ山	花巻市	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器
6	方八丁	花巻市	古代	官舎?	竪穴住居跡・埴・土器・土師器・須恵器・鉄器・砥石
7	山の神	花巻市	縄文	散布地	縄文土器(前期)・石器・土師片
8	葛船場	石鳥谷町	近世	跡し堀跡	
9	中村	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
10	大西Ⅱ	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
11	馬場田Ⅱ	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
12	馬場田	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
13	塚崎	石鳥谷町	縄文	集落跡	縄文土器
14	大西橋Ⅱ	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
15	大西橋	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
16	前船	石鳥谷町	中世	城跡跡	土庫・堀
17	新	石鳥谷町	縄文・古代	集落跡	縄文土器・土師器
18	蛇籠堀	石鳥谷町	平安	散布地	土師器
19	高橋Ⅱ	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
20	安塔盛敷Ⅱ	石鳥谷町	縄文	散布地	羽片
21	安塔盛敷	石鳥谷町	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器
22	高田Ⅰ	花巻市	平安	散布地	土師器
23	光勝寺鐘樓	石鳥谷町	中世	寺院跡	礎石
24	忌	花巻市	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器
25	長沢Ⅱ	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
26	長沢Ⅰ	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
27	狼取Ⅱ	花巻市	縄文・古代	集落跡・狩猟場	陥し穴・竪穴住居跡・縄文土器(晚期)・土師器・須恵器
28	下ノ跡	花巻市	弥生	包含地	弥生土器
29	遊子	花巻市	縄文	包含地	縄文土器・石器
30	新屋	花巻市	縄文・古代	包含地	石器・土師器
31	元屋	花巻市	縄文・中～近世	散布地・鉄跡	埴跡・縄文土器・石器・コブ
32	宮宮野目	花巻市	縄文・古代	集落跡	竪穴住居跡・土坑・縄文土器(前・後・晚期)・石器・土師器・須恵器
33	西中	花巻市	縄文・古代・近世	集落跡	縄文土器・土師器・須恵器
34	十三塚	花巻市		城跡跡	塚・古瓦
35	三森	花巻市	古代	散布地	土師器
36	石持Ⅰ	花巻市	縄文・古代	集落跡・狩猟場	陥し穴・竪穴住居跡・土坑・柱六跡・縄文土器・土師器・須恵器・土製品・鉄製品
37	源明Ⅱ	花巻市	古代	散布地	土師器
38	柏葉城	花巻市	近世	散布地・城跡跡	
39	馬立Ⅰ	花巻市	古代	散布地	土師器
40	馬立Ⅱ	花巻市	古代	散布地	土師器
41	田力中野	花巻市	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器
42	岸塚	花巻市	縄文・古代	集落跡	竪穴住居跡・竪穴住居跡跡・土坑・溝跡・土師器(墨書・墨刻)・須恵器・縄文土器
43	東野袋	花巻市	古代	散布地	土師器
44	孫市原	花巻市	中世	城跡跡	堀
45	孫市古墳群	花巻市	古墳	古墳群	
46	長沢Ⅰ	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
47	長沢Ⅱ	石鳥谷町	縄文	散布地	縄文土器
48	上野々	花巻市	縄文	散布地	石斧・石器
49	陣ヶ森	花巻市	中世	城跡跡	堀・土器
50	大下田Ⅰ	花巻市	中世	城跡跡	土器
51	天下田Ⅱ	花巻市	縄文	包含地	石器
52	本原Ⅱ	花巻市	中世・縄文	包含地	埴・堀・陥し穴・竪穴住居跡跡・溝・陣礎石
53	本原Ⅰ	花巻市	縄文・中世	集落跡・城跡跡	縄文土器(晩)・石器・埴・竪穴住居跡
54	沢田	花巻市	縄文・弥生	集落跡	陥し穴・ピット
55	沢内	花巻市	古代・縄文	集落跡・狩猟場	陥し穴・竪穴住居跡・土坑・竪穴住居跡跡・縄文土器・土師器・須恵器・鉄製品・土製品・金粒
56	我生	花巻市	古代	集落跡	土師器・竪穴住居跡
57	沢沢堂	花巻市	古代	集落跡	土師器・須恵器・鉄製品

周辺遺跡一覧表(2)

NO.	遺跡名	花巻市	時代	種別	主な遺構・遺物
58	下館	花巻市	古代	集落跡	土師器、竪穴住居、須恵器
59	上館	花巻市	古代、縄文	集落跡	石器、縄文土器、竪穴住居、土師器
60	十八ヶ原跡	花巻市	中世～近世	城跡跡	堀
61	小畑Ⅰ	花巻市	縄文、中世	城跡跡、包込地	臨し穴状遺構、縄文土器(晩期)、石函
62	下東	花巻市	古代	散布地	土師器、須恵器
63	下西	花巻市	古代	散布地	土師器、須恵器
64	下飯内	花巻市	古代	散布地	土師器、須恵器
65	上飯内	花巻市	縄文、古代、中世	集落跡、野原場、城跡跡	臨し穴、竪穴住居跡、土坑、埴師、縄文土器、土師器、須恵器、鉄製品、土製瓦、陶磁器
66	横ノ木Ⅰ	花巻市	縄文、弥生、古代、中世	集落跡、城跡跡	弥生土器、縄文土器(晩期)、竪穴住居跡、堀、土師器
67	横ノ木Ⅱ	花巻市	縄文	散布地	縄文土器、石器
68	大沢船Ⅱ	花巻市	中世	城跡跡	堀
69	大沢船Ⅰ	花巻市	中世	城跡跡	堀、土器
70	横ノ木Ⅲ	花巻市	縄文、古代	散布地	縄文土器、石器、土師器、須恵器
71	湖下平山跡	花巻市	古代、中世	城跡跡、集落跡	竪穴状遺構、二重空堀、縄文土器、土師器、須恵器、羽目、砥石、古銭
72	矢沢八種(古畑、矢沢館)	花巻市	古代、近世	集落跡、城跡跡	竪穴住居跡、臨し穴住居跡跡、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、石器
73	小松原	花巻市	古代	散布地	土師器、須恵器
74	高松寺跡	花巻市	縄文、弥生、古代、近世	社寺跡	竪穴住居跡、礎石建物跡、土器、須恵器、縄文土器、弥生土器、土師器、鉄製品
75	経塚	花巻市	古代	経塚	土師器、塚2基以上
76	寺塚	花巻市	古代	集落跡	土師器、須恵器、竪穴住居跡
77	八幡寺跡	花巻市	古代	集落跡	土師器、須恵器
78	花巻城	花巻市	中～近世	城跡跡	堀
79	下小路Ⅱ	花巻市	古代	包込地	土師器
80	下小路Ⅰ	花巻市	古代	包込地	土師器、須恵器
81	塚野Ⅱ	花巻市	古代	集落跡	土師器、須恵器、土師
82	高松Ⅰ	花巻市	縄文	散布地	縄文土器(中層)
83	高松Ⅱ	花巻市	縄文、弥生、古代	集落跡	縄文土器(晩期)、土師器、弥生土器、竪穴状遺構
84	高松Ⅲ	花巻市	縄文、弥生	集落跡	縄文土器、弥生土器、石器
85	横ノ木Ⅳ	花巻市	縄文、古代	包込地	縄文土器
86	明ヶ沢	花巻市	縄文	散布地	縄文土器(中期)、石函
87	石神	花巻市	縄文、古代	集落跡	縄文土器(中)、土師器、須恵器
88	藤沢	花巻市	縄文、古代	散布地	縄文土器、石器、土師器
89	首道堂	花巻市	縄文	散布地	縄文土器
90	塚野Ⅰ	花巻市	縄文、古代	散布地	縄文土器、石器、土師器
91	高木岡神社	花巻市	縄文	経塚	塚、白磁瓦
92	上台宮	花巻市	縄文、古代	散布地	縄文土器、石函、土師器
93	ウイノ神	花巻市	縄文	散布地	縄文土器(大木9式)
94	久田野Ⅰ	花巻市	縄文	集落跡	竪穴住居跡、土坑遺構、縄文土器(大木7～8式)
95	久田野Ⅱ	花巻市	縄文	集落跡	竪穴住居跡、伊跡、土坑類、埋設土器、集石遺構、縄文土器(中層)、石函、土製品
96	安野Ⅰ	花巻市	縄文	散布地	縄文土器(後期)
97	安野Ⅱ	花巻市	弥生	集落跡	弥生土器(谷部式)、石斧
98	安野Ⅲ	花巻市	縄文、古代	散布地	縄文土器、土師器、石器
99	中野B	花巻市	縄文	散布地	縄文土器(後)、弥生土器、石器
100	中野A	花巻市	近世	塚	塚2基
101	中野A	花巻市	縄文、古代	散布地	縄文土器(中?)、土師器、石函、須恵器(?)
102	中野C	花巻市	縄文、古代	集落跡	堀7、土坑、縄文土器(中)、後、石函、土師耳輪、土師器
103	中野D	花巻市	縄文、古代	縄文～古代	
104	高松山跡	花巻市	古代、中世、近世	経塚、鹿寺跡	経塚、竪穴状遺構、白磁瓦、常滑瓦、土師器
105	關古	花巻市	縄文	塚	塚2基
106	胎田屋	花巻市	縄文	包込地	縄文土器(中)
107	下館	花巻市	古代、中世	城跡跡、集落跡	堀、土師器、砥石、縄文土器
108	上館跡Ⅱ	花巻市	古代、縄文	集落跡	竪穴住居跡、土坑、土師器、須恵器
109	上館跡Ⅰ	花巻市	縄文、古代	散布地	縄文土器、石器、土師器、須恵器
110	不動Ⅰ	花巻市	縄文、古代	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器(晩、後期)、石函
111	不動Ⅱ	花巻市	古代、縄文、中世	集落跡、城跡跡	臨し穴、竪穴住居跡、堀跡、土坑、土師器、須恵器、陶磁器、鐵製品、鈴鏝、鉄製品、竪木通草
112	坂町Ⅱ	花巻市	縄文、古代	集落跡	竪穴住居跡、土師器
113	坂町Ⅰ	花巻市	縄文、古代	集落跡	竪穴住居跡、土師器、縄文土器

周辺遺跡一覧表(3)

NO.	遺跡名	花巻市	時代	種別	主な遺構・遺物
114	桜町窯跡	花巻市	近世	窯跡	陶磁器・瓦片
115	松町Ⅱ	花巻市	縄文・古代	集落跡	竪穴住居跡・土師器
116	清津水神社	花巻市	縄文	集落跡	縄文土器(晩)
117	長根Ⅰ	花巻市	中・近世	城跡跡	堀
118	長根Ⅱ	花巻市	古代	散布地	十師器
119	長根Ⅲ	花巻市	古代	散布地	土師器
120	長根Ⅳ	花巻市	古代	散布地	土師器
121	八ツ森	花巻市	縄文・古代	集落跡	竪穴住居跡・縄文土器・石器・土師器
122	小森	花巻市	古代	集落跡	土師器・竪穴住居
123	長根城	花巻市	散布地	縄文	縄文土器(晩期)・石器
124	中	花巻市	古代	散布地	土師器
125	諏訪Ⅱ	花巻市	縄文・古代	集落跡	竪穴住居跡、方形状落ち込み 縄文土器(晩期)・石器・須恵器・土師器
126	諏訪Ⅰ	花巻市	縄文	散布地	縄文土器、石馬、石鏡
127	安積寺Ⅰ	花巻市	縄文・古代	包含地	縄文土器・土師器
128	安積寺Ⅱ	花巻市	縄文	包含地	縄文土器
129	山ノ神Ⅱ	花巻市	縄文	散布地	縄文土器
130	十二丁中村	花巻市	古代	散布地	土師器
131	外谷川原	花巻市	古代	散布地	土師器
132	荒原Ⅰ	花巻市	古代	集落跡	堀・土師器・竪穴住居跡
133	荒原Ⅱ	花巻市	古代	包含地	土師器
134	中道	花巻市	縄文・古代	集落跡・包含地	縄文土器(晩)・石器・土師器・須恵器
135	大沢Ⅱ	花巻市	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器・須恵器
136	大沢Ⅰ	花巻市	古代	集落跡	土師器・須恵器
137	明戸Ⅰ	花巻市	縄文	集落跡	縄文土器(晩期)・石馬
138	平泉本郷	花巻市	中世	城跡跡?	堀
139	明戸Ⅱ	花巻市	縄文・古代	集落跡	土師器・縄文土器・石器
140	明戸Ⅳ	花巻市	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器・石器
141	富士大学グラウンド	花巻市	縄文	散布地	縄文土器(晩期)
142	山ノ神Ⅰ	花巻市	縄文	散布地	縄文土器
143	隙内	花巻市	縄文・旧石器	散布地	縄文土器・燧石穴・尖頭器・骨針・ハンマー・ストーン
144	神Ⅰ	花巻市	古代	散布地	土師器
145	神Ⅱ	花巻市	古代	集落跡	竪穴住居跡・土師器・堀
146	十二丁川城跡	花巻市	縄文・中世	城跡跡	堀・土器・縄文土器(早)
147	成田Ⅱ	花巻市	古代	包含地	土師器・須恵器
148	成田Ⅰ	花巻市	古代	散布地	土師器・須恵器
149	徳貫Ⅱ	花巻市	古代	集落跡	竪穴住居跡・土師器
150	大木	花巻市	縄文・古代	包含地	縄文土器・石器
151	茶師原	花巻市	中世	城跡跡	堀・堀
152	長力田	花巻市	縄文	散布地	縄文土器
153	明戸Ⅲ	花巻市	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器・石器
154	阪平	北上市	縄文	散布地	縄文土器(中・後・晩期)・須恵器・土偶
155	北成島下西Ⅰ	東和町	縄文?・平安	散布地	縄文土器・ロクロ使用土師器
156	北成島下西Ⅱ	東和町	縄文?・平安	散布地	縄文土器・ロクロ使用土師器
157	吉沢Ⅱ	東和町	縄文?	散布地	縄文土器
158	吉沢Ⅰ	東和町	縄文?	散布地	縄文土器
159	湯原(湯原館)	北上市	中世	城跡跡	帯狀腰郭・堀
160	長根	北上市	縄文	散布地	縄文土器・石器
161	唐戸崎	北上市	縄文	散布地	縄文土器(中期)
162	唐戸崎Ⅱ	北上市	縄文	散布地	縄文土器・土師器
163	熊倉	北上市	縄文	散布地	縄文土器・石器
164	小野	花巻市	縄文	包含地	石器
165	成田一里塚	北上市	近世	一里塚	甲塚2基
166	下成田	北上市	平安	散布地	縄文土器・須恵器
167	堀ノ内	北上市	平安	散布地	土師器
168	大野原寺	北上市	平安	寺院跡	土師器・須恵器
169	横久	北上市	縄文	散布地	縄文土器・石器・竪穴住居跡
170	高畑	北上市	縄文	集落跡	縄文土器(前期)
171	坊平	北上市	縄文	散布地	縄文土器・竪穴住居跡、石器
172	月成	北上市	平安	散布地	
173	成田	北上市	古代	散布地	
174	八森崎	北上市	古代	散布地	

※参考資料

- 新岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『摩理遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第302集
- 新岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『楯沢Ⅱ・高松寺・上駒板遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第319集
- 新岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『石神Ⅰ遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第341集
- 新岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『似内遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第344集
- 新岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『土似内遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第379集
- 新岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『高野目Ⅰ』遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第404集
- 新岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『稲高遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第408集
- 新岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『岩手県文化振興事業団発掘調査略報平成15年度』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第455集
- 花巻市教育委員会 1995 『花巻市内遺跡発掘調査報告書（中野C遺跡・久田野Ⅰ遺跡・板町遺跡）』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 花巻市教育委員会 1996 『花巻市内遺跡発掘調査報告書（久田野Ⅱ遺跡・不動Ⅰ遺跡）』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 花巻市教育委員会 1997 『花巻市内遺跡発掘調査報告書（久田野Ⅱ遺跡・下坂Ⅰ遺跡・花巻城三之丸跡）』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 花巻市教育委員会 1999 『花巻市内遺跡発掘調査報告書（久田野Ⅱ遺跡・本館Ⅱ遺跡・似内遺跡）』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 花巻市教育委員会 2000 『花巻市内遺跡発掘調査報告書（久田野Ⅱ遺跡・久田野Ⅰ遺跡・小袋遺跡・古沢Ⅱ遺跡・上沢Ⅱ遺跡・板町Ⅰ遺跡・小動Ⅱ遺跡・花巻城跡・榎子館跡）』 花巻市埋蔵文化財調査報告書第23集
- 花巻市教育委員会 2001 『花巻市内遺跡発掘調査報告書（久田野Ⅱ遺跡・熊堂古墳群・下坂ⅠⅡ遺跡・花巻城跡・榎子館跡）』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 花巻市教育委員会 2002 『花巻市内遺跡発掘調査報告書（久田野Ⅱ遺跡・西宮野目遺跡・花巻城跡・先皇遺跡）』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第27集
- 花巻市教育委員会 2003 『花巻市内遺跡発掘調査報告書（久田野Ⅱ遺跡・花巻城跡・先皇遺跡）』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第29集
- 花巻市教育委員会 2000 『鹿野遺跡発掘調査報告書』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第24集
- 花巻市教育委員会 2002 『不動Ⅱ遺跡第4次発掘調査報告書』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第28集
- 花巻市教育委員会 2003 『不動Ⅱ遺跡第5次発掘調査報告書』  
花巻市埋蔵文化財調査報告書第30集
- 岩手県教育委員会 2000 『遺跡台帳 平成12年度』

## 第3章 調査の概要と整理方法

### 第1節 調査と整理の経過

発掘調査は、平成15年4月8日から6月19日まで行った。

4月8日午後、発掘機材を搬入し、プレハブ事務所・休憩所等の環境整備を行う。

9日には、A地区において前年度生涯学習文化課が実施した試掘トレンチの状況確認を行ったところ、開鑿により上層は削平され、遺物包含層は存在せず、表土（耕作土）下が遺構検出面と判明したため、表土除去は重機を使用することとした。

翌10日には前年度中においては未買収のため範囲確認のできなかったB地区（対象約3,000㎡）の試掘を開始したが、近現代の水田造成による厚い盛土の存在や低位の湿地帯では湧水により、人力での続行は困難と判断し、翌週から重機により行った。その結果、およそ二割の面積、約600㎡のトレンチからは遺構・遺物とも検出されなかったことから、B地区は遺跡範囲外と判断され、A地区のみ本調査対象範囲となった。

22日には基準杭の委託打設実施。

23日には重機及び人力による粗掘と遺構検出作業を終了。見込み以上の遺構数が検出され、5月末での調査終了はやや困難と思われた。

翌24日からは遺構精査を開始したが、天候不順と連休期間ということもあって、本格的な精査は5月の連休明けとなった。

5月中は精力的に精査を行ったが、連休もあって実際の作業日数が少なく、また阿部調査員が新任研修のため不在日が多かったことと、さらに精査の進行に伴い、遺構、特に陥穴が増加したことにより、5月末での調査終了は不可能との判断から委託者に状況説明を行い、期間を二週間ほど延長することとなった。

5月26日午後6時過ぎ、震度5を超える三陸南沖地震発生。現場には支障はなかったものの、事務所内はやや荷物が散乱した状態になった。

6月7日、現地説明会開催。参加者約150名。

9日には、本来、木遺跡の調査終了後の6月初めから開始する予定であった隣接する高木古館の調査着手に伴い、阿部調査員と作業員8名が先発する。

10日、生涯学習文化課・委託者立会いの下、終了確認が行われる。

18日、発掘機材を高木古館に移送。

19日、野外調査をすべて終了し、全員が高木古館に移動する。

整理作業は11月1日から平成16年3月31日まで行った。

11月中は、作業員2名体制で図面整理と台帳整備、柱穴群の計測、野外調査の写真整理などを行った。

12月からは3名体制となり、作業は土器類の注記・接合・復元を主体とし、保存処理委託のための鉄製品の実測を優先して行った。遺構第2原図作成開始。

1月からは各種遺物の実測と遺構トレース開始。下旬には遺物写真撮影を行う。

2月中も前月に引き続き作業を行い、下旬からは遺物実測図のトレースを開始。

3月には、各種図版作成、下旬には収納作業を行い、31日をもって整理作業をすべて終了した。

## 第2節 調査方法

### (1) グリッドの設定 (第8図)

グリッドの設定は、今回調査が行われた区域のみならず、上台Ⅱ遺跡の全体をカバーできるように国家座標第X系にあわせて設定したが、事業計画時の図面が日本測地系によるものであったため、これに従った。区割りは調査区外となったが北西隅を原点とし、40m間隔で西から東に向かいⅠ、Ⅱ、Ⅲ…と昇順するローマ数字を、北から南にA、B、C…と昇順するアルファベット大文字を当てて大グリッドを設定し、更に各大グリッドを4m間隔で10等分して同様に西から東に1~10と昇順するアラビア数字を、北から南にa~jと昇順するアルファベット小文字を当てて、これらの組み合わせで小グリッドを表すこととした。実際に現場作業を行なう上では、便宜上北西隅の杭にグリッド名を記入し、ⅠA-2bというように呼称した。原点とした日本測地系による国家座標第X系における座標値は以下の通りである。

$$X = -68,250.000 \quad Y = 26,940.000$$

また、調査時にグリッドの設定を行なう際には、調査区域内にあるグリッド交点を便宜的に基準点として使用するために、基準点の測量打設は委託し、調査の進行に従い、必要に応じて実際の杭の打設をして区割・グリッド設定を行なった。調査における基準点として使用した座標値は以下の通りである。

$$\text{基点1} \quad X = -68,414.000 \quad Y = 27,060.000 \quad (\text{世界測地系 } X = -68,105.884 \quad Y = 26,760.013)$$

$$\text{基点2} \quad X = -68,414.000 \quad Y = 27,048.000 \quad (\text{世界測地系 } X = -68,105.884 \quad Y = 26,748.013)$$

### (2) 掘掘と精査

掘掘は、A地区では岩手県教育委員会が平成14年度に実施した試掘トレンチの土層断面を確認したところ、開掘時の削平により遺物包含層は消失しており、表土(耕作土)下が遺構検出面となっていたため1層耕作土は重機を使用して除去することとした。B地区では当初人力による試掘を行ったが、近現代の水田造成のためと思われる厚い盛土が確認されたことから、重機と人力を併用して行ったが、遺構・遺物が検出されなかったことから、本調査の実施には至らなかった。

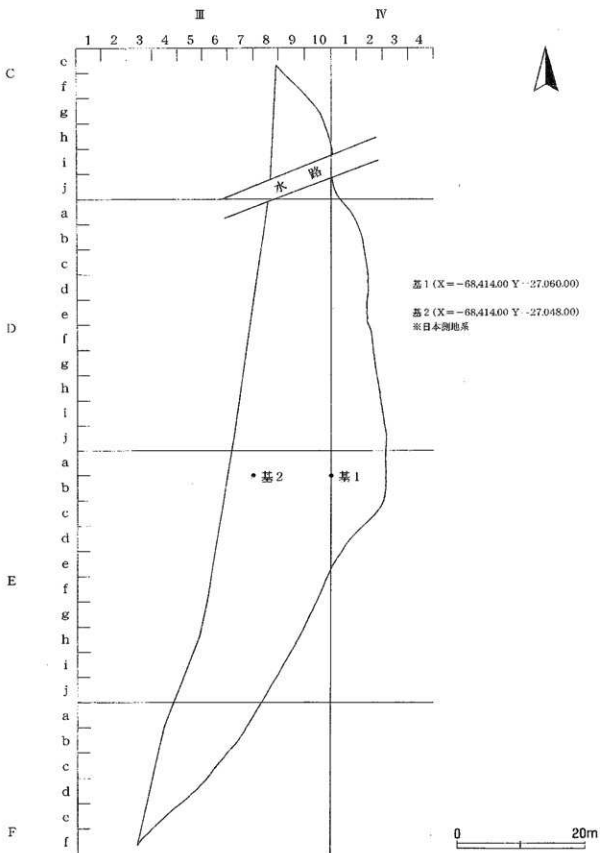
精査は、基本的には竪穴住居及び竪穴状遺構は4分法、陥し穴・土坑類は2分法による覆土の観察を行ったが、重複あるいは不明瞭なプランについては適宜複数のベルトを設定して掘り下げを行った。溝跡については適宜間隔をもってベルトを設定して横断面で覆土の観察を行った。

遺物の取り上げは、遺構外出土についてはグリッド・層位を記入し、遺構内では遺構名と埋土層位を記入し、出土地点を計測した遺物については遺構内外とも取り上げ番号も記入した。

### (3) 遺構の記録

遺構の記録は主に実測図と写真撮影により、作図に表現できない場合はフィールドカードに記録している。図面は、遺構の平面形や焼土・炭化物範囲、遺物出土状況等を記録した平面図、及び遺構の断面形、覆土の堆積状態を記録した断面図と適宜エレベーション図も作成した。作図は簡易遣り方測量を準用し、精査途中で必要に応じて作図記録している。その縮尺は原則的には1/20とし、カマド・炉跡・焼土などの微細図が必要なものについては適宜1/10で作図した。

写真は、遺構検出時の確認状況、埋土堆積状態、遺物出土状況、完掘状態というように精査の段階毎に必要なに応じて撮影を行っている。フィルムは35mmのモノクロリバーサル、さらにモノクロについては6×7判のものも使用した。また、遺跡遠景と調査終了全景は航空写真撮影を行った。



第8図 グリッド配置図

### 第3節 整理方法

図面の点検・遺物の洗浄は、原則的に現場で野外調査と並行して行うこととしたが、期間の後半は煩雑な調査に追われ、一部は野外調査終了後に行った。

#### (1) 遺構図面

遺構図面は、点検後必要に応じて第2原図を作成した。挿図中の縮尺は、竪穴住居跡・竪穴状遺構は1/60、掘立柱建物跡は1/80、カマドと住居地床跡は1/30、加跡・焼土遺構は1/20、陥し穴・土坑類は1/40、溝跡と柱穴群の平面図は1/80、竪穴住居等の床面施設（土坑類）・溝跡などの断面は1/40を原則とし、スケールを付している。なお、使用したスクリーン・トーンは凡例のとおりである。

#### (2) 遺物

遺物は洗浄後、全出土遺物を点検し、遺構内外の種別毎に仕分けを行い、注記・接合・復元と作業を進め、実測や採拓の必要なものを選択した後に登録した。報告書に掲載した遺物は、登録した中からさらに選択して実測・トレース・写真撮影・図版作成と作業を進めた。作業は、調査員が仕事の計画と指示・点検、作業員が実際の仕事というように分弁している。

報告書に掲載した遺物の選択基準は、土器は完形品と接合復元したもので器形がおよそ把握できるものとし、遺構内出土のうち土器の少ない遺構では口縁部と底部破片を選択することとしたが、小破片が多く、結果的に竪穴住居跡4棟から出土したものがほとんどを占めている。遺構外出土では、主に地文や文様の比較の明瞭な縄文土器の口縁部破片を抽出した。

上製品と石器・石製品類は、微小な砕片と木製品を除く全点を掲載し、羽口の装着角度の割り出しは、凡例に示したように先端の熱変色範囲をもとに測定した。

金属製品（鉄製品）は遺構内出土から器種の判別可能なものを選択して掲載し、保存処理を外部委託した。

鉄滓類は外表面的な性質及び磁着の有無とメタルチェッカー反応により分類し、写真のみを掲載した。作業にあたってはタジマツール製の強力磁石（ピックアップ：PUP-M）と埋蔵文化財用特殊金属探知機（鉄塊系遺物対応調整）（MR・5013（L型））を使用した。

挿図中の縮尺は土器と縄石器及び石製品、土製品のうち羽口は1/3、上製品（土錘）、剥片石器、鉄製品は1/2を原則としたが、任意の縮尺についてはスケールに付している。なお、上石器の反転実測は1/4以上が残存するものとし、それ以下のものでは表裏実測をしたものは断面の左側に外面、右側に内面を示し、須恵器の両面採拓したのものについては断面の右側に外面、左側に内面を示した。また、掲載した遺物の番号はすべて通しの番号としている。

#### (3) 写真

野外調査中に撮影した写真は、撮影順に対応するようにフィルムの規格毎にモノクロはネガアルバムに、リバーサルはスライドファイルに整理をして台帳に記載した。

遺物は登録したものを鉄製品、土器類、土製品、石器・石製品類、鍛冶関連遺物（鉄滓類・羽口）の順に35mmフィルムで撮影し、同様に整理を行った。なお、遺物の写真撮影は当センターの写真技師が行った。



## 第4章 検出遺構と出土遺物

今回の発掘調査では縄文時代、古代（平安時代）、時期不明の遺構と遺物、及び弥生時代と近世の遺物を検出した。ただし、出土した遺物から時期の明確な遺構、遺物は出していないが形跡やプランの確認状況などから時期が判断された遺構、時期の明確な遺構との重複関係から時期が判断されたものなどであり、必ずしも統一された明確な根拠に基づくものではない。各時期の遺構の種類と数量は以下のとおりである。

### （縄文時代）

陥し穴 31基（SKT01、03、04、07～29、30AB、31～33）

### （古代（平安時代））

孤立柱建物跡	2棟（SB01、02）	柱穴群	約400基
竪穴住居跡	4棟（S101～04）	竪穴状遺構	2棟（SK101、02）
土坑	23基（SK03、04、13、14、16、17、21、22、24、26、30、31、33、37、47、48、50、51、53、55～58）		
炉跡・焼土遺構	3基（SN01、04、07）	溝跡	3条（SD01、03、04）

### （時期不明）

上坑	22基（SK05、07～09、11、19、20、23、25、27、28、32、34、38～43、45、52、54）		
焼土遺構	4基（SN02、03、05、06）	溝跡	1条（SD02）

## 第1節 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構としては、陥し穴のみ検出された。分布状況としてはほとんどが微高地上に占地しているが、北及び南部と東側微高地の縁辺部には少なく、中央部に集中的に位置する傾向にある。狩猟場という性格上、遺構内外を問わず出土遺物は極めて少ない。

### （1）陥し穴

#### SKT 01 陥し穴（第10図、写真図版3）

微高地北側のⅢD-8dグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.45m、幅約45cm。底部では長軸長約1.8m、幅約10cmの短い溝状を呈し、長軸両端下部が未広がりとなっている。長軸方向は北北東-南南西にあり、東側微高地縁辺とはほぼ平行方向にある。検出面からの深さは約1mを割り、短軸両側1:1位の壁はやや外反する。底面は両端が緩やかに幾分高くなるが、概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は5層に細分され、上半と最下層には流人と思われる黒ボク土。下位には壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 03 陥し穴（第10図、写真図版3）

微高地中央東側のⅣD-1hグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.25m、幅約50cm。底部では長軸長約1.4m、幅約27cmの幅の狭い精円形を呈し、長軸両端下部



第9図 遺構配置圖

が末広がりとなっている。長軸方向はおおよそ北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.7mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は9層に細分され、上位と最下層には流入と思われる黒ボク土、下位には壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 04 陥し穴 (第10図、写真図版3)

微高地中央東側のIVD-1hグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.3m、幅約50cm、底部では幅約30cmの幅の狭い楕円形を呈し、長軸方向では両端中位が長さ約1.6mと最も広く、袋状となっている。SKT03と平行に隣接し、長軸方向はおおよそ北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.7mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は5層に細分され、上半と最下層には流入と思われる黒ボク土、下位には壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 07 陥し穴 (第10図、写真図版3)

微高地中央のIID-9hグリッドに位置し、調査区中央の畦道のIII層上面で検出した。SK21・SD02と重複し、両遺構と柱穴に切られる。平面形・規模は、開口部で長軸長約3.3m、幅50~60cm、底部では長軸長約3.7m、幅約17cmの溝状を呈し、長軸両端下部が末広がりとなっている。長軸方向は東-西にあり、東側微高地縁辺とは直行方向になる。検出面からの深さは約1mを測り、短軸両側上位の壁はやや外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は4層に細分され、上~中位と最下層には流入の黒ボク土、下位には壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 08 陥し穴 (第11図、写真図版3)

微高地南側のIVE-1aグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.45m、幅約50cm、底部では長軸長約1.35m、幅約25cmの幅の狭い楕円形を呈する。長軸方向は北北西-南南東にあり、東側微高地縁辺とはほぼ平行方向になる。検出面からの深さは約0.6mを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は7層に細分され、上半と最下層には流入と思われる黒ボク土、下位には壁崩落の褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 09 陥し穴 (第11図、写真図版3)

微高地南側のIII E-9・10aグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。SK56と重複し、本遺構がこれと柱穴に切られる。平面形・規模は、開口部で長軸長約2.4m、幅30~70cm、底部では長軸長約2.45m、幅約15cmの溝状を呈する。長軸両端下部はおおよそ末広がりとなっているが、西端では崩落によるものか壁中位が挟れていた。長軸方向は東-西にあり、東側微高地縁辺とは直行方向になる。検出面からの深さは約1.1mを測り、東半では短軸両側上位の壁は外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は5層に細分されるが、全体的に黄褐色系土の人為的堆積と思われる。

遺物は出土しなかった。

#### SKT 10 陥し穴 (第11図、写真図版3)

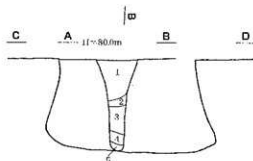
微高地南側のIII E-9・10aグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。SK37・57と重複し、本遺構がこれらと柱穴に切られる。平面形・規模は、開口部で長軸長約2.35m、幅約50cm、底部では長軸長約2.9m、幅約18cmの溝状を呈し、長軸両端下部が末広がりとなっている。SKT09と隣接して並行し、長軸方向は東-西にあり、東側微高地縁辺とは直行方向になる。検出面からの深さは約1mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は7層に細分される

SKT 01

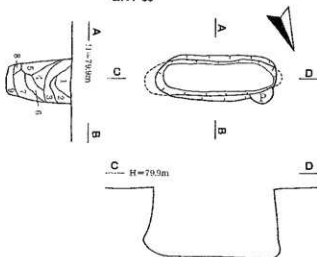


SKT 01

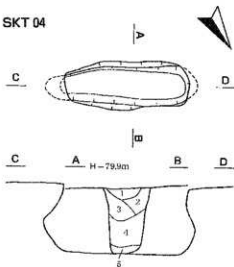
1. 10YR 2 / 3 (茶褐色) 腐り・粘性有、地山粒少量、炭化物微量
2. 10YR 6 / 6 (黒褐色) 腐り無、粘性有、地山粒少量
3. 10YR 4 / 6 (褐色) 腐り無、粘性有、地山粒少量
4. 10YR 4 / 4 (褐色) 腐り無、粘性有、地山粒少量
5. 10YR 3 / 3 (暗褐色) 腐り無、粘性有



SKT 03



SKT 04



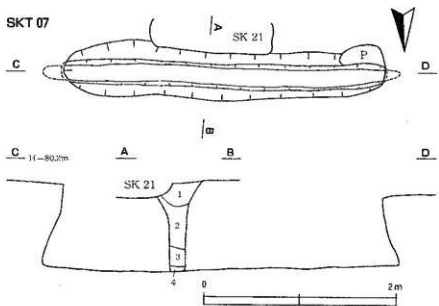
SKT 03

1. 10YR 2 / 3 (茶褐色) 腐り・粘性有、地山粒少量
2. 10YR 3 / 4 (暗褐色) 腐り・粘性有、地山粒少量
3. 10YR 3 / 3 (暗褐色) 腐り・粘性有、地山粒少量
4. 10YR 4 / 3 (褐色) 腐り・粘性有、炭褐色土少量
5. 10YR 5 / 6 (暗褐色) 腐り・粘性有
6. 10YR 3 / 4 (暗褐色) 腐り・粘性有、炭褐色土少量
7. 10YR 5 / 6 (暗褐色) 腐り有、粘性有、炭褐色土少量
8. 10YR 5 / 8 (暗褐色) 腐り有、粘性有
9. 10YR 3 / 4 (暗褐色) 腐り有、粘性やや有

SKT 04

1. 10YR 2 / 3 (茶褐色) 腐り有、粘性無、地山
2. 10YR 4 / 4 (褐色) 腐り・粘性有、雲母色土微量
3. 10YR 3 / 4 (暗褐色) 腐り・粘性有、地山粒少量
4. 10YR 5 / 6 (暗褐色) 腐り・粘性有、炭褐色土微量
5. 10YR 3 / 4 (暗褐色) 腐り・粘性有

SKT 07

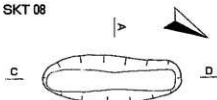


SKT 07

1. 10YR 2 / 3 (茶褐色) 腐りやや有、粘性有、地山粒微量
2. 10YR 4 / 6 (褐色) 腐りやや有、粘性有、黒ボク土混じり
3. 10YR 4 / 4 (褐色) 腐り無、粘性有、黒ボク土混じり
4. 10YR 3 / 3 (暗褐色) 腐り無、粘性有

第10図 SKT 01・03・04・07 陥し穴

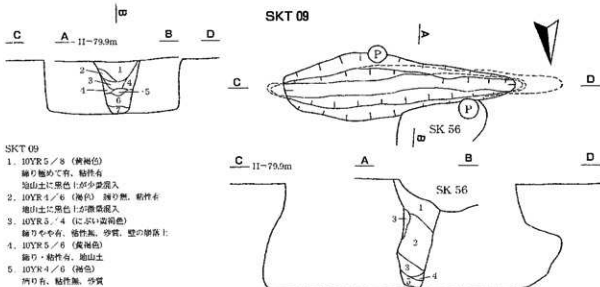
SKT 08



SKT 08

1. 10YR2/3 (黒褐色) 締りやや有、粘性强、地山微少量
2. 10YR3/3 (暗褐色) 締りやや有、粘性强、黒ボク土感じり
3. 10YR4/6 (褐色) 締りやや有、粘性强
4. 10YR3/4 (暗褐色) 締り無、粘性强、黒ボク土感じり
5. 10YR3/2 (黒褐色) 締り無、粘性强
6. 10YR4/4 (褐色) 締り無、粘性强、夏の明露上
7. 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 締り無、粘性强

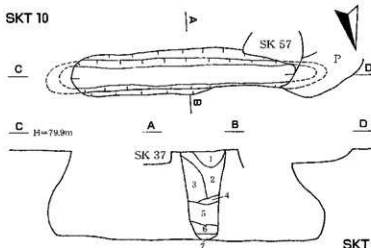
SKT 09



SKT 09

1. 10YR5/8 (黄褐色) 締り極めて有、粘性强  
地山土に黒色土が少量混入
2. 10YR4/6 (褐色) 締り無、粘性强  
地山土に黒色土が微量混入
3. 10YR3/4 (にぶい黄褐色) 締りやや有、粘性强、砂質、壁の崩落上
4. 10YR5/6 (黄褐色) 締り・粘性强、地山土
5. 10YR4/6 (褐色) 締り有、粘性强、砂質

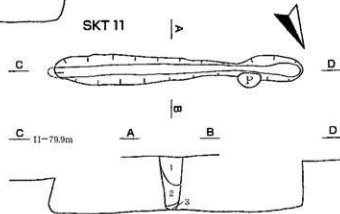
SKT 10



SKT 10

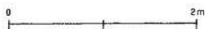
1. 10YR3/3 (暗褐色) 締り極めて有、粘性强、地山土感じり
2. 10YR4/4 (褐色) 締り極めて有、粘性强  
地山土に黒色土が少量
3. 10YR4/6 (褐色) 締り極めて有、粘性强  
地山土に黒色土が微量
4. 10YR2/3 (黒褐色) 締りやや有、粘性强
5. 10YR4/4 (褐色) 締り極めて有、粘性强  
地山土に黒色土が少量
6. 10YR5/4 (にぶい黄褐色) 締り・粘性强、砂質
7. 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 締り・粘性强、砂質、黒色土微量

SKT 11



SKT 11

1. 10YR3/4 (暗褐色) 締り・粘性强、地山土・黒ボク土の感じり
2. 10YR4/6 (褐色) 締り・粘性强、地山土の崩落
3. 10YR5/4 (にぶい黄褐色) 締り有、粘性强、砂質



第11図 SKT 08~11 陥し穴

が、上位の褐色系土、下位の黄褐色系土に大別される人為的堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

#### SKT 11 陥し穴 (第11図、写真図版3)

微高地南側のⅢE-8 aグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。SKT33と重複し、木遺構がこれと柱穴に切られる。平面形・規模は、開口部で長軸長約2.6m、幅約30cm、底部では長軸長約2.65m、幅約10cmの溝状を呈し、長軸東端下部がやや末広がりとなっている。長軸方向はおよそ北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.55mを測り、壁は全体的にほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は3層に分層され、上位に流入と思われる黒ボク土、下位には壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 12 陥し穴 (第12図、写真図版4)

微高地南側のⅢE-9・10 bグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。柱穴に切られる。平面形・規模は、開口部で長軸長約2.4m、幅約30cm、底部では長軸長約2.85m、幅約10cmの溝状を呈し、長軸両端下部が末広がりととなっている。南北に4mほど離れて並行するSKT09・15の中間に位置して長軸方向は東-西にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.7mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は9層に細分され、流入と壁崩落の繰り返しと思われる黒ボク土と褐色系土が互層となって堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 13 陥し穴 (第12図、写真図版4)

微高地南側のⅢE-9 bグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約2.85m、幅約30cm、底部では長軸長約3m、幅約15cmの溝状を呈し、長軸両端下部が末広がりととなっている。長軸方向は北西-南東にあり、東側微高地縁辺とはやや直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.7mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は3層に分層され、最上位と最下層に流入と思われる黒ボク土、ほとんどは壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

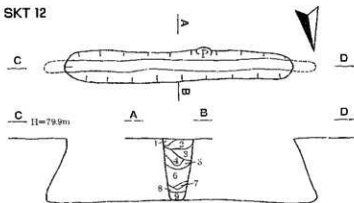
#### SKT 14 陥し穴 (第12図、写真図版4)

微高地南側のⅢE-9 cグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。検出当初は陥し穴(SK T15)と土坑(SK T14)の重複と考えられたものだが、精査の結果、両遺構とも陥し穴と判明した。木遺構が切られる。西端がSK T15によって破壊されており全容は不明だが、残存部の状況から平面形・規模は、開口部で長軸長約1.55m、幅約50cm、底部では幅約30cmの幅の狭い楕円形を呈すると推定される。長軸方向はおよそ北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.9mを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、東側では崩落によるものかやや袋状を呈する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は6層に細分され、流入と壁崩落の繰り返しと思われる黒ボク土と褐色系土が互層となって堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 15 陥し穴 (第12図、写真図版4)

微高地南側のⅢE-9 cグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。上記SK T14を切り、柱穴に切られる。重複するSK T14と同時に掘り下げを行ったため詳細は不明となってしまったが、残存部と断面の観察から平面形・規模は、開口部で長軸長約2.15m、幅約40cm、底部では長軸長約2.5m、幅約15cmの溝状を呈すると思われ、長軸両端下部、特に東側が大きく末広がりととなっている。長軸方向は東-西にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.9mを測り、短軸両壁上半はやや外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は6層に細分され、流入と思われる黒ボク土と

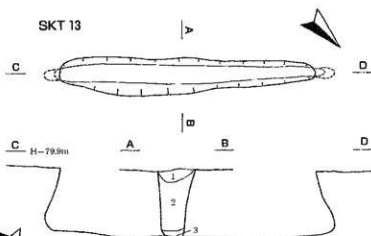
SKT 12



SKT 12

1. 10YR 3/4 (暗褐色)  
織り纏めて有、粘状質、砂質、地山ブロック少量
2. 10YR 3/4 (暗褐色)  
織り有、粘状質、砂質
3. 10YR 4/1 (褐色)  
焼り・粘状やや有、地山ブロック少量
4. 2.5Y 6/4 (にぶい灰)  
織り・粘状質、砂質
5. 10YR 3/3 (暗褐色)  
織り有、粘状有、地山土少量
6. 10YR 5/6 (黄褐色)  
焼り・粘状有
7. 10YR 2/3 (暗褐色) 織り有、粘状有
8. 10YR 4/6 (褐色) 焼り有、粘状やや有
9. 10YR 4/3 (にぶい黄褐色)  
織り有、粘状質、砂質

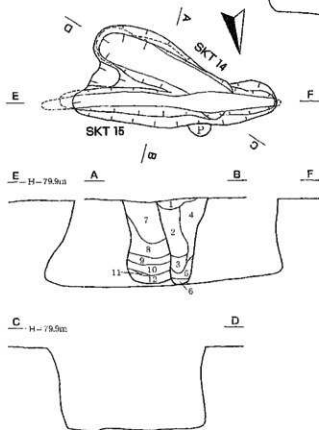
SKT 13



SKT 13

1. 10YR 3/4 (暗褐色)  
織り纏めて有、粘状有、地山土少量
2. 10YR 4/6 (褐色)  
焼り・粘状有、下部に砂質じり、地山土
3. 10YR 2/3 (暗褐色)  
織り・粘状有

SKT 14・15



SKT 15

1. 10YR 3/4 (暗褐色)  
焼り・粘状有
2. 10YR 3/3 (暗褐色)  
織り有、粘状有、地山ブロック少量
3. 10YR 4/4 (褐色)  
織り有、粘状有、地山土に黒ボク土混じり
4. 10YR 4/4 (暗褐色)  
織り・粘状有、地山土に黒ボク土混じり
5. 10YR 5/6 (黄褐色)  
織り有、粘状有、砂質
6. 10YR 3/3 (暗褐色) 織り・粘状有

SKT 14

7. 10YR 3/4 (暗褐色)  
織り・粘状有、地山土・黒ボク土の混じり
8. 10YR 4/6 (褐色)  
焼り・粘状有、地山土
9. 10YR 3/4 (暗褐色)  
焼り・粘状有、地山土・黒ボク土の混じり
10. 10YR 4/6 (褐色)  
織り・粘状有、地山土
11. 10YR 3/3 (暗褐色)  
織り・粘状有
12. 10YR 6/4 (にぶい黄褐色)  
織り有、粘状質、砂質、地山土



第12図 SKT 12~15 陥し穴

壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は地文のみの縄文土器の小破片1点が出土した。

#### SKT 16 陥し穴 (第13図、写真図版4)

調査区南側の低地に下る緩斜面、ⅢE-6 gグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.45m、幅約50cm、底部では幅約20cmの幅の狭い楕円形を呈する。長軸方向はおおよそ北-南にあり、南側微高地縁辺とは直行方向になる。検出面からの深さは約0.65mを測り、壁は全体的にやや外傾して立ち上がり、短軸両壁上位はやや外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は3層に分層され、上半と最下層は流入と思われる黒ボク土、中位には壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 17 陥し穴 (第13図、写真図版4)

微高地中央部のⅢD-9 fグリッドに位置し、S I 02精査時に床面で確認した。本遺構が切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約1.45m、幅約18cm、底部では長軸長約1.75m、幅約7cmの短い溝状を呈し、長軸両端下部は未広がりととなっている。長軸方向は東-西にあり、東側微高地縁辺とは直行方向になる。検出面からの深さは約0.9mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は流入と思われる黒ボク土系4層に分層される。

遺物は出土しなかった。

#### SKT 18 陥し穴 (第13図、写真図版4)

微高地中央部のⅢD-7・8 iグリッドに位置し、調査区中央の畦道下のⅢ層上面で検出した。S I 04と重複し、これと柱穴に切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約2.45m、幅50~70cm、底部では長軸長約3m、幅約18cmの溝状を呈する。長軸両端下部は未広がりととなっているが、西端では崩落によるものか壁中位が抉れていた。長軸方向はおおよそ北東-南西にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約1.1mを測り、短軸中央の両側上位の壁は外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は12層に細分され、流入と壁崩落の繰り返しと思われる黒ボク土と褐色系土が互層となって堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 19 陥し穴 (第13図、写真図版4)

微高地中央部のⅢD-8 jグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。S I 04と重複し、これと柱穴に切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約2.2m、幅約20cm。底部では長軸長約2.55m、幅約10cmの溝状を呈し、長軸両端下部は未広がりととなっている。北側には近接してSKT20が並行している。長軸方向はおおよそ北東-南西にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.9mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は3層に分層されるが、ほとんど褐色系土の人為的堆積である。遺物は出土しなかった。

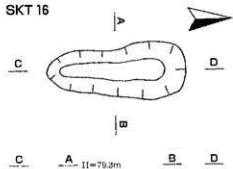
#### SKT 20 陥し穴 (第14図、写真図版4)

微高地中央部のⅢD-7・8 iグリッドに位置し、調査区中央の畦道下のⅢ層上面で検出した。S I 04と重複し、これと柱穴に切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約2m、幅30~50cm、底部では長軸長約2.1m、幅約10cmの溝状を呈し、長軸両端下部が未広がりととなっている。南北に近接して並行するSKT18・19のほぼ中間に位置して長軸方向は北東-南西にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.8mを測り、短軸両壁の上位はやや外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は5層に細分されるが、基本的には流入と思われる黒ボク土が主体をなす。

遺物は出土しなかった。



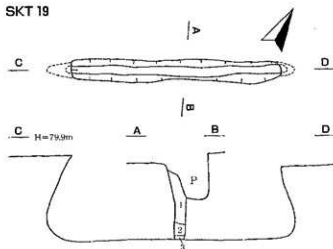
SKT 16



SKT 16

1. 10YR2/3 (黒褐色) 罫り・粘性有、地山粒微量
2. 10YR4/3 (灰土・黄褐色) 罫り・粘性有、地山粒微じり、砂質
3. 10YR3/3 (暗褐色) 罫り・粘性有、地山粒少量

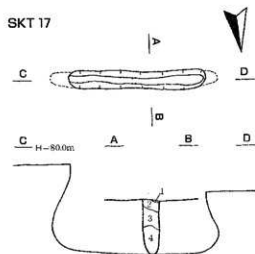
SKT 19



SKT 19

1. 10YR4/6 (褐色) 罫り極めて有、粘性有、地山
2. 10YR5/4 (灰土・黄褐色) 罫り有、粘性強、砂質、地山土
3. 10YR3/4 (暗褐色) 罫り・粘性有

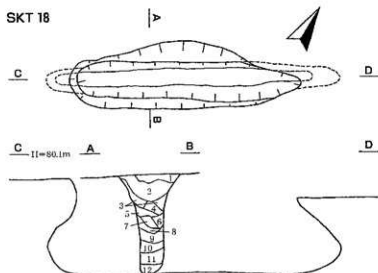
SKT 17



SKT 17

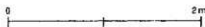
1. 5YR3/6 (暗赤褐色) 地土(S+0.04m以下)
2. 10YR3/3 (暗褐色) 罫り極めて有、粘性有、地山粒・フロッツ少量
3. 10YR2/3 (黒褐色) 罫り・粘性有、地山粒微量
4. 10YR3/4 (暗褐色) 罫り・粘性有、地山土少量

SKT 18



SKT 18

1. 10YR4/6 (褐色) 罫り極めて有、粘性有、地山土
2. 10YR2/3 (暗褐色) 罫り・粘性有、地山粒微量
3. 10YR3/3 (暗褐色) 罫り・粘性有、地山土・黒色土の混じり
4. 10YR2/2 (黒褐色) 罫りやや有、粘性有、地山土微量
5. 10YR4/4 (褐色) 罫り・粘性有
6. 10YR3/4 (暗褐色) 罫り・粘性有、地山土・黒色土の混じり
7. 10YR2/2 (黒褐色) 罫りやや有、粘性有、地山土微量
8. 10YR3/4 (暗褐色) 罫り・粘性有、地山土・黒色土の混じり
9. 10YR4/6 (褐色) 罫り極めて有、粘性有、地山土
10. 10YR3/3 (暗褐色) 罫り・粘性有、地山土・黒色土の混じり
11. 10YR4/6 (褐色) 罫り極めて有、粘性有、地山土
12. 10YR2/3 (暗褐色) 罫り強、粘性有、砂質土少量



第13図 SKT 16~19 陥し穴

#### SKT 21 陥し穴 (第14図、写真図版5)

微高地中央部のⅢD-8hグリッドに位置し、S I 04の精査時に床面で確認した。SK24とも重複し、いずれにも木遺構が切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約1.55m、幅約30cm、底部では長軸長約1.55m、幅約10cmの短い溝状を呈する。長軸方向は北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方角になる。検出面からの深さは約1.1mを測り、壁は全体的にはほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は2層に分層されるが、ほとんど褐色土の人為的堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

#### SKT 22 陥し穴 (第14図、写真図版5)

微高地中央部のⅢD-9iグリッドに位置し、S I 04の床面で確認した。木遺構が切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約2.4m、幅約15cm、底部では長軸長約2.75m、幅約8cmの溝状を呈し、長軸両端下部は未広がりとなっている。長軸方向は概ね東-西にあり、東側微高地縁辺とおよそ直行方向になる。検出面からの深さは約0.55mを測り、短軸両壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は流入と思われる黒ボク系土3層に分層される。遺物は出土しなかった。

#### SKT 23 陥し穴 (第14図、写真図版5)

微高地中央部のⅢD-9jグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。S I 04と重複し、これと柱穴に切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約2.2m、幅約20cm、底部では長軸長約2.45m、幅約10cmの溝状を呈し、長軸両端下部は未広がりとなっている。南北に近接して並行するSKT11・25のほぼ中間に位置して長軸方向はおよそ北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方角になる。検出面からの深さは約0.55mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は5層に細分され、上位と最下層には流入と思われる黒ボク土、下位には壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 24 陥し穴 (第15図、写真図版5)

微高地南端のⅢE-8dグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。SD04と柱穴と重複し、木遺構が切られる。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.4m、幅約50cm、底部では幅約15cmの短い溝状を呈する。長軸方向はおよそ北西-南東にあり、南側低地とはやや平行の方角になる。検出面からの深さは約0.8mを測り、壁は全体的にはほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は3層に分層され、上層と最下層は流入と思われる黒ボク土、中位には壁崩落と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

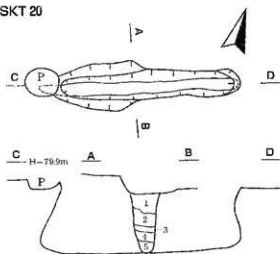
#### SKT 25 陥し穴 (第15図、写真図版5)

微高地中央部のⅢD-9jグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。S I 04と重複し、これと柱穴に切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約1.6m、幅約20cm、底部では長軸長約1.75m、幅約10cmの短い溝状を呈し、長軸両端下部は未広がりとなっている。南側にはSKT23が隣接並行し、長軸方向はおよそ北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方角になる。検出面からの深さは約0.5mを測り、短軸両壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は上位の流入と思われる黒ボク土と下位の壁崩落と思われる3層に分層される。遺物は出土しなかった。

#### SKT 26 陥し穴 (第15図、写真図版5)

微高地北側のⅢD-9bグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.25m、幅約85cm、底部では長軸長約1m、幅約45cmの楕円形を呈する。長軸方向は北西-南東にあ

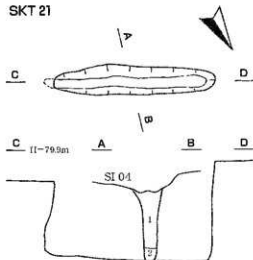
SKT 20



SKT 20

1. 10YR 3 / 3 (暗褐色) 腐り黒、粘性有、地山土少量じり
2. 10YR 3 / 2 (黒褐色) 腐り黒、粘性有、地山土少量
3. 10YR 2 / 3 (黒褐色) 腐り黒、粘性有
4. 10YR 4 / 6 (褐色) 腐り・粘性有、地山土
5. 10YR 2 / 3 (黒褐色) 腐り黒、粘性有

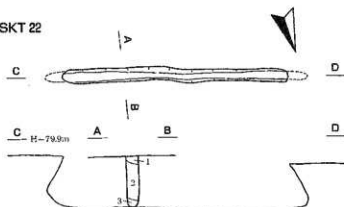
SKT 21



SKT 21

1. 10YR 4 / 6 (褐色) 腐り・粘性有、地山土
2. 10YR 2 / 3 (黒褐色) 腐り・粘性有

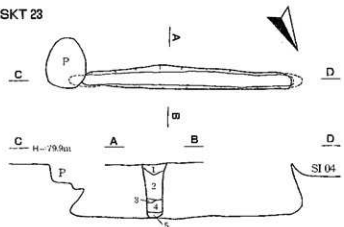
SKT 22



SKT 22

1. 10YR 4 / 6 (褐色)  
腐り腐めて有、粘性有  
地山土に黒色土少量じり
2. 10YR 3 / 4 (暗褐色)  
腐り腐めて有、粘性有、地山土少量
3. 10YR 3 / 2 (黒褐色)  
腐り黒、粘性有

SKT 23



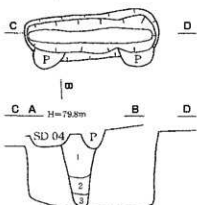
SKT 23

1. 10YR 3 / 3 (暗褐色) 腐り腐めて有、粘性有、  
地山土少量じり
2. 10YR 4 / 6 (褐色) 腐り・粘性有、地山土
3. 10YR 3 / 6 (暗褐色) 腐り・粘性有、地山土
4. 10YR 4 / 6 (褐色) 腐り・粘性有、地山土
5. 10YR 2 / 3 (黒褐色) 腐り・粘性有



第14図 SKT 20~23 陥し穴

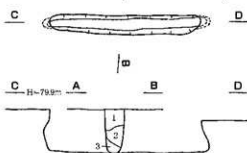
SKT 24



SKT 24

1. 10YR 3.5/4 (暗褐色) 織り・粘存有  
黒山上・灰ボク土の混じり
2. 10YR 4.5/6 (褐色) 織り・粘存有、黒山土
3. 10YR 3.5/2 (黒褐色) 織り・粘存有

SKT 25

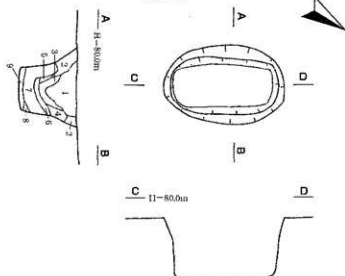


SKT 27

1. 10YR 2.5/2 (紫褐色)  
織り・粘存有、地山粘層
2. 10YR 3.5/2 (紫褐色)  
織り極めて有、粘存有、地山粘層
3. 10YR 2.5/3 (紫褐色)  
織り無、粘存有、地山上層じり
4. 10YR 2.5/3 (紫褐色)  
織りやや有、粘存有、地山上層じり
5. 10YR 4.5/4 (褐色)  
織り・粘存有、黒色土層じり
6. 10YR 5.5/6 (黄褐色)  
織り・粘存有、地山土



SKT 26



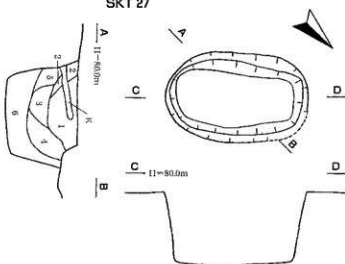
SKT 26

1. 10YR 3.5/1 (黒褐色) 織りやや有、粘存有、地山粘少量
2. 10YR 4.5/4 (褐色) 織り極めて有、粘存有、黒色土混じり
3. 10YR 3.5/4 (暗褐色) 織り無、粘存有、地山土多量
4. 10YR 4.5/6 (褐色) 織り無、粘存有、地山粘層土
5. 10YR 4.5/4 (褐色) 織りやや有、粘存有、黒ボク土少量
6. 10YR 3.5/3 (暗褐色) 織り無、粘存有、地山粘少量
7. 10YR 5.5/6 (黄褐色) 織りやや有、粘存有、黒山上
8. 10YR 4.5/6 (褐色) 織り・粘存有、黒ボク土少量、壁の軟化
9. 10YR 4.5/4 (褐色) 織りやや有、粘存有

SKT 25

1. 10YR 3.5/4 (暗褐色) 織り極めて有、粘存有、地山粘少量
2. 10YR 4.5/6 (褐色) 織りやや有、粘存有、地山土
3. 10YR 4.5/4 (褐色) 織り・粘存有、地山土に黒ボク土混じり

SKT 27



第15図 SKT 24~27 陥し穴

り、東側微高地縁辺とおよそ平行方向になる。検出面からの深さは約0.6mを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位が外反する。底面は平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は9層に細分され、上位中央には流入と思われる黒ボク土、中～下位には人為的な褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 27 陥し穴 (第15図、写真図版5)

微高地北側のⅢD-8cグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.5m、幅約95cm、底部では長軸長約1.2m、幅約55cmの楕円形を呈する。北東側にはSKT26が隣接して並行し、長軸方向は北西-南東にあり、東側微高地縁辺とはおよそ平行方向になる。検出面からの深さは約0.75mを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は6層に細分され、上～中位には流入と思われる黒ボク土、下位には人為的と思われる黄褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 28 陥し穴 (第16図、写真図版6)

微高地東側縁辺の低地に至る緩斜面、IVD-1bグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.35m、幅約70cm、底部では長軸長約1.1m、幅約30cmの幅の狭い楕円形を呈する。長軸方向は北西-南東にあり、東側微高地縁辺とはおよそ平行方向になる。検出面からの深さは約0.6mを測り、壁は鋭角的に外傾して立ち上がる。底面は平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は9層に細分されるが、流入と思われる黒ボク土を主体とする。遺物は出土しなかった。

#### SKT 29 陥し穴 (第16図、写真図版6)

微高地東側縁辺のIVD-1fグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。検出時には歪な楕円形を呈しており、壁の崩落と考えたものだが、精査の結果、南西部がSKT11との重複と判明した。本遺構が切られる。残存部での平面形・規模は、開口部で長軸長約1.8m、幅約80cm、底部では長軸長約1.3m、幅約15cmの短い溝状を呈する。長軸方向は東-西にあり、東側微高地縁辺とは直行方向になる。検出面からの深さは約0.85mを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位は外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は8層に細分され、流入と壁崩落の繰り返しと思われる黒ボク土と褐色系土が互層となって堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 30 AB 陥し穴 (第16図、写真図版6)

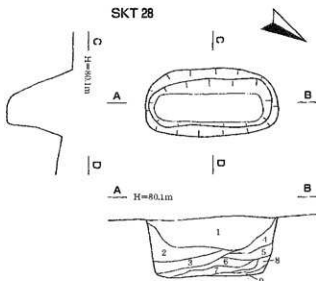
微高地東側縁辺のIVD-1gグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。検出時には歪な楕円形を呈しており、壁の崩落と考えられたものだが、精査の結果、陥し穴2基の重複と判断した。北側にはSKT29が並行して隣接する。断面観察からAが新しいと思われるが、一括して掘り上げたため詳細は不明である。

残存部から推定されるAの平面形・規模は、開口部で長軸長約1.4m、幅約55cm、底部では長軸長約1.1m、幅約20cm前後の幅の狭い楕円形で、長軸方向はおよそ東-西にあり、東側微高地縁辺とはおよそ直行方向になる。検出面からの深さは約0.8mを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。

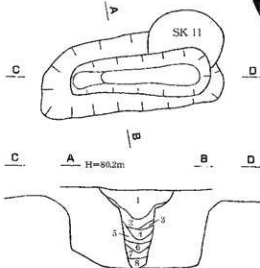
同じくBの推定される平面形・規模は、開口部で長軸長約1.5m、幅約60cm、底部では長軸長約1.15m、幅約20cm前後の幅の狭い楕円形で、長軸方向は東-西にあり、東側微高地縁辺とは直行方向になる。検出面からの深さは約0.85mを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位は外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土はA・B一括して7層に細分されるが、上位と最下層が流入と思われる黒ボク土、下位は人為的な褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

SKT 28

1. 10YR 2 / 1 (黒色)  
腐り跡、粘性極めて高
2. 10YR 3 / 2 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性極めて高、地山砂少量
3. 10YR 2 / 2 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性極めて高
4. 10YR 3 / 2 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性極めて高、地山砂少量
5. 10YR 2 / 2 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性極めて高、地山ブロック状
6. 10YR 2 / 3 (黒褐色)  
腐り・粘性高、地山粘塊状
7. 10YR 5 / 6 (黄褐色)  
腐り・粘性高、地山土
8. 10YR 3 / 1 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性極めて高
9. 10YR 4 / 6 (黒色)  
腐り・粘性高、黒色土少量混入



SKT 29

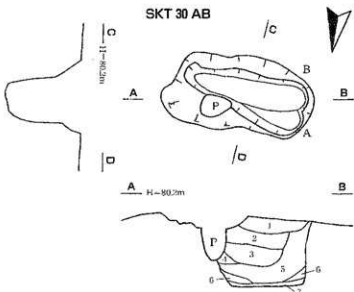


SKT 30 AB

1. 10YR 3 / 1 (黒褐色)  
腐り・粘性高
2. 10YR 3 / 1 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性高、地山粒電気
3. 10YR 3 / 3 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性高、地山土少量
4. 10YR 5 / 6 (黄褐色)  
地山ブロック
5. 10YR 3 / 4 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性高、地山土多量
6. 10YR 5 / 6 (黄褐色)  
地山ブロック
7. 10YR 3 / 2 (黒褐色)  
腐りや粘り、粘性高



SKT 30 AB



第16図 SKT 28・29・30 AB 陥し穴

#### SKT 31 陥し穴 (第17図、写真図版6)

微高地中央部のⅢD-10hグリッドに位置し、調査区中央の畦道下のⅢ層上面で検出した。S I 03と重複し、本遺構が切られる。検出時の円形プランでは上坑と考えたものだが、精査の結果、形態的に陥し穴と判断したものである。平面形・規模は、開口部径約1.25m、底部径約70cmの円形を呈し、検出面からの深さは約1.1mを測り、断面形は壁がやや外傾する円筒状を呈する。底面は平坦で、中央には径・深さとも約15cmを測る逆茂木痕と思われる柱状ヒットが1基確認された。埋土は8層に細分されるが、上～中位には流入と思われる黒ボク土、下位には人為的と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### SKT 32 陥し穴 (第17図、写真図版4・6)

微高地南側のⅢE-10bグリッドに位置し、削平されたⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.2m、幅約65cm、底部では幅約20cmの短い溝状を呈し、長軸西端下部は幾分袋状となっている。南側にはほぼ等間隔で平行に並びSKT14・33が位置し、長軸方向はおよそ北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.85mを測り、短軸向壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南側上位は崩落によるものか段状を呈する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は6層に細分され、上位には流入と思われる黒ボク土、下位には人為的と思われる褐色系土が堆積する。

遺物は出土しなかった。

#### SKT 33 陥し穴 (第17図、写真図版6)

微高地南側のⅢE-9・10bグリッドに位置し、削平されたⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.45m、幅約70cm、底部では長軸長約1.45m、幅約20cmの幅の短い溝状を呈し、長軸西端下部は未広がりとなっている。南北西側には等間隔で並行するSKT14・32が位置し、長軸方向はおよそ北西-南東にあり、東側微高地縁辺とは直行気味の方向になる。検出面からの深さは約0.95mを測り、短軸向壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上位は崩落によりかなり外反する。底面は概ね平坦で、逆茂木等の杭痕跡は認められない。埋土は5層に細分され、上位と最下層には流入と思われる黒ボク土、中～下位には人為的と思われる褐色系土が堆積する。遺物は出土しなかった。

#### (2) 出土遺物 (第18図、写真図版23)

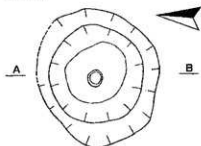
縄文時代の遺物は、土器・石器とも遺跡全体が削平されていることと狩猟場という性格上極めて少なく、総量でも小コンテナ(35×45×10cm)半箱分にも満たない。出土状況としては、畦道下に残ったⅡ層中出土のものや古代の遺構に伴うものも含め、基本的にはすべて遺構外からの出土である。

土器は約50点ほどが出土したが、ほとんどが耕作土中から出土し、すべて破片資料で摩滅したものが多く、地文(単節縄文)のみの体部小破片がほとんどを占め、時期を特定できたものは畦畔下からの掲載した晚期中葉と思われるもの4点(図番1～4)のみである。

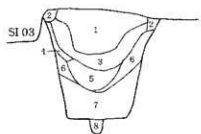
また、弥生土器の蓋と思われる破片が1点(図番5)のみ出土した。

石器類は不定形のスクレイパー3点とフレーク10数点、磨製石斧・凹石が各1点出土し、スクレイパーは成形・加工されたものではなく、すべて使用による微細な剝離痕が認められるものである。磨製石斧は半損しており、刃部は使用による刃こぼれの欠損が認められる。

SKT 31



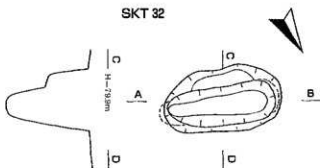
A H=80.1m B



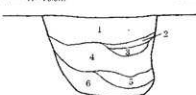
SKT 31

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有
2. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山土混じり
3. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山土少量
4. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山土少量
5. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、地山土少量
6. 10YR 4/4 (褐色) 締り・粘性有、葉ボク七混じり
7. 10YR 4/6 (褐色) 締り・粘性有
8. 10YR 4/6 (褐色) 締り・粘性無、砂質

SKT 32



A H=79.9m B

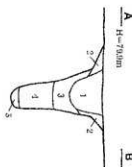


SKT 32

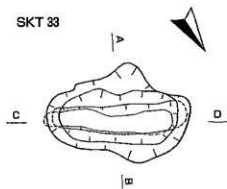
1. 10YR 2/3 (紫褐色) 締り・粘性有、地山土混雑多
2. 10YR 2/3 (紫褐色) 締り・粘性有
3. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、地山土混じり
4. 10YR 4/6 (褐色) 締り・粘性有、地山土
5. 10YR 4/1 (褐色) 締り・粘性有、地山土に黒色土混じり
6. 10YR 5/4 (灰黒・黄褐色) 締り・粘性無、砂質

SKT 33

1. 10YR 2/3 (紫褐色) 締り・粘性有、地山土混雑多
2. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、地山土少量
3. 10YR 4/6 (褐色) 締り・粘性有、地山土
4. 10YR 5/6 (黄褐色) 締り・粘性無、砂質、地山土
5. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有



SKT 33

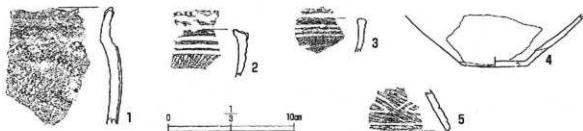


C H=79.9m D

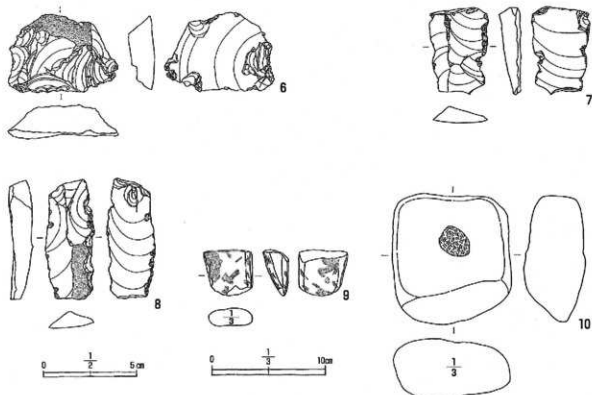


第17図 SKT 31~33 船し穴





図番	出土位置・層位	原料	部位	文様の特徴	時期
1	SKP 19層土	浮鉢	口縁部	庄直の小山形口縁、口縁部無文、施文のみ、L R、横付層	前期中葉大器C2
2	SKI 02・東塚土	鉢	口縁部	口縁部半浮彫的突起列、口縁部平行沈線、意洞施文？、L R	前期中葉大器C1
3	SKI 02・北塚土	鉢	口縁部	口縁部沈線・筋み、口縁部平行沈線、施文意洞不明	前期中葉大器C1
4	SKP 19層土	浅鉢	口縁部	外周三方キ	後期中葉
5	SKI 02・北塚土	蓋？	口縁部	口唇部より糸状痕、沈線文、筋り糸文	後期中葉



図番	出土位置・層位	原料	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・産地
6	後埜	不定形	4.1	5.6	1.3	35.7	真砂・美羽山産
7	T4 南首屋 (褐色)	不定形	4.6	3.1	0.05	17.7	真砂・美羽山産
8	T4 南首屋 (褐色)	不定形	6.3	2.5	0.05	12.9	真砂・美羽山産
9	SKI 01・北塚塚土	磨製石片	3.6	3.8	1.35	37.0	砂礫岩・北上山地
10	SI 02・S1	白石	10.2	9.2	4.8	749	安山岩・美羽山産

第18図 縄文時代の遺物

## 第2節 古代の遺構と遺物

古代の遺構としては、竪穴住居跡4棟、竪穴状遺構2棟、掘立柱建物跡2棟、柱穴状土坑約100基、土坑23基、炉跡・焼土遺構3基、溝跡3条などがある。分布状況としては、すべて微高地上に立地し、柱穴群を除いてはほとんど重複せず、さらに土坑類を除いては微高地上に分散しており、竪穴住居跡・竪穴状遺構や掘立柱建物跡などは規則性の認められる配置状況となっている。遺物は微高地全体が削平されたこともあって全体量としてはあまり多くはないが、竪穴住居跡から出土したものが大コンテナ(35×45×30cm)4箱分以上と約八割強を占め、住居単位では比較的多く出土している。

なお、遺物については各遺構の事実記載において出土状況についてのみ記載し、遺物個々の法量等の詳細については主に観察表に示すこととし、(5)出土遺物の頁で一括して概要等を記述する。

### (1) 竪穴住居跡・竪穴状遺構

#### SI 01 竪穴住居跡 (第19・20図、写真図版7・24)

調査区北端の微高地上の縁辺、ⅢC-9gグリッド杭を中心に位置し、掘り込み面はⅢ層上面である。西側の大半が調査区外にかかり、また畦道下の北東部以外は樹根により削平され、全容は不明である。平面形・規模は、確認された東壁長から、一辺4m前後の隅丸略方形を呈し、床面積は約14㎡ほどと推定される。主軸方位はおよそ東-西である。遺存する壁は外積して立ち上がり、畦畔下では掘り込み面からの深さは約40cmを測るが、南壁ではわずかに約5cmほどが残存する。埋土は黒ボク系土8層に細分される流入による自然堆積と思われる。床面は概ね平坦で堅締だが、貼床は施されていない。カマド前は作業によって踏み固まったものか幾分窪んでいた。床面施設としてはカマド両脇にK1・2の土坑2基を検出した。

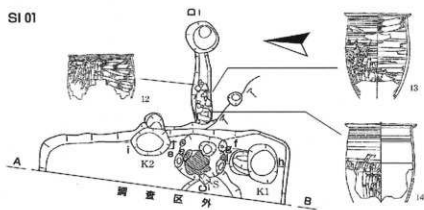
K1土坑の平面形は、円形プランが連結したダルマ形を呈し、北側頭部部分は浅く、南側体部部分は深く掘り込まれ、規模は開口部で長軸約75cm、頭部開口部で幅約40cm、底部20×8cm、深さ約10cmを測り、体部開口部は幅約60cm、底部は径約40cmの略円形で、断面形は深さ約20cmの鍋形を呈する。埋土は黒ボク土3層からなる自然堆積である。

K2土坑の平面形・規模は、開口部60×45cmの楕円形を呈し、断面形は深さ約10cmの浅い鍋形を呈する。またK2土坑東側の住居壁際には柱穴が1基と、焼道を挟んだ南側にも柱穴が1基検出され、正対しないものの屋外に位置する副柱穴と考えられる。

カマドは東壁の南寄りに付設されているが、本体部は遺存状態が悪く、架橋・芯材としてイや上器などは認められないが、袖位置で芯材に石を使用したと考えられる小ピット6基と燃焼部を検出した。燃焼部は径約70cmの略円形に浅く掘り進められ、底面中央は火熱により広さ40cmほどの不整形で、厚さ1cm未満と弱く赤色変化していた。焼土の煙道側端には支脚の抜き取り痕と思われる小ピットが1基ある。煙道は奥行き約1.2m、幅約25cmの掘り込み式でほぼ水平となっており、土師器の甕形土器2個体以上の上半部を上管状に設置していた。煙出しピットは径約50cmの円形で、煙道よりも約25cmほど深く掘り込まれていた。

遺物は、土器類は土師器の甕形土器がおおよそ3個体分と环形土器の破片少量が中コンテナ(35×45×20cm)おおよそ1箱分出土し、形状をおおよそ把握できた復元個体はカマド煙道に使用された土師器の甕形土器3点(図番12~14)とK2土坑出土の环形土器1点(図番11)である。図番13・14の甕形土器は同一個体の可能性も考えられる。このほか埋土からフレーク2点が出土した。

SI 01



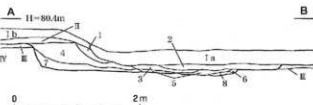
SI01 K 1

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り締めて有、粘性有、底1cmの地山ブロック多量
2. 10YR 3/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒微量
3. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り締めて有、粘性有、底土粒・炭化物微量



SI01 K 2

1. 10YR 2/1 (黒色) 締りやや有、粘性有、炭化物微量
2. 10YR 2/2 (黒褐色) 締りやや有、粘性有、炭化物・底土粒微量
3. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、底1cmの底土粒少量、炭化物微量

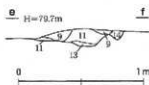
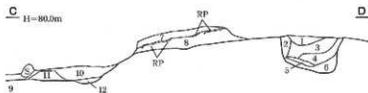


SI 01

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、土山ブロック少量
2. 10YR 3/2 (黒褐色) 締り締めて有、粘性有、地山粒少量、底土粒微量
3. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒微量
4. 10YR 3/1 (黒褐色) 締りやや有、粘性有
5. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒微めて微量
6. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、地山粒・底土粒微量
7. 10YR 3/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒少量、底土にはブロック
8. 7.5YR 2/3 (暗褐色) 締り・粘性有、底土粒少量



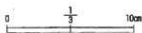
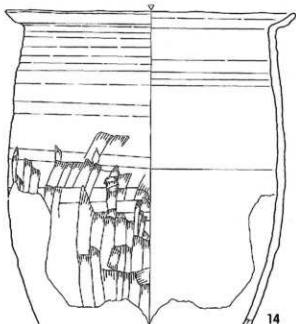
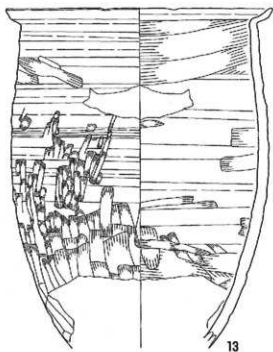
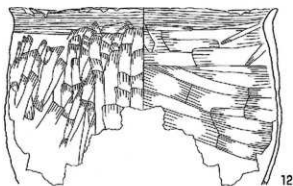
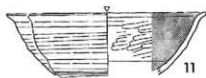
SI 01 カマド



SI 01 カマド

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 締りやや有、粘性有
2. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒少量
3. 10YR 2/1 (黒色) 締りやや有、粘性有、底土粒微量
4. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り締めて有、粘性有、底1~3cmの底土ブロック多量
5. 10YR 2/2 (黒褐色) 締りやや有、粘性有
6. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、地山土多量
7. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、底5mmの地山粒微量
8. 10YR 3/2 (黒褐色) 締り締めて有、粘性有
9. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り締めて有、粘性有、地山ブロック少量
10. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有
11. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り締めて有、粘性有、底土ブロック多量、地山粒微量
12. 5YR 3/6 (暗赤褐色) 締りやや有、粘性有、底土粒多量
13. 10YR 2/2 (黒褐色) 締りやや有、粘性有、支脚のぬきとり穴
14. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、そで石のぬきとり穴

第19図 SI 01 竪穴住居跡



図番	出土位置・層位	器種	法量 (cm)			成形	調査等 内照/外照	備考
			口径	器高	底径			
11	SI 01-K 2 埋土	土師器 杯	(15.70)	(5.0)	—	ロクロ	継ぎミガキ・内照/ロクロナデ	
12	SI 01・カマド-RP 8・埋出土	土師器 椀	(21.0)	(14.15)	—	非ロクロ	ヘラナデ/ヨコナデ→ヘラナデ	
13	SI 01・カマド-RP 5・9・12・埋土	土師器 椀	(21.0)	(27.1)	—	ロクロ	ロクロナデ→部ヘラナデ/ロクロナデ→底部下半ヘラナデ	
14	SI 01・カマド-RP 1・3・8・埋土	土師器 椀	(22.7)	(24.8)	—	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ→底部下半ヘラナデ	同一個体?

第20図 SI 01 竪穴住居跡出土遺物

## SI 02 竪穴住居跡 (第21～25図, 写真図版 8・9・24・25・34)

調査区内の微高地1.のほぼ中央、ⅡD-9 fグリッド杭を中心に位置し、削平されたⅣ層中で検出した。SKT17と重複し、本遺構が切る。また埋土中から掘り込まれた柱穴を確認している。全体的に上位は開墾による削平のため消失しているが、残存部での平面形・規模は、一辺約5m前後の隅丸略方形を呈し、床面積は約21㎡ほどを測る。主軸方位はおおよそ東-西である。壁は鋭角的に外傾して立ち上がり、遺存する壁高は約30cmを測る。埋土は15層に細分され、中央部の埋土上位(本来は中位となるが)には2次堆積と思われる火山灰(分析結果:十和田a)がブロック状に、またカマド構築上上と北西隅の埋土下位及び中央床面にかけては、廃棄されたと思われる焼土や炭化物が多く認められたが、全体的には流入による自然堆積と思われる。床面は平坦で堅締、南側中央部分には貼床が施されていた。床面施設としては東壁の両隅と中央にK1～3の土坑3基、床面中央で地床炉1基と柱穴を7基検出し、配属・規模からP1～4が主柱穴と思われるが、南側の2基は壁から張り出すように配置されていた。

K1土坑の平面形・規模は、開口部径約65cm、底部径約45cmの略円形で、断面形は深さ約25cmの鍋形を呈する。埋土は基本的には黒ボク系土4層からなる自然堆積であるが、上位には廃棄の焼土が多く混じる。

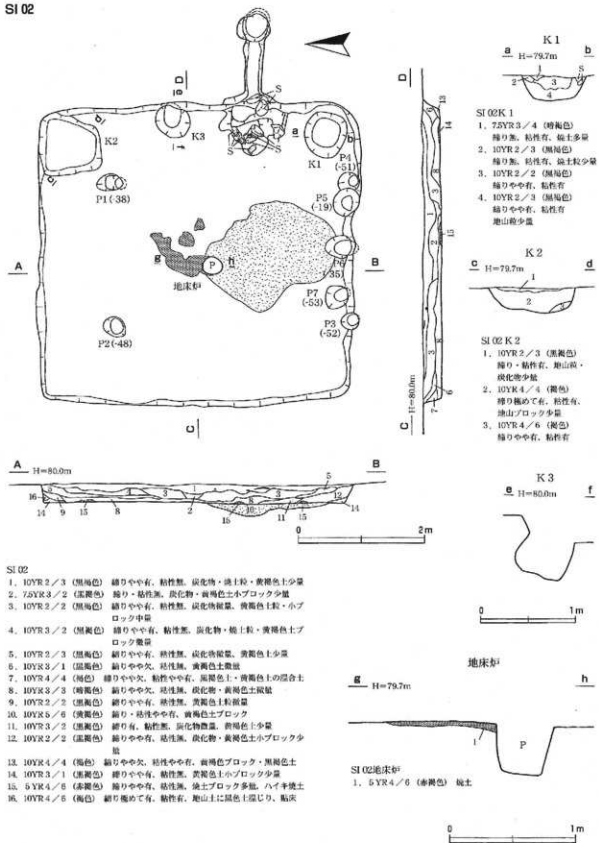
K2土坑の平面形・規模は、開口部70cm・1m×1mの台形状を呈し、断面形は深さ約25cmの鍋形を呈する。埋土は3層に分層されるが、全体的に褐色系土の人為的堆積である。

K3土坑の平面形・規模は、開口部径約50cmの略円形を呈し、断面形は深さ約40cmを測る東側が内湾する袋状を呈し、フラットな底面をもたない。埋土は基本的には褐色土の人為的な単層である。

地床炉は被熱の度合いによるものか、1m×25cmほどと隣接する約30cmほどの不整な広がり焼土を確認したもので、厚さ3cm以下の火熱による赤色変化が認められた。

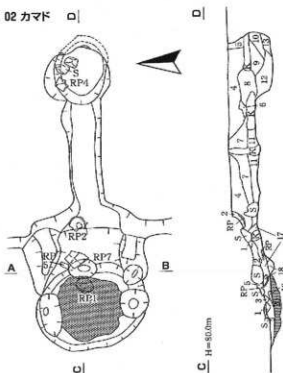
カマドは東壁の南寄り付設され、本体部の確認時には傘大から人頭大の自然礫が多数散乱した状況を呈していたことから、自然倒壊ではなく人為的な破壊と見受けられた。本体部の遺存状態は不良で、架構・芯材として石や土器などは認められないが、袖位置で芯材の抜き取り痕と考えられる小ピット3基と黄褐色粘土で構築された袖を一部検出した。燃焼部は65×85cmの楕円形に浅く掘り窪められ、底面には火熱により径約50cmほどの略円形で、厚さ5cm以下に赤色変化した焼土が確認された。焼土の煙道側端には支脚の抜き取り痕と思われる小ピットが1基ある。煙道は奥行き約1.5m、幅約25cmの掘り込み式でほぼ水平となっており、煙だしピットは径約45cmの円形で、煙道よりも約15cmほど深く掘り込まれていた。

遺物は、土器類では土師器の甕(壺)形及び環形土器が中コンテナおよそ1箱分、須恵器の甕形及び環形土器破片が各々数点出土し、破片数量はともかく個体数としては土師器の環形土器が多い傾向にある。山土状況としてはカマド埋土及びカマド周辺から床中央にかけての埋土下位から床面にかけて破砕した状態の破片が多く出土した。形状をおおよそ把握できた個体は、倒壊したカマド検出面から出土した完形品と体部上層の大部分が欠損した土師器の環形土器各1点(図番15・16)、復元個体としては埋土下位から床面とカマド及びK1・2・P6の各埋土出土などが接合した土師器の環形土器4点(図番17～20)、甕形土器2点(図番22・27)、広口の壺1点(図番21)などである。図番15の土師器環形土器には欠損のため解読不能な墨書が認められ、またカマド埋土から土師器の羽釜破片が1点(図番23)出土している。このほかカマド付近の埋土から使用頻度の極めて低い磁石1点(図番32)と床面から流状鍛冶滓1点(写番119)、埋土中から摩滅した銅文土器破片が数十点出土した。



第21図 SI 02 竪穴住居跡(1)

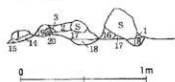
SI 02 カマド



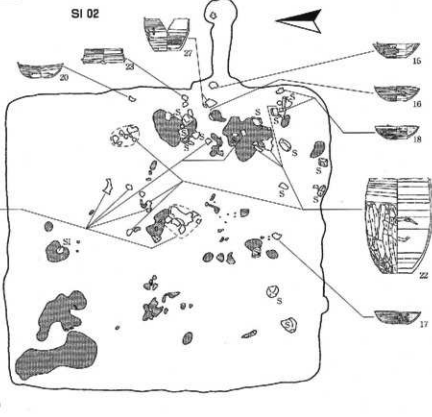
SI 02 カマド

1. 10YR 6/8 (黄褐色) 締り極めて有、粘性强、焼土粒微量
2. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性强、地山粒・焼土粒微量
3. 10YR 6/6 (黄褐色) 締り・粘性强、カマド構築土の粘着
4. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り極めて有、粘性强、地山粒・焼土粒微量
5. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り極めて有、粘性强、地山粒・焼土粒微量
6. 10YR 5/6・5YR 4/6 締り極めて有、粘性强  
カマド構築土内硬の塊層
7. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り極めて有、粘性强  
地山粒少量混入、本体側に焼土粒少量
8. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性强、焼土粒微量
9. 10YR 3/1 (黒褐色) 締り・粘性强
10. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り強、粘性强、地山粒少量
11. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性强、地山粒少量混入
12. 10YR 3/2 (暗褐色) 締り強、粘性强
13. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り強、粘性强
14. 10YR 4/4 (黄褐色) 締り・粘性强
15. 10YR 4/4 (暗褐色) 締り・粘性强、炭化物・焼土粒少量
16. 7.5YR 3/2 (黒褐色) 締り・粘性强、焼土粒少量
17. 7.5YR 4/4 (黄褐色) 締り強、粘性强、焼土粒少量
18. 7.5YR 4/4 (黄褐色) 締り・粘性强、焼土粒少量
19. 10YR 5/8 (黄褐色) 締り極めて有、粘性强、さて
20. 5YR 4/6 (赤褐色) 内壁焼土・燃焼部焼土

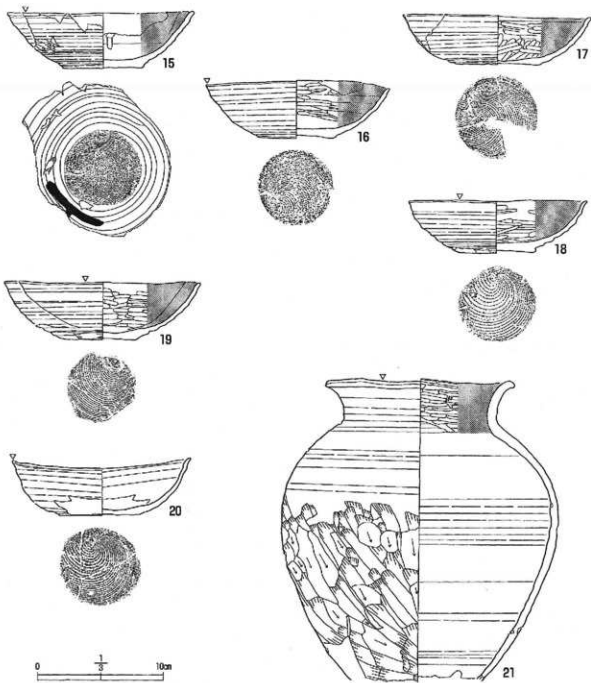
A 11=79.9m



B



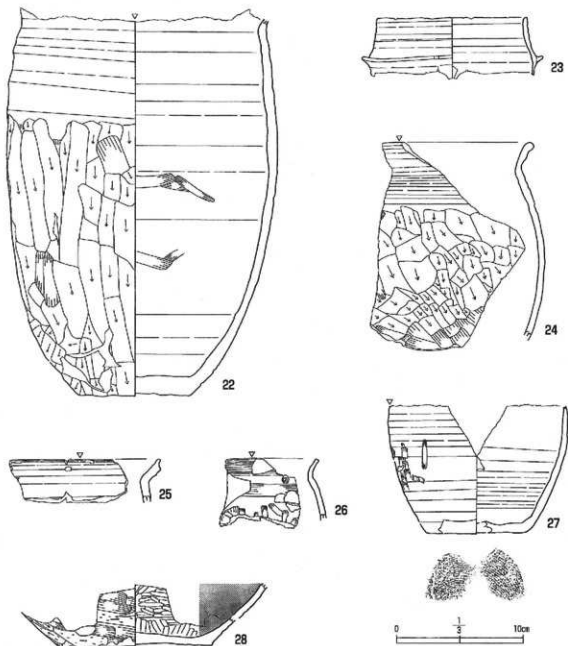
第22図 SI 02 竪穴住居跡(2)



図番	出土位置・層位	器種	法量 (cm)			形状	装飾等		備考
			口径	経典	底径		内面/外面		
15	SI 02・カマド・RP2	土師器杯	(14.6)	4.5	6.15	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	轆轤(王?) 回転糸切り	
16	SI 02・カマド・RP1	土師器杯	14.35	4.65	5.85	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	回転糸切り	
17	SI 02・RP1・K1埋土	土師器杯	14.7	4.9	6.5	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	回転糸切り	
18	SI 02・RP13・26	土師器杯	13.95	4.25	5.9	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ・下半棒状工具の沈没3条	回転糸切り	
19	SI 02・P6・埋土	土師器杯	(15.6)	4.7	5.8	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ ロクロナデ・下位棒状工具の沈没2条→一部 折ナデ	回転糸切り	
20	SI 02・RP10・カマド床面・K?埋土	土師器杯	(14.2)	4.5	6.3	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ		
21	SI 02・RP2~4・6・8・14~20 築床跡・カマド埋出土	土師器壺	14.9	∅24.0	—	ロクロ	ロクロナデ・口縁部黒色沈没・ミガキ/ ロクロナデ→体部下半ヘラケズリ・ヘラナデ	回転糸切り	

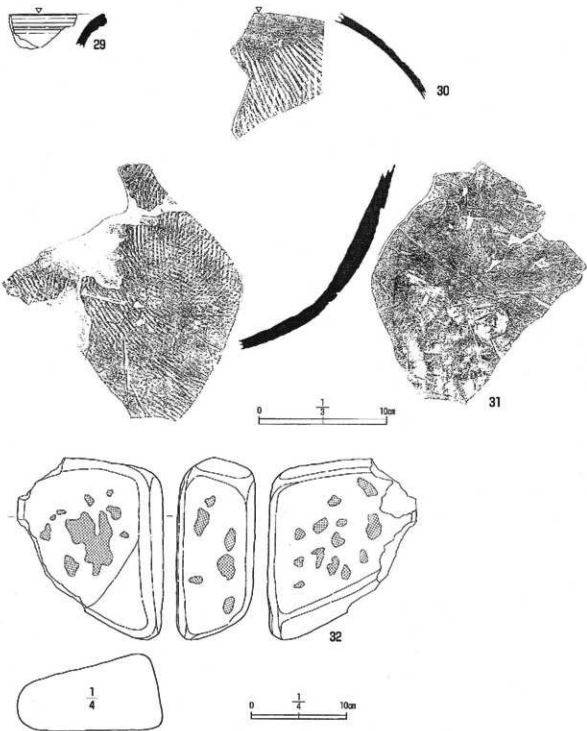
第23図 SI 02 竪穴住居跡出土遺物(1)





図番	出土位置・層位	器種	法量 (cm)			成形	図説特 内面/外面	備考
			口径	器高	底径			
22	SI 02-RP4・7・9・12-15-16	土師器焼	—	〈30.6〉	8.95	ロクロ	ロクロナデ・一部ヘラナデ/ ロクロナデ-体部下半ヘラクスリ・ヘラナデ	
23	SI 02-RP21・カマド埋土	土師器焼	(11.8)	〈4.6〉	—	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ	羽衝
24	SI 02-RP12	土師器焼	—	〈17.3〉	—	ロクロ	ミガキ/ロクロナデ-体部ヘラクスリ-ヘラナデ	
25	SI 02-竈裏・埋土	土師器焼	(18.4)	〈3.5〉	—	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ	
26	SI 02-南ベルト1層埋・P5埋土	土師器焼	—	〈5.2〉	—	非ロクロ	ヘラナデ/ヨコナデ・一部ヘラナデ	
27	SI 02-カマド-RP5・7・8・K1埋土	土師器焼	—	〈10.6〉	(8.8)	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ・一部ヘラナデ	回転糸切り
28	SI 02-カマド・RP4・5・燻出埋土	土師器焼	—	〈4.9〉	12.3	非ロクロ	ミガキ・内黒/ヘラナデ・ヘラクスリ	

第24図 SI 02 竈穴住居跡出土遺物(2)



図番	出土位置・層位	器種	法線 (cm)		形状	経緯等		備考
			口幅	器高		内面/外面		
29	SI 02-北西・層土	須磨鉄器	—	(2.8)	—	ロクロナデ/ロクロナデ		
30	SI 02-北東・層土	須磨鉄器	—	(6.7)	—	ロクロナデ	一部タタキ	箭頭
31	SI 02-RP11・南東床上	須磨鉄器	—	(14.7)	—	ロクロナデ	一部タタキ	箭頭付石

図番	出土位置・層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質・産地	備考
32	SI 02-S 2	砥石	17.8	15.4	5.9	3,000	安山岩・奥羽山脈	3個使用 (局部的)

第25図 SI 02 竪穴住居跡出土遺物(3)

### SI 03 竪穴住居跡 (第26~32図、写真図版10・11・26~29)

調査区東側の微高地上の縁辺中央、ⅢD-10gグリッドを中心に位置する。南側が調査区中央畦道下であり、掘り込み面はⅢ層上面と思われるが、大半は削平されたⅣ層中で検出した。SKT31と重複し、木遺構が切る。また複数の柱穴に切られ、埋土中でも柱穴を確認している。カマド煙道を除く上位の大半が棚壁による削平のため消失しているが、残存部での平面形・規模は、およそ一辺約3.5m前後の隅丸略方形を呈し、カマドの両側がやや張り出した形状となっており、北側の張り出しは床面よりも一段高く、30cm四方ほどの棚状テラスとなっている。床面積は約10㎡ほどを測る。主軸方位はおよそ東-西である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、遺存する壁高は30~40cmを測る。埋土は14層に細分され、中央の埋土上位(本来は中位となるが)にはSI02同様、2次堆積と思われる火山灰(分析結果: I和IIa)がブロック状に認められ、床面上の最下層として堅く締まった被熱により弱く赤色変化した褐色粘土が広がり、床面には焼上粒や炭化物が多量に認められ、カマド周辺から南側には拳大から人頭大の自然礫が多数投棄されていたが、全体的には流入と思われる黒ボク系土の自然堆積を早する。出土遺物や床土での埋土の状況等から焼失住居の可能性が考えられる。床面は全体的に貼床が施され、平坦で堅締である。床面施設としては南壁の両側と中央及びカマドの北側にK1~4の十坑4基、床面中央の北寄りで地床炉1基を検出した。

K1土坑の平面形・規模は、開口部約95×65cm、底部約70×45cmの略楕円形を呈し、底面には長軸方向で長さ約50cm、幅約15cm、深さ約5cmほどの溝状の掘り込みがあり、断面形は深さ約15cmの皿形を呈する。埋土は基本的には黒ボク系土4層からなる自然堆積であるが、上位には焼土粒が混じる。

K2土坑の平面形・規模は、開口部径約40cm、底部径約30cmの略円形を呈し、断面形は深さ約10cmの皿形を呈する。埋土は3層に分層される黒ボク系土の流入による自然堆積であるが、全体的に焼土粒・炭化物が多く混じる。

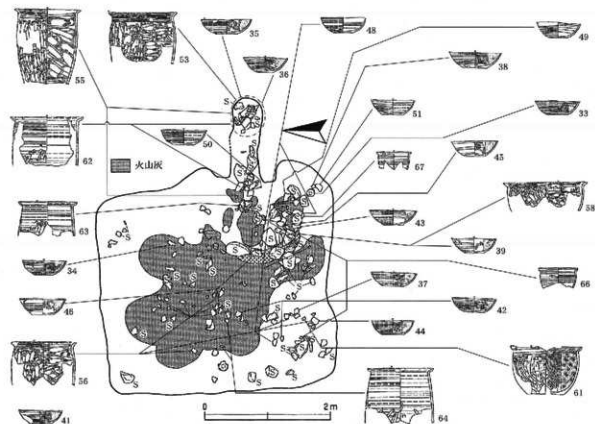
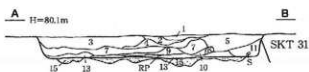
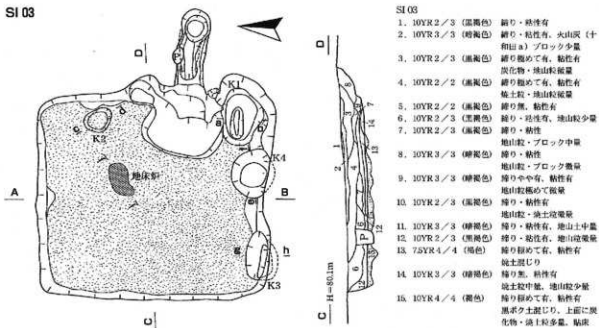
K3土坑の平面形・規模は、開口部約80×35cmの略楕円形を呈し、南側は住居壁を挟りこんで掘られた袋状となっており、フラットな底面をもたない。深さは約10cmを測る。埋土は基本的には褐色土の人為的な単層である。

K4土坑の平面形・規模は、開口部径約70cm、底部径約40cmの略円形を呈し、南側は住居壁を幾分決るように掘り込んでおり、断面形は深さ約20cmの鍋形を呈する。埋土は4層に分層され、最下層は黄褐色土の人為的であるが、上位は焼上粒や炭化物を含む黒ボク系土の自然堆積である。

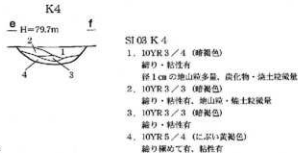
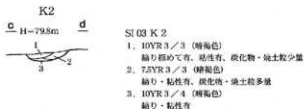
地床炉はおよそ30×60cmほどの歪な楕円形の広がり、火熱による厚さ3cm以下の赤色変化した焼土を確認したものである。

カマドは東壁の南寄りに付設され、本体部は天井が崩落しているものの遺存状態は比較的良好である。両側の袖部には芯材として15~30cm大の自然礫が数個づつ埋置され、褐色粘土を貼り付けて構築されており、両袖内面から煙道口にかけては被熱により赤色変化した焼上土化していた。燃焼部は床面よりも一段約5cmほど高く、中央には火熱により30cmほどの歪な円形の広がり、厚さ約2cm以下の赤色変化した焼上土が確認された。燃焼部の煙道側端には長さ約30cmの垂角礫を用いた支脚が埋置され遺存していた。煙道は燃焼部底面よりも高い位置で壁上位(本来は中位か?)から掘り抜かれた奥行き約1.2m、径約30cmの割り貫き式と推定され、外側に向かい下り勾配となっている。掘出しピットは径約50cm、深さは約50cmを測り、煙道よりも約15cmほど深く掘り込まれていた。

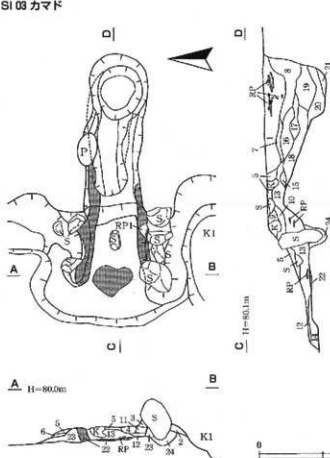
SI 03



第26図 SI 03 竪穴住居跡(1)



SI 03 カマド



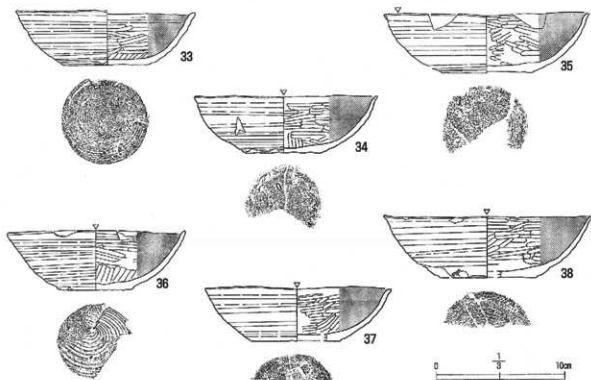
SI 03 地床如  
1. 5YR 4/6 (赤褐色) 粘土

SI 03 カマド

1. 10YR 2/3 (灰褐色) 締り・粘性有、地山粒・炭土粒極めて微量
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、炭土粒微量、地山土少量
3. 10YR 2/3 (灰褐色) 締りやや有、粘性有、炭土粒微量
4. 7.5YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、炭土粒微量
5. 10YR 4/6 (褐色) 締り極めて有、粘性有、カマド構築上副産
6. 10YR 3/3 (暗褐色) 締りやや有、粘性有、炭土粒微量
7. 7.5YR 2/3 (黄褐色) 締り無、粘性有、炭土粒じり
8. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り極めて有、粘性有 地山土・炭土の混じり
9. 10YR 2/3 (灰褐色) 締り・粘性有、炭土粒微量
10. 7.5YR 4/4 (褐色) 締り極めて有、粘性有 粘土層の下の副産土?
11. 7.5YR 3/6 (暗赤褐色) 締りやや有、粘性有、炭土ブロック少量
12. 7.5YR 4/6 (褐色) 締り無、粘性有、炭土粒少量
13. 5YR 4/4 (にぶい赤褐色) 締り有、粘性やや有 粘土粒・ブロック多量
14. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、炭土粒・炭化物微量
15. 5YR 2/6 (暗赤褐色) 粘土ブロック
16. 7.5YR 4/6 (褐色) 締り極めて有、粘性有 下部が赤色になっている、炭層又は副産の残存
17. 7.5YR 4/6 (褐色) 締り極めて有、粘性やや有 煙道及び副産の混雑
18. 7.5YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、炭土粒じりの上
19. 10YR 3/3 (暗褐色) 締りやや有、粘性有
20. 7.5YR 4/4 (褐色) 締り・粘性有、炭土粒少量
21. 10YR 3/4 (暗褐色) 締りやや有、粘性有
22. 5YR 4/0 (赤褐色) 締り有、粘性有、炭土粒、地山
23. 10YR 4/0 (褐色) 締り極めて有、粘性有、カマドノゾク
24. 10YR 4/4 (褐色) 締り極めて有、粘性有、ソデ石の裏ごめ土

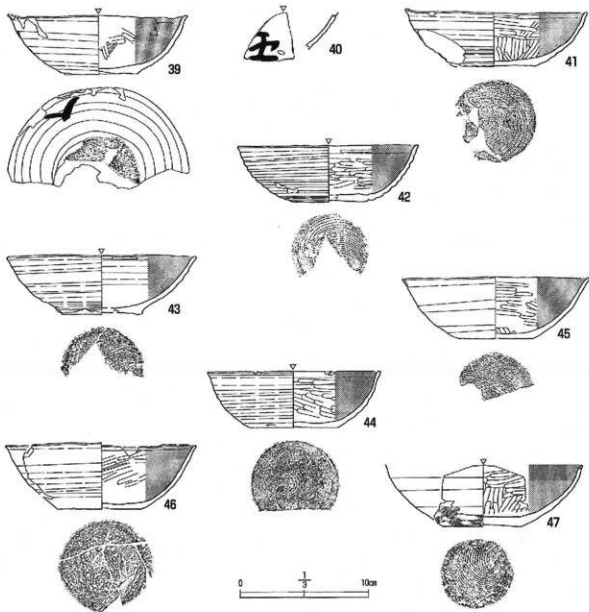
第27図 SI 03 竪穴住居跡(2)

遺物は、土器類では土師器の甕形及び环形土器が大コンテナ（35×45×30cm）約1箱分及び須恵器の甕形土器破片が数点と环形土器の口縁部破片1点（図番68）が出土し、破片数量はともかく個体数としては土師器の环形土器がかなり多い傾向にある。出土状況としてはカマド及び煙出し埋土やK1土坑周辺から多量に、南西側から中央にかけてはやや多く出土し、埋土下位から床面で破砕した状態で出土した破片が大半を占め、隣群の分布とおよそ一致することからほとんどが同時期に一括して投棄されたものと思われる。形状をおよそ把握できた個体としては、ほぼ完形の土師器の环形土器がカマド埋土とK1周辺の埋土下位及び西側床面から3点（図番33・41・49）、復元個体では、やはりカマド埋土や埋土下位から床面出土が接合した土師器の环形土器16点（図番34・36・37・39・42～48・50～52）と甕形土器3点（図番61・53・54）、体部下半を欠く甕形土器が煙出しピットから2点（図番55・64）などである。図番39・40の土師器环形土器には「人か大？」と「玉か王？」の字体の不明瞭な墨書が認められ、また埋土上位から土師器甕形土器の砂粒の少ない砂底の底部破片2点（図番59・60）が出土している。このほかカマド燃焼部上の二次的な焼土内から破砕した完形の刀子1点（図番70）と埋土から縄文土器破片1点とフレーク7点が出土した。



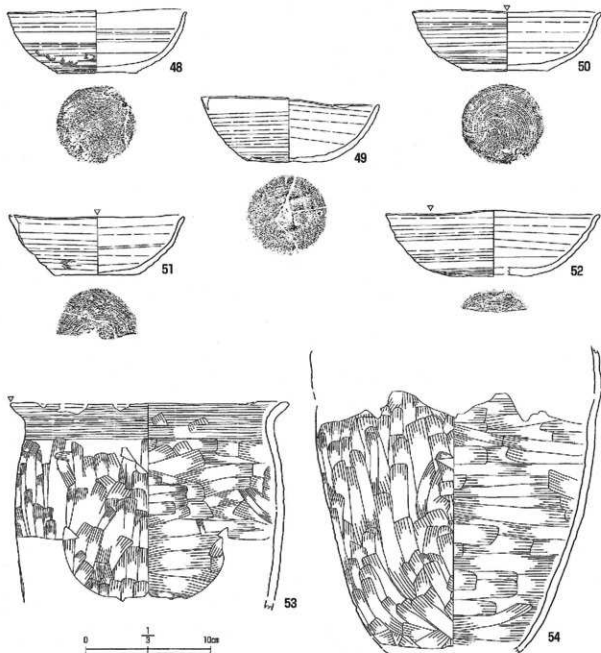
図番	出土位置・層位	器種	法量 (cm)			成形	調整等	備考
			口径	胴高	底径			
33	SI 03-FP1	土師器環	14.2	4.15	7.1	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	煎転糸切り
34	SI 03-FP61・埋土	土師器環	(14.45)	4.5	5.9	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	煎転糸切り
36	SI 03-カマド・FP17・カマド埋土	土師器環	(16.2)	4.7	7.2	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	煎転糸切り
36	SI 03-カマド・FP28・31・埋土	土師器環	(14.4)	4.8	6.1	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	煎転糸切り
37	SI 03-FP26・南西2層	土師器環	(14.46)	4.2	(7.0)	ロクロ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	煎転糸切り
38	SI 03-FP26・南西1層黒	土師器環	(18.45)	(4.9)	(7.8)	ロクロ	ミガキ・内黒/ロクロナデ	煎転糸切り

第28図 SI 03 竪穴住居跡出土遺物(1)



図番	出土位置・層位	器種	法量 (cm)			成形	特徴	備考
			口径	器高	底径			
39	SI 03-FP35・埋土	土師器杯	(14.3)	4.9	(7.0)	ロクロ	縞なミガキ・内黒/ロクロナデ	図転糸切り 器曹(人・大?)
40	SI 03-南東1層黒	土師器杯	—	<(3)>	—	ロクロ	縞なミガキ・内黒/ロクロナデ	器曹(玉)
41	SI 03-FP2・埋土	土師器杯	14.2	4.3	6.4	ロクロ	縞なミガキ・内黒/ロクロナデ 棒状工具の沈線? 糸	図転糸切り
42	SI 03-FP4・1B・埋土	土師器杯	(14.2)	4.5	6.0	ロクロ	縞なミガキ・内黒/ロクロナデ 棒状工具の多量沈線	図転糸切り
43	SI 03-FP71・埋土・北西床上	土師器杯	(15.1)	4.7	(6.5)	ロクロ	縞なミガキ・内黒/ロクロナデ 下半棒状工具の多量沈線	図転糸切り
44	SI 03-FP23・K1埋土	土師器杯	(13.6)	4.5	(6.8)	ロクロ	縞なミガキ・内黒/ロクロナデ ヘラケズリ	図転糸切り後 ヘラケズリ再調整
45	SI 03-FP38・埋土	土師器杯	(14.6)	4.65	(5.65)	ロクロ	ミガキ・内黒/ロクロナデ	図転糸切り後 ヘラケズリ再調整
46	SI 03-FP58・74・カマド埋土	土師器杯	(15.3)	5.1	6.6	ロクロ	部分的にミガキ・内黒/ロクロナデ	図転糸切り後 内黒調整 (断面により不明)
47	SI 03-南西・埋土下位	土師器杯	—	<(4.9)>	6.3	ロクロ	縞なミガキ・内黒/ロクロナデ 下縁一部ヘラナデ・ケズリ	図転糸切り後 一掃ヘラケズリ再調整

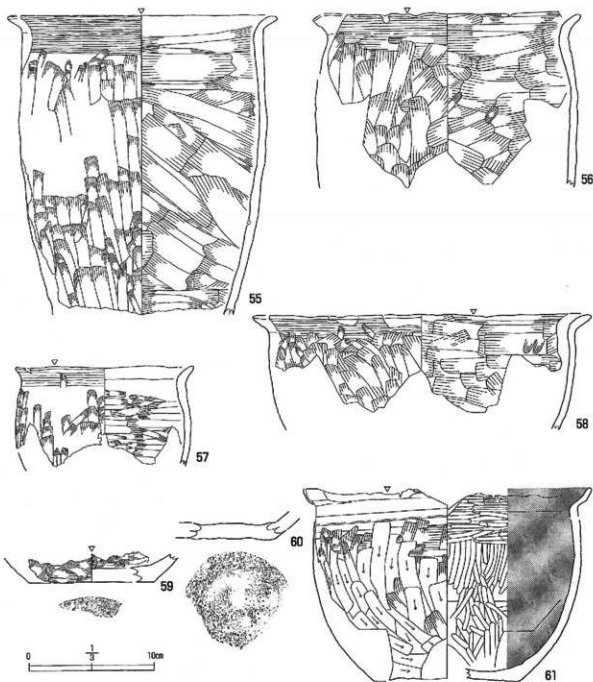
第29図 SI 03 竪穴住居跡出土遺物(2)



図番	出土位置・部位	器種	法量 (cm)			成形	割製等		備考
			口径	底径	高さ		内面/外面		
48	SI 03-FP02・41・82・カマド燻土	土師器杯	14.15	4.9	5.5	ロク口	ロクロナデ/ロクロナデ	割製未切り	
49	SI 03-FP77・埋土	土師器杯	13.9	4.55	5.5	ロク口	ロクロナデ/ロクロナデ	割製未切り	
50	SI 03-カマド・RP29-30-34・36・埋土	土師器杯	14.7	4.7	5.8	ロク口	ロクロナデ/ロクロナデ	割製未切り・ 内面削付層	
51	SI 03-FP28	土師器杯	(14.9)	4.7	(5.7)	ロク口	ロクロナデ/ロクロナデ	割製未切り	
52	SI 03-FP82	土師器杯	16.8	5.0	(5.8)	ロク口	ロクロナデ/ロクロナデ	割製未切り	
53	SI 03-カマド・RP12・15-26・27・33・埋土	土師器盤	(22.0)	(16.7)	—	群ロク口	ヨコナデ・ヘラナデ/ヨコナデ・ヘラナデ	割製未切り	
54	SI 03-カマド・RP 9・21・23-25-38・埋土	土師器盤	—	(24.0)	—	群ロク口	ヘラナデ/ヘラナデ	4/AB同一器体	

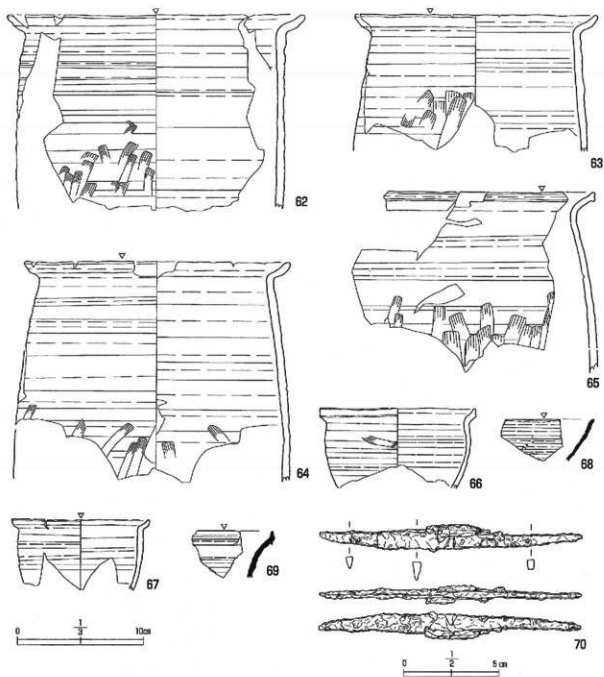
第30図 SI 03 竪穴住居跡出土遺物(3)





図番	出土位置・部位	器種	法量 (cm)			成形	調査等		備考
			口径	底径	高さ		内面/外面		
55	SI 03-カマド・RP 7・16・19・40・埋土	土師器壺	(21.3)	(23.8)	—	非ロク口	ヘラナデ/ヨコナデ→ヘラナデ		
56	SI 03-RP 9・15・17・23・25・32・37・46・50・53・56・57・59・60・76・81・K 1 埋土	土師器壺	(21.0)	(18.8)	—	非ロク口	ヘラナデ/ヨコナデ→ヘラナデ		
57	SI 03-南西2 煎茶鉢	土師器壺	(14.3)	(8.0)	—	非ロク口	雑なヘラナデ/ヨコナデ・部分的に雑なヘラナデ		
58	SI 03・RP 39・42	土師器壺	(26.6)	(32)	(10.0)	非ロク口	ヘラナデ/ヨコナデ・ヘラナデ	鉢?	
59	SI 03-埋土	土師器壺	—	(2.3)	—	非ロク口	ヘラナデ/ヘラナデ	砂底	
60	SI 03-南東1 湯盥	土師器壺	—	—	—	非ロク口	—/底部下縁ヘラナデ	砂底	
61	SI 03-RP 27・21・埋土	土師器鉢	(22.7)	(15.4)	—	ロク口	ミガキ・内面/ロク口ナデ→ヘラナデ		

第31図 SI 03 竪穴住居跡出土遺物(4)



図番	出土地帯・層位	器種	法量 (cm)			形状	裏面等	備考
			口徑	胴高	底径			
62	SI 03-カマド・RP20・32・34	土師器鉢	(23.4)	(15.5)	—	口クロ	口クロナデ/口クロナデ—底へラナデ	
63	SI 03-カマド・RP 5・雑岩し焼出層	土師器鉢	(18.0)	(10.2)	—	口クロ	口クロナデ/口クロナデ—底へラナデ	
64	SI 03-RP10-54・カマド・RP32・奥窯土内	土師器鉢	(21.0)	(17.4)	—	口クロ	口クロナデ/口クロナデ—底へラナデ	
65	SI 03-RP26・埋土	土師器鉢	(24.8)	(14.0)	—	口クロ	口クロナデ/口クロナデ—下位へラナデ	
66	SI 03-RP14-72・K 2埋土	土師器鉢	(12.4)	(6.4)	—	口クロ	口クロナデ/口クロナデ	
67	SI 03-RP7b	土師器鉢	(11.0)	(6.6)	—	口クロ	口クロナデ/口クロナデ	
68	SI 03-常北ベルト・埋土	須恵器杯	—	(3.1)	—	口クロ	口クロナデ/口クロナデ	
69	SI 03-東西1層窯	須恵器鉢	—	(3.3)	—	口クロ	口クロナデ/口クロナデ	

図番	出土地帯・層位	器種	残存部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
70	SI 03-カマド・灰土内前側	刀子	刃形	13.7	1.0	0.45	90.3	

第32図 SI 03 竪穴住居跡出土遺物(5)

#### SI 04 整穴住居跡 (第33~40図、写真図版12・13・30~32・34)

調査区内の微高地上のほぼ中央、ⅢD-8・9 Iグリッドを中心に位置する。北側が調査区中央峠道下にあり、掘り込み面はⅢ層上面と思われるが、大半は削平されたⅣ層中で検出した。SKT18~23・25、SK21・22・24・47・48・53・58、SD02と重複し、検出状況及び断面観察等から確認できた新旧関係は(新)SD02・SK21・22・24→本遺構→SK47・48・53・58→SKT18~23・25(古)である。また数基の柱穴との新旧も確認している。北西部を除く上位の大半が開墾による削平のため消失しているが、残存部での平面形・規模は、およそ一辺約6.5mほどの隅丸略方形を呈し、床面積は約36㎡ほどを測る。主軸方位はおおよそ東-西である。壁は外傾して立ち上がり、遺存する壁高は10~30cmを測る。坪上は12層に細分され、北側の中央埋土上位とカマドの西側及び北側中央の床土には廃棄されたと思われる焼土が多く認められたが、全体的には黒ボク系土の流入による自然堆積と思われる。床面は概ね平坦で堅縮、北東部を除く壁沿いに、およそ「コ」の字状に貼床が施されていた。床面施設としては、東壁沿いと床のほぼ中央にK1~4の十坑4基、床中央に地床炉1基、柱穴22基を検出した。規模・配置からP1~4が柱穴と考えられるが、南側の2基は壁から張り出すように配置されていた。またP4~7の状況からは古い小型の住居跡あるいは掘立住居物跡が存在した可能性も考えられる。

K1土坑の平面形・規模は、開口部径約1.1m、底部径約70cmほどの略円形を呈し、断面形は深さ約30cmの鍋形を呈する。埋土は褐色系土を主体とした人為的のものであったため、当初判然とせず、貼床除去後に確認し、十坑と判断したものである。

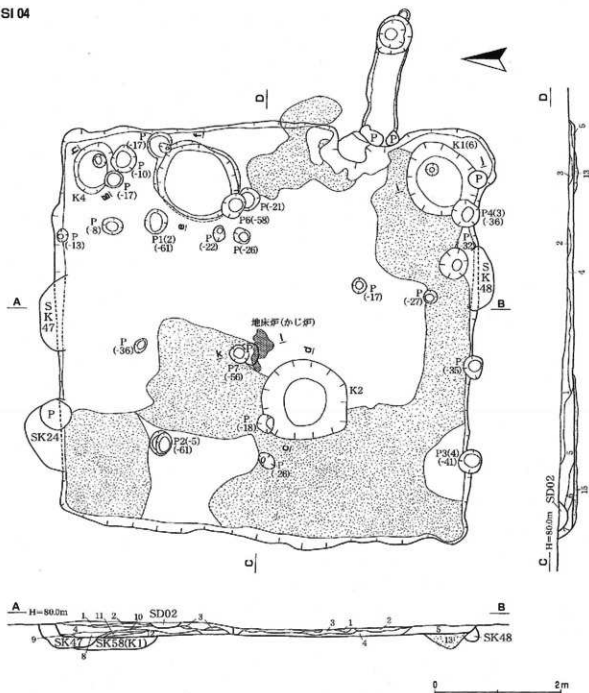
K2土坑の平面形・規模は、開口部径約1.2m、底部径約70cmの略円形を呈し、断面形は深さ約35cmの丸底鍋形を呈する。坪上は黒ボク系土7層に分層されるが、上位は流入による自然堆積、下位は人為的堆積の様相を呈する。

K3十坑の平面形・規模は、開口部径約1.2m、底部径約1mの略円形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、西側の一部が内湾しており、本来の断面形は深さ約40cmの袋状を呈したと思われる。埋土は5層に細分され、最下層は褐色土だが、全体的には堅く締まった黒ボク系土で人為的様相を呈する。

K4上坑の平面形・規模は、開口部85×70cm、底部60×45cmの楕円形を呈し、断面形は深さ約15cmの平底鍋形を呈する。埋土は3層に分層され、状況はK3上坑と類似する。

地床炉はおおよそ30×60cmほどの歪で不整な広がり、火熱による厚さ2cm以下の赤色変化した焼土を確認したものであり、隣接するK2埋土から羽目と鍛冶滓、煙出しピットからは鉄砧石が出土していることから、地床炉は鍛冶炉で、K2上坑は付属する関連施設の可能性がある。ただし、精査の初期段階では鍛冶炉を想定していなかったため、土壌採集を実施しておらず、精練・鍛練の工程段階は不明であるが、関連遺物の出土量や使用状態、地床炉の酸化の度合いからは恒常的なものではなく、一時的な鍛練鍛冶工程の作業が行われた程度と推測される。

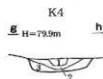
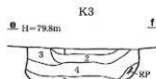
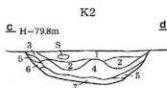
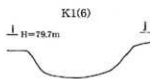
カマドは東壁の南寄り付設されているが、開墾削平により全体的に遺存状態は不良である。本体大井部は崩落し、袖部は架構・芯材として石や土器などは認められないが、袖位置で芯材の抜き取り痕と考えられる小ピット5基が検出され、褐色粘土で構築されていた。燃焼部は径約1m、深さ約5cmほどに浅く掘り窪められ、底面は火熱により径約70cmほどの略円形で、厚さ8cm以下に赤色変化した。煙道側の焼土端には支脚と思われる20×15cmほどの石が遺存した。煙道は状況から掘り込み式と推定され、奥行き約1.9m、幅約50cmで、ほぼ水平となっていた。煙出しピットは径約50cm、深さは約50cmを測り、煙道よりも約35cmほど深く掘り込まれていた。



## SI 04

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山礫・焼土粒散見
2. 7.5YR 2/3 (黒黒褐色) 締り・粘性有、地山礫・ブロック多量、ハイキ土
3. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、地山ブロック多量、径1cmの焼土粒少量、ハイキ土
4. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山礫少量
5. 10YR 3/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山ブロック多量
6. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山礫散見
7. 10YR 3/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山土少量
8. 10YR 2/1 (黒色) 締り弱、粘性有
9. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山土混じり
10. 10YR 4/6 (褐色) 締り・粘性有、地山土多量
11. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山礫散見
12. 7.5YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、炭土多量、炭化物少量、ハイキ土
13. 10YR 4/4 (褐色) 締り弱めて有、粘性有、地山土に黒ボク土混じり、炭灰

第33図 SI 04 竪穴住居跡(1)



SI 04 K 4

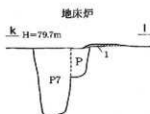
1. 10YR 5/3 (暗褐色) 盛り極めて有、粘性有  
地山灰中量
2. 10YR 2/2 (黒褐色) 盛り・粘性有
3. 10YR 4/4 (褐色) 盛り極めて有、粘性有  
地山土・黒色土の混じり

SI 04 K 2

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 盛り極めて有、粘性有  
炭化物残量、焼土粒中量
2. 10YR 3/2 (灰褐色) 盛り・粘性有  
地山灰少量
3. 10YR 4/6 (褐色) 焼山ブロック
4. 10YR 2/2 (黒褐色) 盛り・粘性有  
地山灰・炭化物残量
5. 10YR 3/3 (暗褐色) 盛り・粘性有
6. 10YR 2/2 (黒褐色) 盛り・粘性有
7. 10YR 4/3 (Cに近・黄褐色) 盛り極めて有、粘性有  
地山土・黒ボク土微量混入

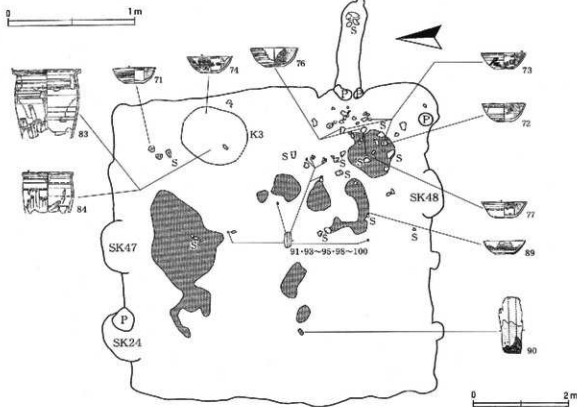
SI 04 K 3

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 盛り極めて有、粘性有  
炭化物・焼土粒微量
2. 10YR 3/2 (灰褐色) 盛り極めて有、粘性有  
地山ブロック・粒少量
3. 10YR 2/2 (黒褐色) 盛り極めて有、粘性有  
地山炭残量
4. 10YR 2/3 (黒褐色) 盛り極めて有、粘性有  
焼山ブロック・粒中量
5. 10YR 4/4 (褐色) 盛り・粘性有、焼土粒微量



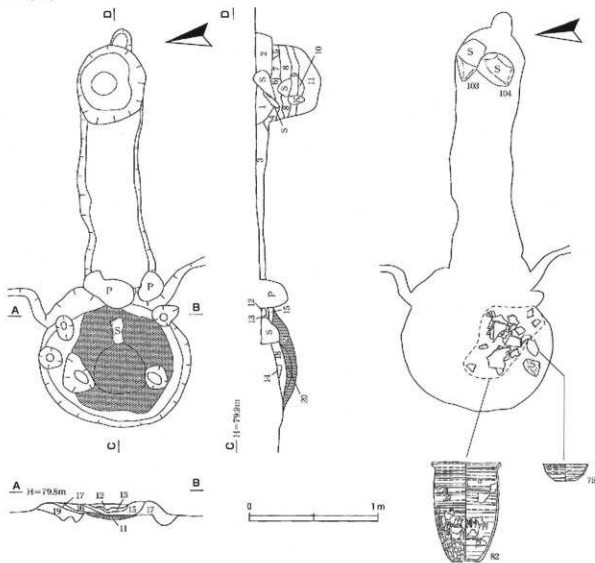
SI 04 地床炉

1. 5YR 4/6 (黄褐色) 焼土



第34図 SI 04 竪穴住居跡(2)

SI 04 カマド

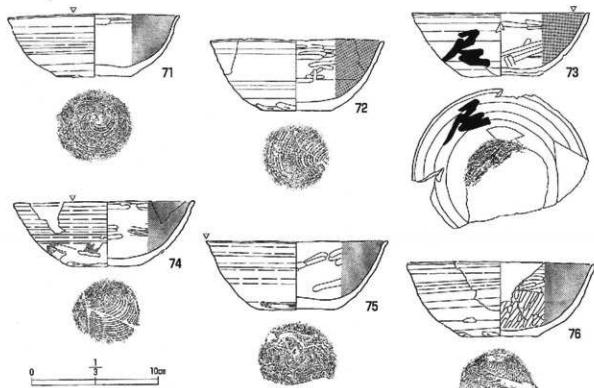


SI 04 カマド

1. 10YR 3/4 (暗褐色) 降り混りて有、粘性有、地山灰・粘土粒豊富
2. 10YR 3/3 (暗褐色) 降り混りて有、粘性有、厚1cmの粘土粒・地山灰多量
3. 10YR 3/3 (暗褐色) 降り混りて有、粘性有、地山灰少量
4. 7.5YR 3/4 (暗褐色) 降り混りて有、粘性有、焼土に黒ボク土混じり
5. 7.5YR 3/4 (暗褐色) 降り混りて有、粘性有、焼土に黒ボク土混じり
6. 10YR 3/4 (暗褐色) 降り・粘性有
7. 10YR 2/3 (暗褐色) 降り・粘性有
8. 10YR 3/2 (暗褐色) 降り・粘性有
9. 10YR 2/2 (暗褐色) 降り・粘性有
10. 10YR 2/2 (暗褐色) 降り・粘性有
11. 10YR 3/4 (暗褐色) 降り・粘性有、地山灰豊富
12. 10YR 2/3 (暗褐色) 降り混りて有、粘性有、焼土粒極めて豊富
13. 7.5YR 3/4 (暗褐色) 降り混りて有、粘性有、焼土に黒ボク土混じり
14. 10YR 3/4 (暗褐色) 降り・粘性有、焼土粒豊富
15. 5YR 3/6 (暗赤褐色) 降り混りて有、粘性有、粘土多量、黄褐色土豊富
16. 10YR 3/4 (暗褐色) 降り混りて有、粘性有、焼土粒豊富
17. 10YR 4/6 (褐色) 降り混りて有、粘性有、ソデ?
18. 7.5YR 5/6 (褐色) 降り・粘性有
19. 10YR 4/6 (褐色) 降り混りて有、粘性有、地山土に黒ボク土混じり、ソデ
20. 5YR 5/8 (明赤褐色) 焼土上、焼土
21. 5YR 4/8 (暗褐色) 焼土上、焼土

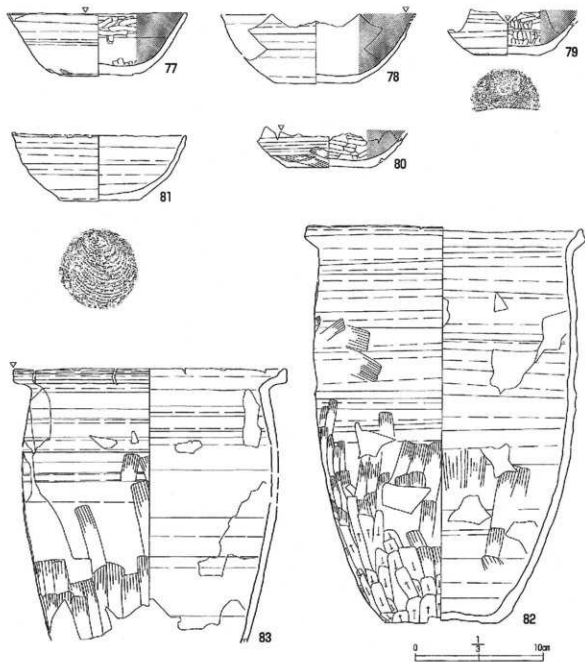
第35図 SI 04 竪穴住居跡(3)

遺物は、土器類では土師器の甕形及び坏形土器が中コンテナ1箱分以上、須恵器の甕形土器破片は数点、坏形土器の破片は約50点と比較的多く出土した。破片数量はともかく個体数としては土師器の坏形土器が多い傾向にある。出土状況としてはカマド及びその周辺に偏っており、埋土下位から床面に破砕状態の破片として出土した。形状をおよそ把握できた個体としては、ほぼ完形の土師器の坏形土器がカマド埋土から1点(図番81)とカマド埋土の破片が接合した甕形土器1点(図番82)、復元個体では、やはりカマド埋土及びカマド周辺の埋土下位出土が接合した土師器の坏形土器8点(図番71~77)、体部下位を欠く甕形土器がK3・1埋土接合の2点(図番83・84)、埋土下位出土が接合した須恵器の坏形土器2点(図番88・89)などである。また図番73の土師器坏形土器には「召」、図番89の須恵器坏形土器には欠損により不明確ながら「西?」の墨書が認められた。土器類以外ではK2土坑埋土から羽口1点(図番90)、長頸鉄鉢1点(図番102)、鍛冶滓類4点(写番122~125)、煙出しピットから鉄砧石2点(図番103・104)、カマド西側の床面及び北側の下位廃棄焼土内から土鍾12点(図番91~101)と鍛冶滓類2点(写番120・121)が出土した。また、配置状況からT4トレンチ出土の鍛冶滓類2点(写番130・131)も本遺構に伴うものと思われる。このほか埋土から縄文土器破片2点とブレイク3点が出土した。



図番	出土位置・層位	器種	口径 (cm)			成形	装飾		備考
			口径	総高	壁厚		内面/外面		
71	SI 04-FP11	土師器坏	(13.75)	5.08	5.8	ロク口	雑なミガキ・内黒/ロク口ナデ・下壁ヘラケズリ	図記表切り線 壁面ヘラケズリ西側縁	
72	SI 04-FP55	土師器坏	(13.85)	5.75	5.3	ロク口	雑なミガキ・内黒/ロク口ナデ・下壁ヘラケズリ	図記表切り線 壁面ヘラケズリ再調整	
73	SI 04-FP20・32・46	土師器坏	(14.0)	5.1	(6.1)	ロク口	雑なミガキ・内黒/ロク口ナデ	図記表切り線 墨書(召)	
74	SI 04-K3・1 箱・南西廃棄焼土内	土師器坏	14.25	5.2	5.3	ロク口	雑なミガキ・内黒/ロク口ナデ・下壁ヘラケズリ	図記表切り線 一壁ヘラケズリ西側縁	
75	SI 04-南西廃棄焼土内	土師器坏	(14.25)	5.5	5.95	ロク口	雑なミガキ・内黒/ロク口ナデ・下壁一部ヘラケズリ	図記表切り線 壁面ヘラケズリ再調整	
76	SI 04-FP20・22	土師器坏	(14.8)	5.95	(6.05)	ロク口	ミガキ・内黒/ロク口ナデ・下壁一部ヘラケズリ	図記表切り線	

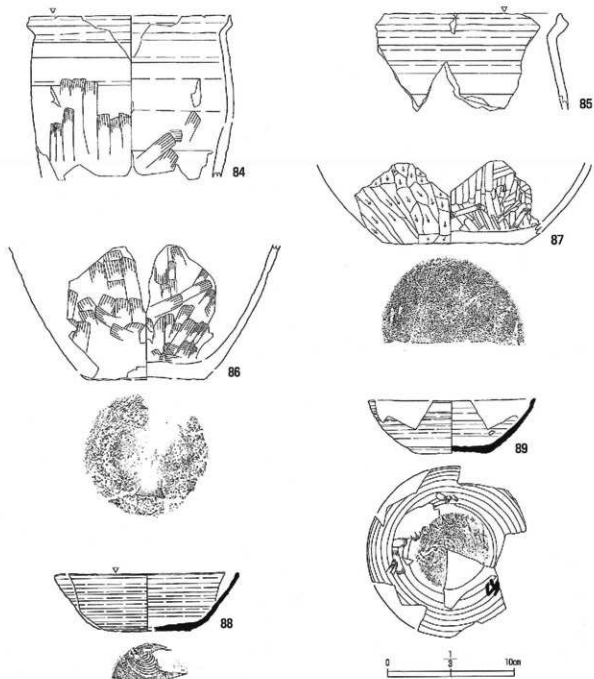
第36図 SI 04 竪穴住居跡出土遺物(1)



図番	出土位置・層位	器種	法量 (cm)			成形	調査等 内面/外面	備考
			口径	高さ	底径			
77	SI 04-FP22・47	土師器杯	14.1	5.1	4.95	ロクコ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	底縁で底縁切り磨し不明 (ヘラナデ内縁部?)
78	SI 04-K3 埋土・北西埋土	土師器杯	—	(5.5)	6.25	ロクコ	底縁不明・内黒/ロクロナデ	底縁で底縁切り磨し不明 (ヘラケズリ再調整)
79	SI 04-FP13	土師器杯	—	(3.6)	5.1	ロクコ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ	底縁未切り
80	SI 04-FP8	土師器杯	—	(3.2)	6.65	ロクコ	雑なミガキ・内黒/ロクロナデ—底ヘラナデ	底縁切り磨し不明・ ヘラケズリ再調整
81	SI 04-カマド・FP1	土師器杯	13.7	5.55	6.3	ロクコ	ロクロナデ/ロクロナデ	底縁未切り
82	SI 04-FP33-34・カマドFP2・ 7・8-12-14-16-19-23・26 -29-31-35埋土	土師器壺	20.7	31.35	9.0	ロクコ	ロクロナデ/ロクロナデ—底部下半ヘラナデ・ ヘラケズリ	底縁切り磨し不明・ ヘラナデ再調整?
83	SI 04-K3・1層・K1埋土	土師器壺	(21.6)	(21.7)	—	ロクコ	ロクロナデ—底ヘラナデ/ロクロナデ— 底部下半ヘラナデ	

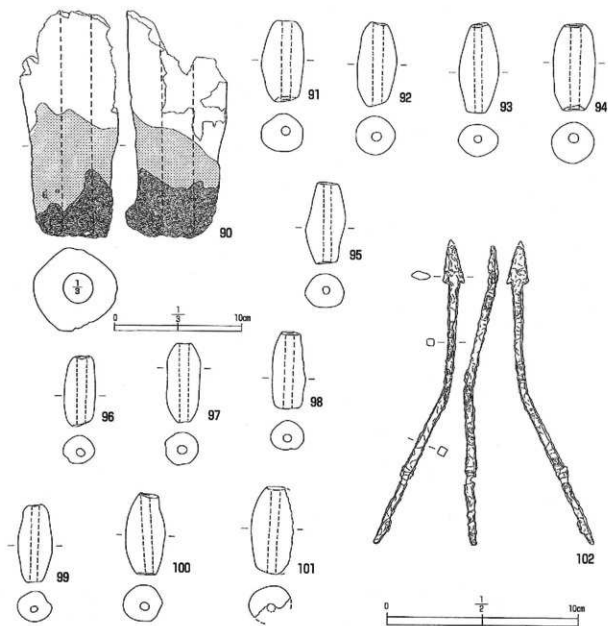
第37図 SI 04 竪穴住居跡出土遺物(2)





図番	出土位置・層位	器種	法線 (cm)			成形	裝飾等		備考
			口径	器高	器径		内面/外面		
84	SI 04-K3・2層	土師製鉢	(15.9)	<12.0>	—	ロクロ	ロクロナデ→一部ヘラナデ/ロクロナデ・体部 下半ヘラナデ		
86	SI 04-カマド・埋土	土師製鉢	(23.4)	—	—	ロクロ	ロクロナデ→一部ヘラナデ/ロクロナデ		
86	SI 04-FP40・53・南東床面	土師製鉢	—	<10.6>	9.8	非ロクロ	一部ヘラナデ/一部焼なへラナデ	砂底(上底焼)	
87	SI 04-FP35・44	土師製鉢	—	(6.45)	11.16	非ロクロ?	ヘラミガキ→一部ヘラナデ/ヘラケズリ	砂底→ヘラケズリ 再塗物	
86	SI 04-北西・埋土	須恵製鉢	(14.6)	4.6	(6.6)	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ	口縁未切り	
89	SI 04-FP41・北東1層	須恵製鉢	(13.2)	4.4	5.05	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ→部分ナデ様の糊注物	口縁未切り・裏面 (黄?)	

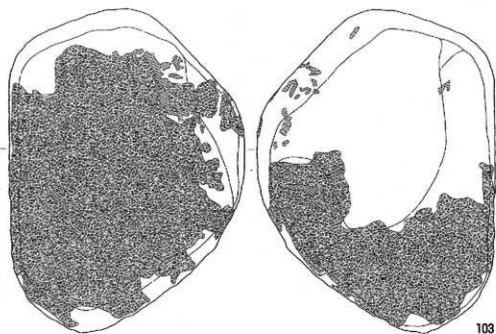
第38図 SI 04 竪穴住居跡出土遺物(3)



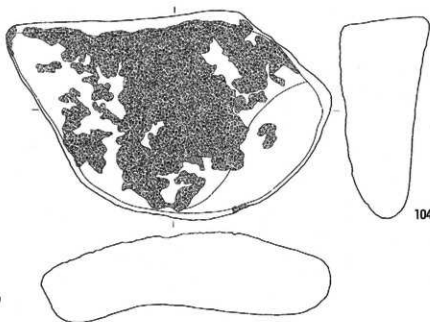
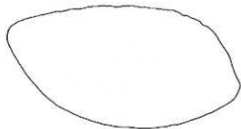
図番	遺物名・出土地点・層位	種類	長さ (cm)	外径 (cm)	内径 (cm)	重量 (g)	備考
90	SI 04・K 2・FP 1・15	羽口	(18.75)	(7.6)	2.45	—	破層角處25
91	SI 04・FP 2	土罐	4.3	2.2	0.45	18.6	
92	SI 04・北側下位層黒土内	土罐	4.4	2.1	0.45	16.9	
93	SI 04・FP 1	土罐	4.9	2.1	0.4	15.6	
94	SI 04・FP 4	土罐	4.5	2.2	0.45	21.5	
95	SI 04・FP 5	土罐	4.3	2.1	0.4	15.8	
96	SI 04・北側下位層黒土内	土罐	3.7	1.7	0.45	9.4	
97	SI 04・表面	土罐	4.3	1.8	0.45	12.3	
98	SI 04・FP 3	土罐	4.1	1.8	0.45	12.0	
99	SI 04・FP 6	土罐	4.1	1.85	0.4	11.6	
100	SI 04・FP 7	土罐	4.3	2.06	0.45	15.8	
101	SI 04・北側下位層黒土内	土罐	4.6	(25)	(0.4)	(12.6)	

図番	出土地点・層位	素材	保存部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
102	SI 04・K 2・層土	鉄製 (長鋼)	緑色変形	(17.2)	1.1	0.5	(90.5)	

第39図 SI 04 竅穴住居跡出土遺物(4)



103



104

図番	出土位置・部位	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・産地	備考
103	SI 04・カマド・S3	磨石	33.5	24.8	12.9	15,500	安山岩・巖山山脈	表裏磨行跡、一部焼け・剥付層
104	SI 04・カマド・S4	磨石	31.3	21.3	9.1	9,500	安山岩・巖山山脈	一面磨行跡、一部焼け・剥付層

第40図 SI 04 竪穴住居跡出土遺物(5)

#### SKI 01 竪穴状遺構 (第41・42図、写真図版14・33・34)

調査区内の微高地南側縁辺、ⅢE-9dグリッドを中心に位置し、削平されたⅣ層中で検出した。平面形は楕円形が連結した歪なダルマ形を呈する。主に規模のことから一応竪穴状遺構として捉えることとした。規模は、長軸方向が微高地南側縁辺と平行する北東-南西にあり、長軸約4.1m、短軸は連結部で約2m、両側では約2.5m、床面積は約6.5㎡を測る。壁は外傾して立ち上がり、遺存する壁高は約25cmを測る。埴土は堅く締まった12層に細分される黒ボク系土を主体として褐色土が混在する人為的堆積の様相を呈する。床面は概ね平坦で堅縮だが、南東側の膨らむ部分では約5cmほど高い狭いテラス状となっており、また床面施設としてK1~4の上坑4基が存在するため、実際の平坦部はかなり狭い範囲となっている。

K1上坑の平面形・規模は、開口部1.1×1.4m、底部90cm×1.1mを測る略楕円形を呈し、断面形は深さ約10cmの皿形を呈する。埴土は堅く締まった黒ボク系土2層からなる人為的様相を呈する。

K2十坑の平面形・規模は、開口部90cm×1.1m、底部75×95cmの略楕円形を呈し、断面形は深さ約20cmの鍋形を呈する。埴土は4層に分層されるが、全体的に堅く締まった褐色系土の人為的様相を呈する。

K3上坑の平面形・規模は、開口部で長軸約1.2m、短軸約70cmを呈する。壁は外傾して立ち上がり、底面は南側が約5cmほど高い二段構造になっており、北側で深さ約18cm、南側では約13cmを測る。埴土は6層に細分されるが、上位は黒ボク系土、下位は褐色系土に大別され、全体的に堅く締まった人為的様相を呈する。

K4十坑の平面形・規模は、開口部90cm×1.2m、底部70cm×1mの略楕円形を呈し、断面形は深さ約10cmの皿形を呈する。埴土は堅く締まった黒ボク系土2層からなる人為的様相を呈する。

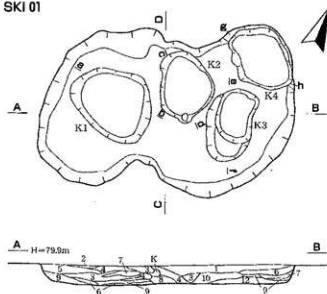
遺物は、土器類では土師器の甕形及びび形土器の破片が中袋で一袋と、須恵器の甕形及びび形土器の破片が数点埋土中から出土し、形状をおよそ把握できた復元個体は、埋土接合の口縁端部を欠く土師器のび形土器1点(図番105)のみである。土器類以外では埴土から土釘2点(図番110・111)と鍛冶滓類2点(写番126・127)、それと縄文土器破片が数点出土した。

#### SKI 02 竪穴状遺構 (第41・42図、写真図版14・33・34)

調査区内の微高地南端部緩斜西、ⅢE-7eグリッドを中心に位置し、盛土整地下のⅢ層上面で検出した。SD03・04と重複し、本遺構が切る。また礎基の柱穴との新旧も確認している。主に規模のことから一応竪穴状遺構として捉えることとした。平面形・規模は、長軸方向が微高地南側縁辺とおよそ直交する北西-南東にあり、長軸約2.9m、短軸約2.3mの略楕円形を呈し、床面積はおよそ3.8㎡を測る。壁は外傾して立ち上がり、壁高は北西側の最大約40cmから南東側約20cmと斜面下方に向かい低くなる。埴土は8層に細分される黒ボク系土を主体とした流入による自然堆積である。床面は概ね平坦で堅縮、施設としては柱穴2基のみ検出された。

遺物は、土器類では土師器の甕形及びび形土器の破片が小袋で一袋と、須恵器の甕形土器の破片が数点埋土中から出土したが、形状をおよそ把握できた復元個体はない。土器類以外では埴土から鍛冶滓類2点(写番128・129)、それと縄文土器破片が数点出土した。

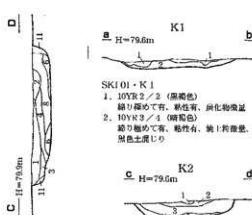
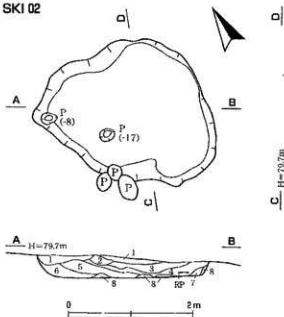
### SKI 01



#### SKI 01

1. 10YR 2/3 (紫褐色) 砂り極めて有、粘性有、炭土粒・炭化物微量
2. 10YR 3/2 (黒褐色) 砂り極めて有、粘性有、炭土粒・炭化物微量
3. 10YR 2/3 (紫褐色) 砂り・粘性有、地山粒微量
4. 10YR 3/3 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山土・灰色土の混じり
5. 10YR 2/2 (黒褐色) 砂り・粘性有
6. 10YR 4/4 (褐色) 砂り極めて有、粘性有、黒色土微量
7. 10YR 4/6 (赤色) 砂り極めて有、粘性有、地山土
8. 10YR 3/1 (黒褐色) 砂り・粘性有
9. 10YR 2/3 (紫褐色) 砂りやや有、粘性有、地山ブロック少量
10. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、赤土ブロック少量、炭化物微量、地山土に黒色土混じり、高峯側に30cm前後赤土層
11. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山土に黒色土混じり
12. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山粒微量

### SKI 02



#### SKI 01・K 1

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 砂り極めて有、粘性有、炭化物微量
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山粒微量

砂質

4. 10YR 5/4 (にぶい黄褐色) 砂り極めて有、粘性有、砂質

#### SKI 01・K 2

1. 10YR 4/4 (褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山土・炭土の混じり
2. 10YR 2/3 (紫褐色) 砂り・粘性有、地山粒微量
3. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有
4. 10YR 2/6 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、砂質
5. 10YR 2/3 (紫褐色) 砂り極めて有、粘性有、砂質
6. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、砂質

#### SKI 01・K 3

1. 10YR 3/3 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山土・炭土の混じり
2. 10YR 2/3 (紫褐色) 砂り・粘性有、地山粒微量
3. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り・粘性有
4. 10YR 4/4 (褐色) 砂り極めて有、粘性有
5. 10YR 2/6 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、砂質
6. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、砂質

#### SKI 01・K 4

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 砂り極めて有、粘性有、炭化物微量
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り・粘性有、地山粒微量

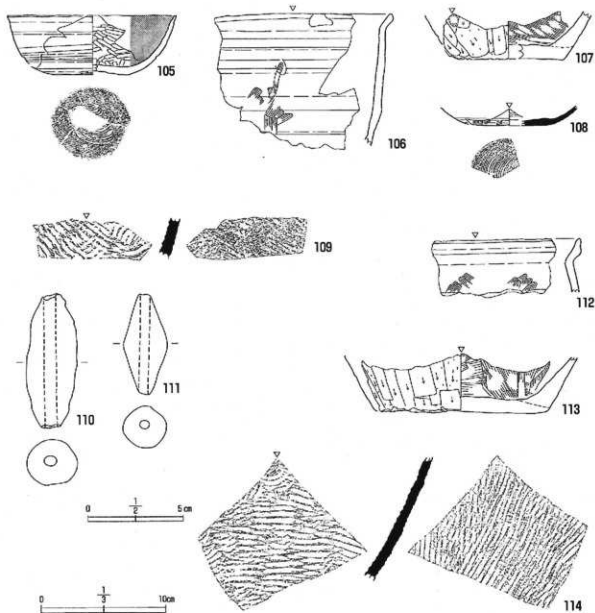
砂質

3. 10YR 3/2 (紫褐色) 砂り・粘性有、地山粒微量、地山粒極めて微量
4. 10YR 2/2 (黒褐色) 砂り・粘性有、地山粒微量
5. 10YR 3/3 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山粒・炭土粒・炭化物極めて微量
6. 10YR 2/2 (黒褐色) 砂り、粘性有、地山粒微量
7. 10YR 3/3 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山土・灰色土の混じり
8. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山土少量

#### SKI 02

1. 10YR 2/3 (紫褐色) 砂り・粘性有、炭土粒微量
2. 10YR 4/6 (赤色) 砂り極めて有、粘性有、地山粒・炭化物微量
3. 10YR 3/2 (紫褐色) 砂り・粘性有、地山粒微量、地山粒極めて微量
4. 10YR 2/2 (黒褐色) 砂り・粘性有、地山粒微量
5. 10YR 3/3 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山粒・炭土粒・炭化物極めて微量
6. 10YR 2/2 (黒褐色) 砂り、粘性有、地山粒微量
7. 10YR 3/3 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山土・灰色土の混じり
8. 10YR 3/4 (暗褐色) 砂り極めて有、粘性有、地山土少量

第41図 SKI 01・02 壁穴状遺構



図番	出土位置・層位	器種	法量 (cm)		成形	裝飾		備考
			口径	器高		内面/外面		
105	SKI 01・北東1層黒	土師器鉢	(13.6)	4.7	6.0	ロクロ	難なミガキ・内面/ロクロナデ・下腹ヘラクスリ	回転糸切り後 縦分のヘラクスリ再調整
106	SKI 01・北東1層黒	土師器鉢	(16.1)	<(10.85)	—	ロクロ	ロクロナデ・口縁縁部付品/ロクロナデー部ヘ ラナデ・傷付品	
107	SKI 01・南東1層黒	土師器鉢	—	(4.85)	(9.1)	非ロクロ	ヘラナデ/ヘラクスリ	
108	SKI 01・北東・埋土	須恵器鉢	—	(1.6)	(6.0)	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ	回転糸切り
109	SKI 01・南東・埋土	須恵器鉢	—	—	—	—	当て異色/タタキ	
112	SKI 02・北ベルト・埋土	土師器鉢	(15.1)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデー部ヘラナデ	
113	SKI 02・東ベルト・埋土	土師器鉢	—	(4.5)	(14.0)	非ロクロ	ヘラナデ/ヘラクスリ・ヘラナデ	
114	SKI 02・南西埋土	須恵器鉢	—	—	—	—	当て異色/タタキ	

図番	器種名・出土地点・層位	種類	長さ (cm)	外径 (cm)	内径 (cm)	重量 (g)	備考
110	SKI 01・東ベルト埋土	土師	0.95	2.65	0.95	40.6	
111	SKI 01・南西埋土	土師	5.2	2.25	0.5	17.9	

第42図 SKI 01・02 竪穴状遺構出土遺物

## (2) 掘立柱建物跡・柱穴群

### SB 01 掘立柱建物跡 (第43区)

調査区内の微高地南西部、ⅢE-7・8 a～dグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。検出状況としては、直径40～50cmと他の柱穴群より一回り大きい柱穴が、ほぼ等間隔の平行配置で並び、S101・02・04の3棟と軸方向が一致して南北にはほぼ直線と並ぶことから、同時期の掘立柱建物跡と判断した。平面形は、桁行四間、梁行二間の長方形プランを呈し、長軸方向はおよそ北-南にある。規模は、桁行が約12m、梁行が約5m、柱間は桁行で北側から約2.5m、3m、3m、3.5mと南側に向かい広くなり、梁行では約2.5mを測る。南側から一間目のP6・9の間にも対応する柱穴が検出された。柱穴配置と柱間の間隔から、北側の一×二間、中央の二×二間、南側の一×二間と空間の分割使用が考えられ、南側は増築である可能性も考えられる。各柱穴の埋土は基本的には黒ボク土の単層で、一部下位には裏込めか崩落の褐色系土が堆積するものもあったが、いずれも精査過程では柱痕跡は確認されなかった。

各柱穴から遺物は出土しなかった。

### SB 02 掘立柱建物跡 (第43区)

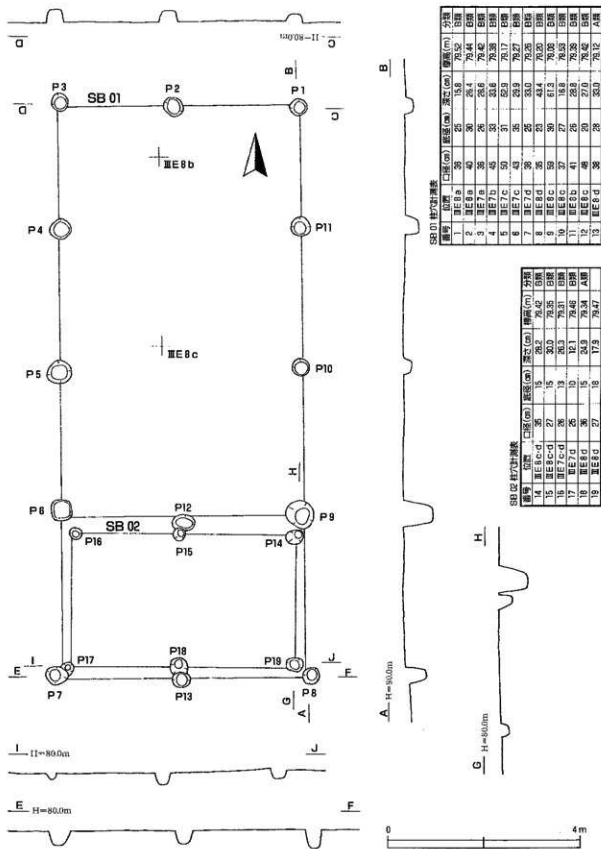
調査区内の微高地南西端、ⅢE-7・8 dグリッドに位置し、ほとんどの柱穴は削平されたIV層中で検出した。SB01と重複し、各柱穴の直径は約30cmとSB01を構成するものより一回り小さく、配置がSB01の南側空間を構成する柱穴6基と対応し、一回り小さいプランであることから、増築前の別棟の一棟であったと思われる。平面形は、桁行二間、梁行一間の長方形プランを呈し、長軸方向はおよそ東-西にある。規模は、桁行が約4.8m、梁行が約2.7m、柱間は桁行の東側は約2.5m、西側は約2.3mを測る。各柱穴の埋土は基本的には黒ボク土の単層で、いずれも精査過程では柱痕跡は確認されなかった。

各柱穴から遺物は出土しなかった。

### 柱穴群 (第44～48・54区、写真図版33)

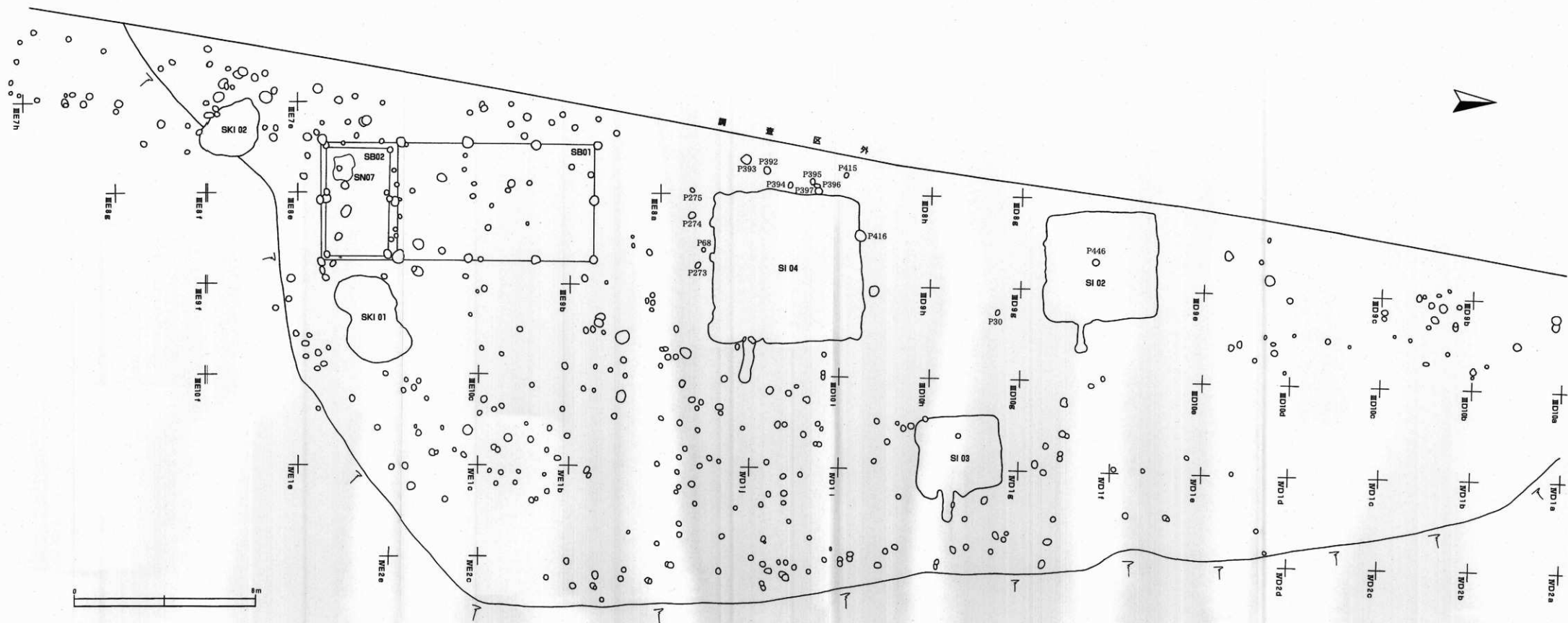
掘立柱建物跡に帰属すると判断したものを除き、総数で約400基を検出した。時期を特定できる遺物の出土した柱穴はほとんどないが、他の遺構との配置分布状況と竪穴住居跡の埋土途中からの掘り込みが確認された柱穴が存在することと中近世の遺物が皆無に近いなどのことから一応、すべて古代に属するものと判断した。分布状況としては、東側の低地では掘立柱建物跡等の立地条件としては不適であったものも存在せず、南側低地でも微高地からの緩斜面上の幾分高い部分でのみ検出されたに止まる。また調査区北部の水路より北側では、深く削平されているためか柱穴は検出されず、微高地の北半部S102から北側では希薄であり、ほとんどがS104から南側の微高地上に位置する。微高地が全体的に削平されていることもあって、規格的な柱間の並びを見出しえず、積極的に建物跡を想定するには至らなかったが、多数の柱穴の存在と存続期間があまり長くないと思われる他の遺構の状況からは、住居跡や土坑類などが存在せず、建物内部と思われる空間で柱穴群のやや希薄な部分が認められるS104及びSB01の東側の微高地縁辺部に、2乃至3棟前後の掘立柱建物跡が存在していたと推定される。また、分布状況から微高地南側の緩斜面上にも1棟存在した可能性が窺える。掘立柱建物跡等を想定しえなかった残りの柱穴については以下に一覧表として掲載する。なお、表中の分類は検出面での注記区分であり、A類は10YR2/2 (黒褐色)、B類は10YR2/3 (黒褐色)、C類は10YR3/3 (暗褐色)、D類は10YR3/4 (暗褐色) を主体とするもので、A・B類が大半を占める。

遺物はSKP196・197出土が接合した土師器の皿形土器1点(図番115)が目付付いた程度だが、この柱穴にしても竪穴住居跡に伴うものであった可能性の考えられるものである。

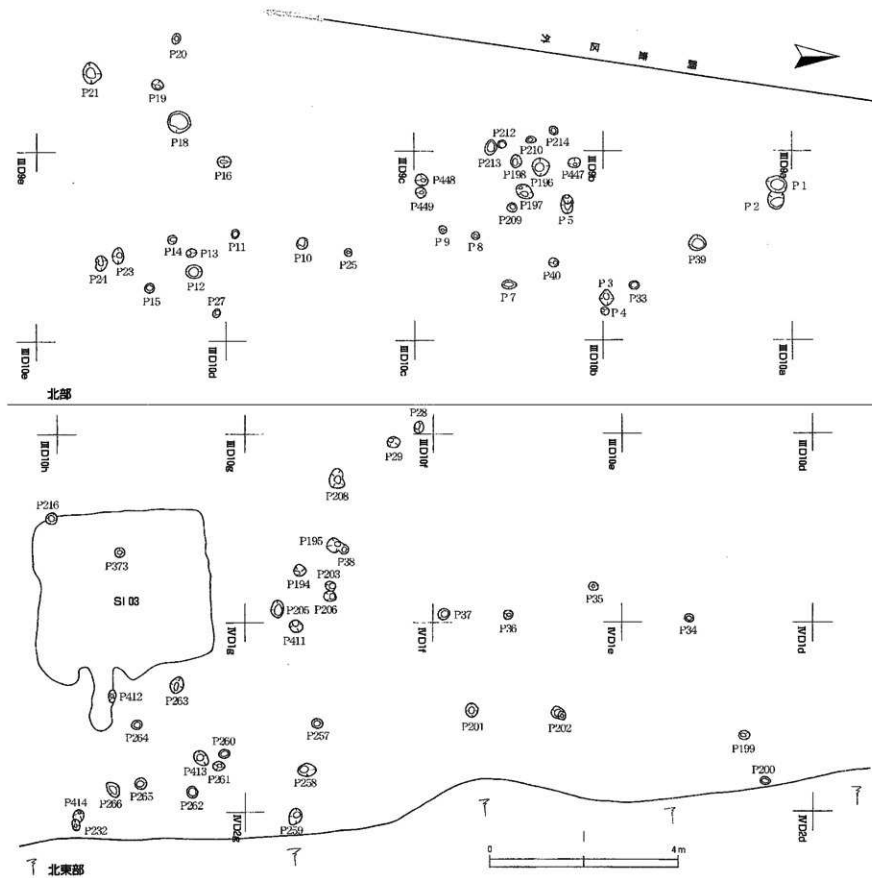


第43図 SB 01・02 掘立柱建物跡

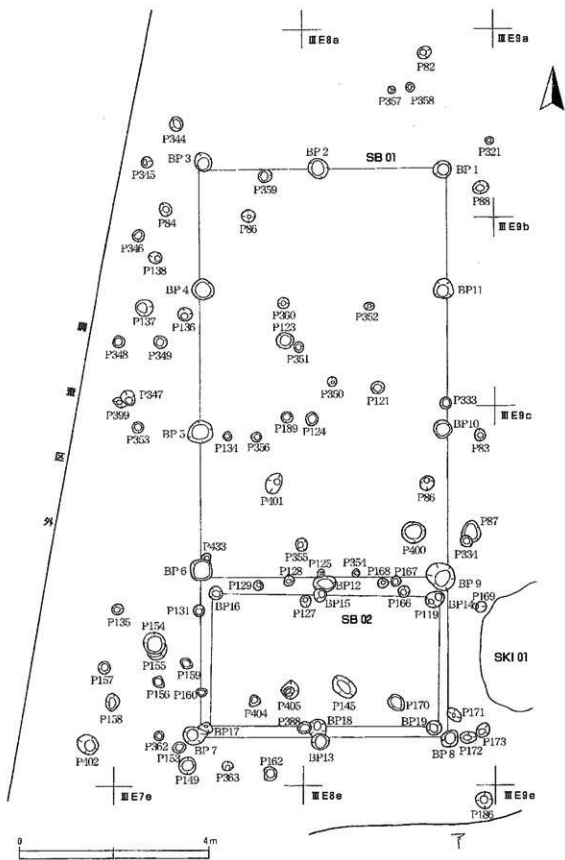




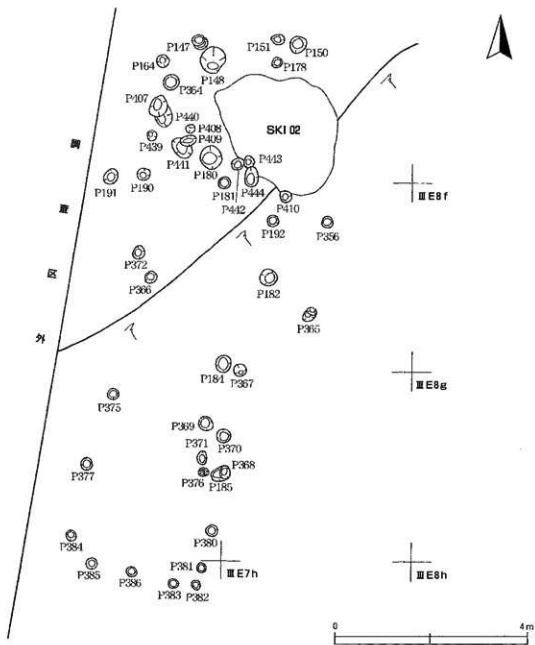
第44图 柱穴群 1 (全体图)



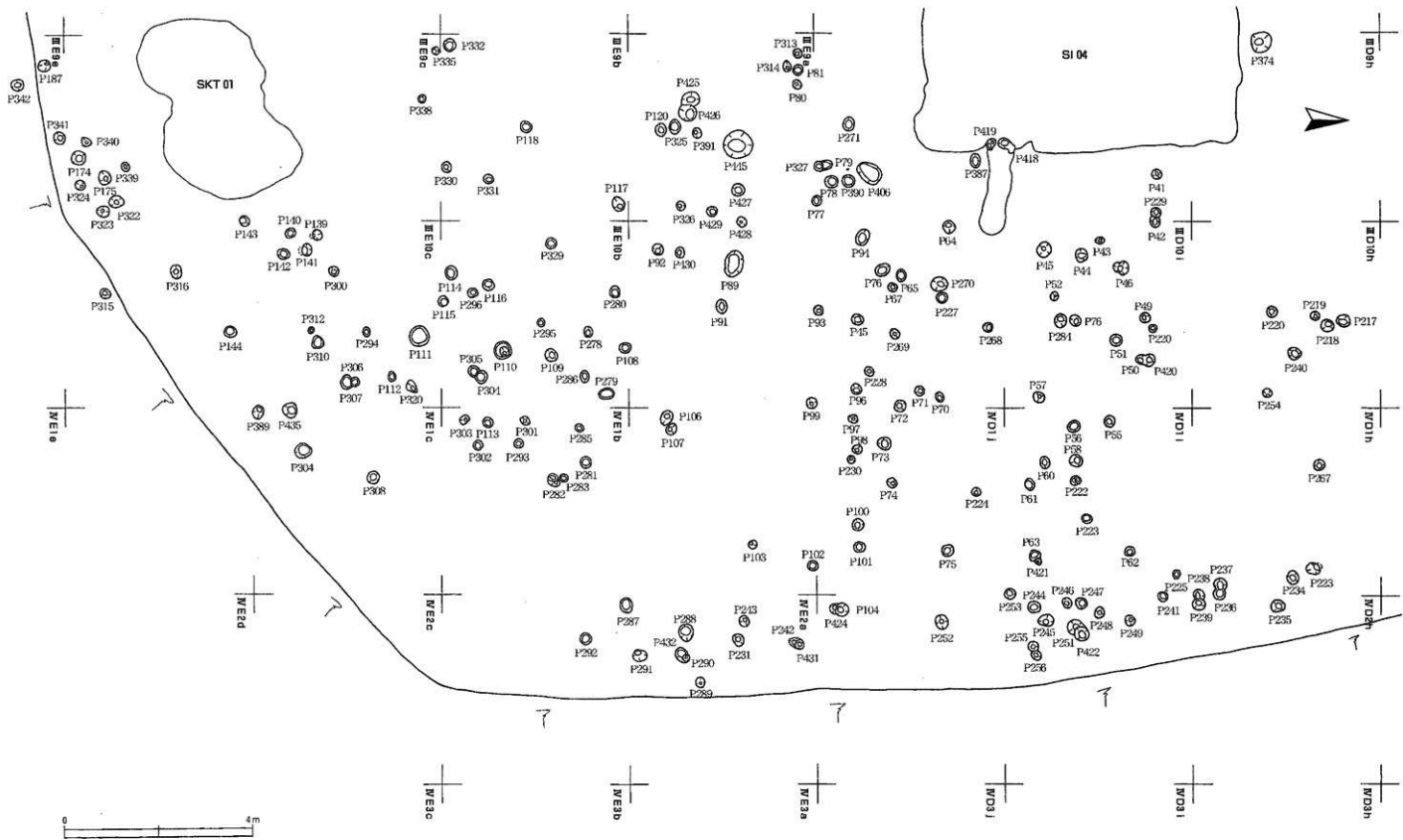
第45図 柱穴群2 (北部・北東部)



第46図 柱穴群3 (南部1)



第47図 柱穴群4 (南部2)



第48図 柱穴群5 (南東部)

柱穴一覧表 (北部)

番号	位置	概形	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
210	ⅢD8b	略枡円	22.0×15.0	12.0×10.0	20.3	79.61	A類	
212	ⅢD8b	略円	18.5	13.5	20.6	79.62	A類	
213	ⅢD8b	略枡円	34.0×23.0	24.0×17.0	9.1	79.72	A類	
214	ⅢD8b	略枡円	18.0×16.0	11.0×9.5	24.1	79.51	A類	
215	ⅢD8b	略円	34.5	15.5	21.7	79.58	A類	
18	ⅢD8d	略円	46.5	39.5	13.2	79.70	A類	
19	ⅢD8d	略円	22.5	12.0	27.5	79.56	A類	
20	ⅢD8d	略枡円	23.0×18.0	12.0×10.0	18.4	79.66	A類	
21	ⅢD8d	略枡円	47.0×36.0	22.0×21.0	10.8	79.72		
1	ⅢD9a	略枡円	42.0×37.0	29.0×24.0	25.7	79.60	A類	P2
2	ⅢD9a	略枡円	(34.0)×33.0	32.0×21.0	15.7	79.80	D類	P1
3	ⅢD9a	略力形	25.0	13.0	36.7	79.47	D類	
4	ⅢD9a	略円	18.0	7.0	27.5	79.56	D類	
33	ⅢD9a	略円	19.5	16.0	10.6	79.74	A類	
39	ⅢD9a	略枡円	39.0×34.0	28.0×24.0	14.3	79.71	A類	
5	ⅢD9b	略枡円	41.0×25.0	7.0	48.5	79.34	A類	
7	ⅢD9b	略枡円	30.0×21.0	20.0×13.0	27.4	79.49	A類	
8	ⅢD9b	略円	18.0	9.0	22.8	79.54	A類	
9	ⅢD9b	略円	16.5	8.0	21.7	79.57	A類	
40	ⅢD9b	略円	20.5	8.5	24.7	79.56	A類	
196	ⅢD9b	略円	38.0	20.5	42.2	79.39	A類	
197	ⅢD9b	略枡円	37.0×29.0	8.0	52.0	79.30	A類	
198	ⅢD9b	略枡円	29.0×24.0	20.0×14.0	46.3	79.36	A類	
209	ⅢD9b	略枡円	22.0×18.0	17.0×12.0	30.4	79.62	A類	
447	ⅢD9b	略円	23.5	7.0×6.0	26.0	79.31	D類	
448	ⅢD9b	略枡円	26.5×23.5	11.0×8.0	21.9	79.40	A類	
449	ⅢD9b	略枡円	24.5×22.0	11.0×7.5	23.4	79.44		
10	ⅢD9c	略円	25.0	20.0×14.0	45.9	79.36	A類	
11	ⅢD9c	略円	17.0	13.5	7.7	79.74	A類	
16	ⅢD9c	略枡円	29.0×26.0	10.0	22.9	79.61	A類	
25	ⅢD9c	略枡円	16.0×14.0	9.0×7.0	18.4	79.61	A類	
12	ⅢD9d	略枡円	35.0×30.0	23.0×21.0	32.6	79.52	A類	
13	ⅢD9d	略枡円	24.0×19.0	15.0×13.0	31.4	79.51	A類	
14	ⅢD9d	略円	19.0	13.0×11.0	48.7	79.33	A類	
15	ⅢD9d	略円	19.5	16.0×13.0	16.3	79.67	A類	
23	ⅢD9d	略枡円	36.0×23.0	13.0×12.0	42.6	79.40	A類	
24	ⅢD9d	略枡円	32.0×25.0	24.0×10.0	32.9	79.50	A類	
27	ⅢD9d	略枡円	18.0×14.0	11.0	35.2	79.48	A類	

柱穴一覧表 (北東部)

番号	位置	概形	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
28	ⅢD10f	略枡円	23.0×20.0	15.0×12.0	30.2	79.55	A類	
34	ⅢD10d	略円	18.0	12.6	37.5	79.45	A類	
35	ⅢD10e	略円	19.0	8.0	30.3	79.49	A類	
36	ⅢD10e	略円	20.0	9.5	23.7	79.55	A類	
37	ⅢD10e	略円	24.0	16.0	30.0	79.49	A類	
29	ⅢD10f	略枡円	28.0×24.0	10.0	36.8	79.48	A類	
38	ⅢD10f	略円	21.0	10.3	30.1	79.53	A類	
194	ⅢD10f	略円	24.0	18.0×8.0	45.1	79.38		

番号	位置	形状	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
195	ⅢD10f	略門	32.0	14.0×12.0	42.6	79.41	A類	P38
203	ⅢD10f	略門	22.0	13.5	37.2	79.46	B類	P206
205	ⅢD10f	略橋門	37.0×26.0	28.0×16.0	10.0	79.72	A類	
206	ⅢD10f	略門	19.0	14.0	46.6	79.36	B類	P203
208	ⅢD10f	略橋門	41.0×30.0	11.0×9.0	41.1	79.42		
411	ⅢD10f	略橋門	29.0×27.5	15.0×15.5	54.2	79.38	D類	SK14
373	ⅢD10g	略門	20.5	11.0	11.3	79.41	B類	SI04
199	ⅣD1d	略門	21.5	11.5	30.5	79.62	A類	
200	ⅣD1d	略橋門	20.0×17.0	16.0×11.0	28.6	79.50	A類	
201	ⅣD1e	略橋門	29.0×27.0	17.0×13.0	41.8	79.60	A類	
202	ⅣD1e	略門	23.0	15.0	19.4	79.84	A類	
257	ⅣD1f	略門	20.5	14.0	52.7	79.42	B類	
258	ⅣD1f	略橋門	38.0×26.0	21.0×16.0	19.5	79.76	A類	
259	ⅣD1f	略橋門	39.0×27.0	5.0	29.3	79.54	B類	
260	ⅣD1g	略橋門	24.0×17.0	19.0×13.0	9.5	79.88	D類	
261	ⅣD1g	略橋門	26.0×20.0	10.0×9.0	28.6	79.70	D類	SK12
262	ⅣD1g	略橋門	25.0×22.0	19.0×17.0	30.2	79.68	A類	
263	ⅣD1g	略橋門	38.0×28.0	20.0×10.9	39.4	79.50	B類	
264	ⅣD1g	略橋門	22.0×19.0	14.5	82.4	79.34	A類	
265	ⅣD1g	略門	25.0	18.0×14.0	53.0	79.47	B類	
266	ⅣD1g	略橋門	38.0×26.0	24.0×14.0	17.4	79.83	A類	SKT03
412	ⅣD1g	略橋門	50.2×31.5	11.0	30.8	79.63		SI04
413	ⅣD1g	略橋門	27.0	15.0	33.9	79.34		SK12
414	ⅣD1g	略橋門	17.5×16.0	7.0×5.5	17.7	79.79	B類	P232
232	ⅣD2g	略橋門	25.0×18.0	8.0	14.4	79.80	B類	P414

柱穴一覧表 (中央部)

番号	位置	形状	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
415	ⅢD7h	略橋門	23.5×20.0	5.0×4.0	29.4	79.50	B類	SK22
392	ⅢD7i	略橋門	37.0×28.0	24.0×22.0	13.5	79.60	B類	
394	ⅢD7i	略橋門	27.0×20.0	9.5	24.1	79.63		
395	ⅢD7i	略門	26.5	13.0	37.9	79.46		
396	ⅢD7i	略橋門	30.0×20.0	17.0×13.0	12.3	79.69		P397
397	ⅢD7i	略橋門	34.0×29.5	24.0×20.0	11.9	79.65		SI04・P396
275	ⅢD7j	略門	19.0	11.0	6.5	79.65	C類	
393	ⅢD7j	略門	45.5	13.0	31.7	79.49		
446	ⅢD8f	略橋門	31.0×27.5	22.0×21.0	26.8	79.23	D類	
416	ⅢD8h	略橋門	49.0×48.0	31.0×24.0	42.5	79.40		SI04・SK24
68	ⅢD8j	略門	21.5	10.5	13.2	79.58	B類	
273	ⅢD8j	略橋門	34.0×21.0	18.0×12.0	21.2	79.51	B類	
274	ⅢD8j	略橋門	36.0×27.0	28.0×19.0	12.6	79.60	B類	
30	ⅢD8g	略橋門	28.0×21.0	0.8	42.4	79.41	B類	
41	ⅢD9h	略門	22.5	10.0×7.0	19.0	79.54	A類	
374	ⅢD9h	略橋門	46.0	19.5	35.0	79.54		SKT07

柱穴一覧表 (南東部)

番号	位置	形状	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
42	ⅢD9i	略門	22.0	15.0×12.0	15.7	79.57	B類	P229
229	ⅢD9i	略門	21.5	11.5	47.9	79.25	B類	P42

番号	位置	概形	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	備 注
418	ⅢD9f	暗格円	41.0×22.5	14.0×12.0	21.2	79.50	A類	S104
77	ⅢD9j	暗格円	20.5	16.0×13.0	39.7	79.33	A類	SK30
78	ⅢD9j	暗格円	30.0×25.0	18.0×17.0	43.0	79.30		
79	ⅢD9j	暗格円	21.0	17.0	30.1	79.43	B類	P327
271	ⅢD9j	暗格円	30.0×24.0	20.0×17.0	22.4	79.51		
327	ⅢD9j	暗格円	20.5	15.0×12.0	38.0	79.34	B類	P79
387	ⅢD9j	暗格円	28.0×20.0	19.0×13.0	19.8	79.53		
390	ⅢD9j	暗格円	27.0×23.0	21.0×19.0	8.8	79.64	B類	
406	ⅢD9j	暗格円	34.0×39.0	19.0×28.0	18.7	79.53		SKT23
419	ⅢD9j	暗格円	18.0	11.5×7.0	10.0	79.62		S104
216	ⅢD10h	暗格円	32.0	19.0	31.1	79.64	A類	S104
217	ⅢD10h	暗格円	28.0	20.0×15.0	13.8	79.80	A類	
218	ⅢD10h	暗格円	28.5	15.0×13.0	63.6	79.30	A類	
219	ⅢD10h	暗格円	21.0×19.0	11.0×8.0	31.8	79.63	完加	
226	ⅢD10h	暗格円	22.5	14.0×11.0	50.5	79.33	A類	
240	ⅢD10h	暗格円	30.0×27.0	15.5	41.1	79.55	A類	
254	ⅢD10h	暗格円	20.5	9.5	20.8	79.51	A類	
43	ⅢD10i	暗格円	20.0×17.0	9.0×7.5	13.5	79.62	B類	
44	ⅢD10i	暗格円	28.0×26.0	19.0×11.0	43.6	79.31	B類	
46	ⅢD10i	暗格円	33.0	11.0×9.0	31.1	79.43		
46	ⅢD10i	暗格円	32.0×25.0	13.0×10.0	19.7	79.53	B類	
49	ⅢD10i	暗格円	24.0×22.0	11.0×9.5	42.1	79.51	B類	
50	ⅢD10i	暗格円	39.0×23.0	14.0	44.7	79.28	D類	P420
51	ⅢD10i	暗格円	29.0×25.0	17.0×15.0	18.1	79.55	D類	
52	ⅢD10i	暗格円	18.0	5.0	19.8	79.51		
57	ⅢD10i	暗格円	25.0	8.0	19.3	79.53	D類	
220	ⅢD10i	暗格円	19.5	10.0	20.2	79.53	D類	
284	ⅢD10i	暗格円	31.0×26.0	16.5×12.0	47.7	79.26	B類	
420	ⅢD10i	暗格円	21.0×20.0	13.0×12.5	19.6	79.28	H類	P50
64	ⅢD10j	暗格円	28.0×26.0	14.0×13.0	18.9	79.55		
65	ⅢD10j	暗格円	23.5	16.0	17.3	79.56	B類	
67	ⅢD10j	暗格円	19.0	9.5	8.6	79.64	B類	
70	ⅢD10j	暗格円	20.5×16.5	12.0	15.6	79.56	C類	
71	ⅢD10j	暗格円	21.5	12.5	28.0	79.44	A類	
72	ⅢD10j	暗格円	25.5	13.5	33.1	79.39		
76	ⅢD10j	暗格円	34.0×25.0	22.0×15.0	7.3	79.65	C類	
93	ⅢD10 j	暗格円	21.0	10.5	23.7	79.47	H類	
94	ⅢD10 j	暗格円	37.0×28.0	21.0×16.0	22.1	79.51	H類	
95	ⅢD10 j	暗格円	25.5	14.0	28.0	79.44	H類	
96	ⅢD10 j	暗格円	73.0	7.0	22.0	79.49	B類	
99	ⅢD10 j	暗格円	22.5	10.0	18.0	79.54	B類	
228	ⅢD10j	暗格円	19.5	11.0	43.0	79.27	A類	
268	ⅢD10j	暗格円	30.0×19.0	16.0×12.0	19.0	79.55		
269	ⅢD10j	暗格円	23.5	7.5	23.9	79.48	D類	
270	ⅢD10j	暗格円	38.5×29.0	15.5×12.0	37.7	79.36	B類	
277	ⅢD10j	暗格円	21.5	18.0	18.9	79.54	D類	
89	ⅢE10a	暗格円	57.0×38.0	45.0×21.0	20.2	79.50	A類	
233	ⅣD1h	暗格円	32.0×26.0	17.0×14.0	61.4	79.36	B類	
234	ⅣD1h	暗格円	29.0×24.0	15.0	38.8	79.58	B類	
236	ⅣD1h	暗格円	24.0	17.0	8.3	79.90	B類	P237
237	ⅣD1h	暗格円	28.0	19.0×13.0	8.2	79.89	B類	P236



番号	位置	概形	口径	口径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
238	IVD1h	略門	24.0	14.0×8.5	25.1	79.74	B類	P239
267	IVD1h	橋門	24.0	14.5	52.7	79.21	B類	
55	IVD1i	略門	22.0	12.0	20.0	79.51	C類	
56	IVD1i	略橋門	27.0×24.0	20.0×16.0	16.1	79.55	C類	
58	IVD1i	略門	27.0	13.5	49.3	79.24	C類	
60	IVD1i	略橋門	26.0×21.0	15.0×11.0	26.8	79.47	B類	
61	IVD1i	略橋門	26.5×20.0	18.0×16.0	25.9	79.48	A類	
62	IVD1i	略橋門	22.0×19.0	15.0×13.0	42.0	79.33	C類	
63	IVD1i	略門	23.0	18.0×12.0	9.9	79.65	C類	P421
222	IVD1i	略橋門	23.0×21.0	11.0×9.0	16.7	79.57	C類	
223	IVD1i	略門	20.5	14.0	7.5	79.67	C類	
225	IVD1i	略橋門	17.0×13.0	13.0×9.0	18.8	79.73	D類	
241	IVD1i	略門	20.0	13.5	39.7	79.58	B類	
253	IVD1i	略門	23.5	12.5	35.2	79.51	B類	
421	IVD1j	略橋門	12.5	6.5	8.2	79.67		P63
73	IVD1j	略門	27.5	18.0×14.0	23.8	79.49		
74	IVD1j	略門	21.0	10.5	10.8	79.63		
75	IVD1j	略門	24.0	18.0×13.0	24.1	79.50	B類	
97	IVD1j	略橋門	20.0×17.0	8.0×6.0	26.1	79.46		
98	IVD1j	略門	20.5	8.5	25.6	79.47	B類	
100	IVD1j	略橋門	21.5	15.0×13.0	22.7	79.51	B類	
101	IVD1j	略橋門	23.0×21.0	14.0	17.0	79.57	B類	
224	IVD1j	略門	18.0	9.0	6.5	79.68	B類	
230	IVD1j	略門	16.0	8.0	7.1	79.65	C類	
235	IVD2h	略橋門	32.0×26.0	13.0×12.0	30.6	79.69	D類	
239	IVD2h	略門	27.0	14.0×10.5	36.5	79.62	B類	P238
244	IVD2i	略橋門	27.0×24.0	17.0×14.0	17.1	79.77	D類	
245	IVD2i	略橋門	34.0×23.0	14.0×11.0	61.5	79.32	B類	
246	IVD2i	略橋門	23.0×18.0	9.5	27.6	79.66	B類	
247	IVD2i	略門	23.0	15.5	29.1	79.65	B類	
248	IVD2i	略橋門	23.0×21.0	9.5	17.5	79.78	A類	
249	IVD2i	略橋門	23.0×20.0	9.0×7.5	51.2	79.47	A類	
251	IVD2i	略門	34.0	11.0	13.9	79.80	B類	P422
255	IVD2i	略門	18.5	9.5	27.6	79.64	B類	P256
256	IVD2i	略橋門	16.0×14.0	10.0×8.0	22.6	79.67	B類	P255
422	IVD2i	略橋門	31.0×29.0	16.0×15.5	16.9	79.76	D類	P251
104	IVD2j	略門	31.0	14.5	42.9	79.47	B類	P424
262	IVD2j	略橋門	30.0×25.0	9.0	27.2	79.63	B類	
424	IVD2j	略橋門	18.5	9.5	8.8	79.38	B類	P104
80	ⅢE9a	略橋門	21.0×19.0	12.0×6.0	10.6	79.50	C類	
81	ⅢE9a	略門	23.5	18.0×15.0	11.6	79.57	C類	
120	ⅢE9a	略門	25.5	16.0	21.4	79.49	B類	
313	ⅢE9a	略門	21.5	11.0	43.8	79.27	B類	
314	ⅢE9a	略橋門	23.0×18.0	8.0	12.3	79.58	C類	
325	ⅢE9a	略橋門	31.0×26.0	20.5	12.5	79.59	B類	
326	ⅢE9a	略門	19.0	10.0	6.3	79.66	B類	
391	ⅢE9a	略橋門	23.0×18.0	12.0×7.0	14.6	79.57	B類	
425	ⅢE9a	略橋門	32.5×22.0	19.5×11.5	7.1	79.43	A類	SK35・P426
426	ⅢE9a	略橋門	40.0×34.0	24.5×17.5	35.4	79.36	B類	SK35・P425
427	ⅢE9a	略門	27.0	15.5	14.9	79.46	B類	SK37
428	ⅢE9a	略橋門	22.5×19.0	7.0×5.0	13.0	79.40	A類	SK37

番号	位置	概形	口径	底径	深さ (mm)	標高 (m)	分類	重複
429	ⅢE9a	略枘円	22.0×19.5	14.0×13.5	16.9	79.28		SK37
445	ⅢE9a	略枘円	63.5×60.5	38.5×27.0	16.5	79.43		SK33
117	ⅢE9b	略枘円	31.0×27.0	12.5	48.0	79.25	B類	
118	ⅢE9b	略枘円	24.0×22.0	18.0×17.0	15.4	79.56	B類	
330	ⅢE9b	略円	24.0	12.0	13.7	79.56	B類	SKT15
331	ⅢE9b	略円	21.0	13.5	29.1	79.43	B類	
332	ⅢE9b	略枘円	29.0×25.0	19.0×17.0	38.2	79.32	B類	
335	ⅢE9c	略円	16.0	9.5	18.4	79.50	B類	
338	ⅢE9c	略円	17.5	13.0×11.0	11.1	79.59	B類	
143	ⅢE9d	略円	23.0	9.0	36.7	79.34	B類	
174	ⅢE9d	略円	30.0	16.5	17.3	79.34	B類	
175	ⅢE9d	略円	28.5	11.0	16.8	79.39	A類	
322	ⅢE9d	略枘円	32.0×24.0	12.0×10.0	22.3	79.35	A類	
323	ⅢE9d	略枘円	27.0×23.0	10.0×8.0	13.7	79.38	A類	
321	ⅢE9d	略枘円	24.0×20.0	9.0×6.0	17.3	79.30	B類	
339	ⅢE9d	略円	19.5	10.0×6.0	23.6	79.40	B類	
340	ⅢE9d	略枘円	20.0	7.5	12.6	79.42	B類	
187	ⅢE9c	略円	26.5	8.0×5.0	22.7	79.23	B類	
341	ⅢE9c	略枘円	26.0×24.0	13.0	9.8	79.36	B類	
342	ⅢE9c	略枘円	26.0×24.0	18.0×11.0	14.6	79.23	B類	
91	ⅢE10a	略枘円	29.0×27.0	18.0×13.0	28.1	79.41	A類	
92	ⅢE10a	略枘円	24.0×22.0	13.0	27.9	79.45	D類	
430	ⅢE10a	略枘円	20.0×18.0	11.5×11.0	17.7	79.54	C類	SKT09
108	ⅢE10b	略枘円	26.0×20.0	16.0	21.2	79.51	B類	
109	ⅢE10b	略円	26.0	14.0	9.2	79.64	B類	
110	ⅢE10b	略円	35.5	10.0	22.6	79.50	B類	
114	ⅢE10b	略枘円	29.5×26.0	20.0×16.0	26.9	79.45	B類	
115	ⅢE10b	略円	23.0	14.5	29.0	79.43	A類	
116	ⅢE10b	略円	24.0	17.0×12.0	40.5	79.32	B類	
278	ⅢE10b	略枘円	23.0×18.0	13.0×11.0	14.4	79.57	B類	
279	ⅢE10b	略枘円	31.0×27.0	27.0×25.0	20.9	79.52	B類	
280	ⅢE10b	略枘円	23.0×21.0	16.0×15.0	65.2	79.17	B類	
288	ⅢE10b	略円	25.0×18.0	15.0×12.0	14.5	79.58	D類	
295	ⅢE10b	略円	13.5	11.0	9.8	79.63	B類	
296	ⅢE10b	略枘円	22.0×17.0	13.0×12.0	9.1	79.63	B類	
304	ⅢE10b	略円	28.0	20.0	28.3	79.43	A類	P305
305	ⅢE10b	略円	23.0	18.0	13.3	79.58	B類	P304
329	ⅢE10b	略枘円	22.5	16.0	14.3	79.57	B類	
111	ⅢE10c	略円	43.5	33.5	8.7	79.63	B類	
112	ⅢE10c	略枘円	20.0×18.0	13.5	12.9	79.59		
139	ⅢE10c	略円	23.5	9.5	32.6	79.39	B類	
140	ⅢE10c	略円	21.0	13.5	25.2	79.47	B類	
141	ⅢE10c	略枘円	27.0×23.0	19.5	31.6	79.39	D類	
142	ⅢE10c		28.0×22.0	17.0×14.0	20.1	79.51	B類	
294	ⅢE10c	略枘円	19.0×15.0	14.0×11.0	11.1	79.61	B類	
300	ⅢE10c	略円	21.5	12.5	28.8	79.43	A類	
306	ⅢE10c	略円	19.5	16.0×13.0	13.3	79.59		P307
307	ⅢE10c	略円	31.0	25.0	10.5	79.62		P306
310	ⅢE10c	略枘円	26.0×24.0	22.0×21.0	8.9	79.63	B類	
312	ⅢE10c	略枘円	13.0×11.0	11.0×9.0	5.0	79.66	A類	
320	ⅢE10c	略円	22.0		10.4	79.61	B類	SK27

番号	位置	形状	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
435	ⅢE10c	略楕円	31.0×28.5	15.5×17.0	24.2	79.47	B類	SK32
144	ⅢE10d	略円	26.5	18.0	14.1	79.56	A類	
315	ⅢE10d	略円	21.0	10.5	38.6	78.98	A類	
316	ⅢE10d	略円	27.0	12.0	24.5	79.41	A類	
102	ⅣE1a	略楕円	23.0×19.0	14.0	12.6	79.61	B類	
103	ⅣE1a	略円	18.5	8.0	11.0	79.62	B類	
106	ⅣE1a	略楕円	33.0×25.0	12.0	29.3	79.40	C類	
107	ⅣE1a	略楕円	27.0×23.0	10.5	22.5	79.44	C類	
113	ⅣE1b	略円	22.5	14.0	8.8	79.64		
281	ⅣE1b	略円	24.0	15.5	27.2	79.45	D類	
282	ⅣE1b	略円	24.0	11.0	20.0	79.50	A類	
283	ⅣR1b	略円	19.5	13.0×11.0	14.7	79.57	A類	
285	ⅣR1b	略円	17.5	11.5	15.0	79.56	C類	
293	ⅣR1b	略円	19.5	13.0×12.0	8.0	79.64	B類	
301	ⅣE1b	略円	19.5	8.5	7.9	79.65	B類	
302	ⅣE1b	略円	21.5	15.0×13.0	2.6	79.69	B類	
303	ⅣE1b	略円	17.0	13.0	14.3	79.57	B類	
308	ⅣE1c	略円	27.0	15.0	22.4	79.19	A類	
309	ⅣE1c	略楕円	37.0×31.0	23.5	26.4	79.41	A類	
389	ⅣE1c	略楕円	31.0×22.0	13.5	20.2	79.45	C類	SK32
231	ⅣE2a	略円	25.0	12.0	23.2	79.69	B類	
242	ⅣE2a	略円	25.0	10.0	9.3	79.82	D類	P431
243	ⅣE2a	略円	21.5	9.5	13.6	79.77	A類	
287	ⅣE2a	略楕円	30.0×26.0	24.0×18.0	17.3	79.68	B類	
288	ⅣE2a	略楕円	37.0×30.5	23.0×22.0	18.9	79.68	B類	
289	ⅣE2a	略楕円	21.0×18.0	8.0	17.1	79.48	A類	
390	ⅣE2a	略円	24.0	14.0	13.6	79.65	B類	P432
291	ⅣE2a	略楕円	31.0×24.0	16.0×10.0	17.7	79.52	B類	
431	ⅣE2a	略楕円	22.0×19.0	10.0×9.0	20.1	79.72	D類	P242
432	ⅣE2a	略楕円	23.5	14.5	13.6	79.65	B類	P290
292	ⅣE2b	略円	23.5	17.5	17.0	79.54	B類	

柱穴一覧表 (南部)

番号	位置	形状	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
157	ⅢF6d	略楕円	26.0×23.0	16.0×14.0	9.3	79.50	D類	
158	ⅢF6d	略楕円	37.0×29.0	26.0×16.0	17.9	79.41	D類	
402	ⅢF6d	略楕円	46.0×42.0	24.5	17.2	79.41		
147	ⅢF6c	略円	31.0×26.0	18.0×16.0	46.2	79.09	B類	
148	ⅢF6c	略楕円	58.0×52.0	24.0×15.0	25.7	79.30	B類	
164	ⅢE6c	略円	27.5	14.5	22.7	79.32	B類	
179	ⅢE6c	略楕円	51.0×42.0	29.0×25.0	18.7	79.31	B類	
180	ⅢE6c	略楕円	48.0×40.0	27.0×24.0	18.3	79.32	B類	
190	ⅢE6c	略楕円	29.0×23.0	14.0	63.1	78.91	B類	
191	ⅢE6c	略楕円	32.0×29.0	19.0	7.3	79.46	A類	
364	ⅢE6c	略円	33.5	26.0×23.0	24.3	79.30		
407	ⅢF6c	略楕円	48.0×36.0	26.0×19.0	39.1	79.15		SD03・P410
408	ⅢF6c	略円	21.0	12.0×14.0	40.7	79.01		SD03
409	ⅢF6c	略楕円	35.0×22.0	23.0×10.0	6.5	79.08		SD03・P441
439	ⅢE6c	略楕円	23.0×19.5	10.5×9.0	20.0	79.19		SD03
440	ⅢE6c	略楕円	35.0	15.5	27.3	79.24		SD03・P407

番号	位置	概形	口径	底径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
441	ⅢE6c	略楕円	46.5	26.5×21.5	1.7	79.27	B類	SD03
366	ⅢE6f	略円	24.0	17.0×15.0	12.7	79.29	B類	
372	ⅢE6f	略円	28.5	16.5	27.5	79.22	B類	P185
185	ⅢE6g	略円	30.0	17.0	14.8	78.91	A類	P368
368	ⅢE6g	略楕円	27.0×21.0	14.0×12.5	18.9	79.88	A類	
369	ⅢE6g	略円	29.0	19.5	17.2	78.98	B類	
370	ⅢE6g	略楕円	30.0×27.0	19.5	18.1	78.94	A類	
371	ⅢE6g	略楕円	28.0×19.0	17.0×12.0	19.5	78.90	A類	
375	ⅢE6g	略楕円	24.0×22.0	17.0×15.0	34.9	78.86	B類	
376	ⅢE6g	略円	19.0	7.0	15.4	78.92	A類	
377	ⅢE6g	略円	24.0	17.0	13.4	79.00	B類	
380	ⅢE6g	略楕円	25.0×21.0	17.0×15.0	17.0	78.84	A類	
384	ⅢE6g	略円	21.0	15.0×13.0	11.8	78.97	B類	
381	ⅢE6h	略楕円	22.0×19.0	17.0×15.0	13.8	78.85	B類	
382	ⅢE6h	略円	18.5	13.5	14.7	78.80	B類	
383	ⅢE6h	略楕円	21.0×19.0	18.0×16.0	11.3	78.87	B類	
385	ⅢE6h	略楕円	25.0×23.0	16.0	19.7	78.86	B類	
386	ⅢE6h	略円	22.5	17.5	14.6	78.89	B類	
84	ⅢE7a	略円	27.5	16.0×14.0	33.1	79.38	D類	
344	ⅢE7a	略方形	22.0	21.5×15.0	11.0	79.58	D類	
345	ⅢE7a	略円	23.5	15.0×8.5	17.3	79.53	B類	
359	ⅢE7a	略楕円	26.0×24.0	19.5×16.0	22.2	79.48	B類	
123	ⅢE7b	略円	34.0	24.0	33.1	79.38	B類	
136	ⅢE7b	略円	28.5	15.5	64.5	79.08	B類	
137	ⅢE7b	略円	34.0	21.0	38.6	79.31	B類	
138	ⅢE7b	略円	26.0	12.0	59.1	79.12	B類	
346	ⅢE7b	略方形	23.0	14.0	20.7	79.49	B類	
347	ⅢE7b	略方形	26.0	15.0	42.5	79.19	B類	P399
348	ⅢE7b	略円	24.0	18.0	15.2	79.50	B類	
349	ⅢE7b	略円	25.0	18.0×16.0	16.2	79.54	B類	
351	ⅢE7b	略楕円	22.0×20.0	14.0	18.0	79.53	D類	
360	ⅢE7b	略円	22.0	10.0	33.5	79.38	B類	
399	ⅢE7b	略方形	24.0×16.0	8.0	32.6	79.27		P347
128	ⅢE7c	略円	22.0	12.0×8.0	23.0	79.46	B類	
129	ⅢE7c	略楕円	20.0×18.0	10.5	28.3	79.35	B類	
131	ⅢE7c	略円	18.0	11.5	13.9	79.58	B類	
189	ⅢE7c	略円	22.5	16.5	14.0	79.58	B類	
383	ⅢE7c	略円	22.5	15.5	13.9	79.47	B類	
355	ⅢE7c	略楕円	26.0×24.0	14.0×13.0	41.9	79.28	D類	
401	ⅢE7c	略楕円	45.0×34.0	15.0	21.0	79.50		
433	ⅢE7c	略楕円	13.5	11.0×10.0	14.6	79.42	B類	HP6
127	ⅢE7d	略楕円	24.0×22.0	10.5	25.9	79.42	B類	
131	ⅢE7d	略楕円	22.0×20.0	14.0×11.0	9.7	79.48	B類	
135	ⅢE7d	略円	22.0	14.0×12.0	16.6	79.40	B類	
149	ⅢE7d	略円	38.0	24.5	9.8	79.50		
183	ⅢE7d	略楕円	30.0×20.0	20.0×17.0	19.9	79.40	B類	
184	ⅢE7d	略円	46.0	33.0×30.0	53.7	79.06	B類	P155
185	ⅢE7d	略円	41.0	25.0	25.0	79.34	B類	P164
186	ⅢE7d	略楕円	25.0×20.0	21.0×18.0	12.5	79.47	B類	
189	ⅢE7d	略楕円	24.0×20.0	17.0×13.0	16.3	79.42	B類	
180	ⅢE7d	略楕円	19.0×16.0	15.0×12.0	9.6	79.49	B類	

番号	位置	形状	口径	口径	深さ (cm)	標高 (m)	分類	重複
162	ⅢE7d	略円	30.0	18.5	16.3	79.42	B類	
362	ⅢE7d	略円	19.5	13.5	12.3	79.46	B類	
363	ⅢE7d	略楕円	26.0×22.0	14.0×10.0	27.6	79.32	B類	
388	ⅢE7d	略円	25.0	20.0×17.0	20.5	79.37		BP17
404	ⅢE7d	略円	22.5	14.5	14.1	79.44		SN07
405	ⅢE7d	略方形	29.0	14.0×6.0	17.5	79.39		
150	ⅢE7e	略円	35.0	22.0	26.6	79.31	B類	
151	ⅢE7e	略楕円	28.0×22.0	17.0×13.0	20.0	79.38	B類	
178	ⅢE7e	略円	22.5	15.0	22.7	79.35	B類	
442	ⅢE7e	略楕円	29.5×22.5	15.5×14.0	12.1	79.36		SKI02
443	ⅢE7e	略楕円	27.0×21.5	12.0×9.5	11.8	79.19		SKI02・P444
444	ⅢE7e	略楕円	42.0×27.0	26.0×22.0	36.1	79.10		SKI02
181	ⅢE7f	略円	23.0	19.5	12.4	79.36	B類	
182	ⅢE7f	略円	35.0	23.0	18.3	79.19	B類	
184	ⅢE7f	略楕円	36.0×32.0	26.0×22.0	18.2	79.04	A類	
192	ⅢE7f	略円	26.0	20.0×16.0	26.4	79.18	B類	
356	ⅢE7f	略楕円	27.0×23.0	19.0×16.0	11.1	79.32	B類	
365	ⅢE7f	略円	24.0	15.0	11.9	79.15	B類	
367	ⅢE7f	略楕円	27.0×24.0	8.0	25.0	78.95	B類	
410	ⅢE7f	略円	27.0	11.0	15.8	79.30		SKI02
82	ⅢE8a	略円	27.0	17.0	36.4	79.30	B類	SKT11
88	ⅢE8a	略楕円	33.0×27.0	19.0×15.0	17.2	79.51	A類	
321	ⅢE8a	略楕円	19.0×15.0	12.0	9.3	79.63	B類	
357	ⅢE8a	略円	16.5	6.5	15.1	79.53	B類	
358	ⅢE8a	略楕円	21.0×18.0	13.0×9.0	13.7	79.55	B類	
121	ⅢE8b	略円	26.0	18.0	25.3	79.43	B類	
333	ⅢE8b	略楕円	24.0×22.0	19.5×14.0	21.6	79.49	B類	
350	ⅢE8b	略円	18.0	10.0×6.0	10.8	79.61	B類	
352	ⅢE8b	略楕円	18.0×14.0	8.0×9.5	14.3	79.50	B類	
83	ⅢE8c	略楕円	25.0×23.0	14.0	39.2	79.31	B類	
86	ⅢE8c	略円	30.0	12.0	17.1	79.52	B類	
87	ⅢE8c	略楕円	45.0×40.0	34.0×25.0	23.0	79.47	B類	P334
124	ⅢE8c	略楕円	27.0×23.0	20.0×17.0	30.0	79.41	B類	
125	ⅢE8c	略楕円	16.0×12.0	8.0	21.9	79.49		BP12
166	ⅢE8c	略楕円	24.0×22.0	12.0	46.1	79.23	B類	
167	ⅢE8c	略楕円	22.0×20.0	16.0×14.0	30.3	79.38	B類	
168	ⅢE8c	略円	20.0	8.0×6.0	20.6	79.45	B類	
334	ⅢE8c	略円	25.0	16.0×12.0	39.1	79.30	B類	P87
354	ⅢE8c	略円	16.0	10.5	18.5	79.46		
400	ⅢE8c	略楕円	47.0×43.0	35.0×31.0	23.0	79.48		
145	ⅢE8d	略楕円	64.0×36.0	36.0×18.0	18.7	79.46	B類	
169	ⅢE8d	略円	23.5	13.0	38.7	79.33	B類	
170	ⅢE8d	略円	33.0	36.0	24.7	79.43	B類	STK24
171	ⅢE8d	略楕円	35.0×21.0	8.0×5.0	23.8	79.45	B類	
172	ⅢE8d	略楕円	37.0×26.0	16.0×11.0	17.3	79.49		
173	ⅢE8d	略楕円	33.0×26.0	16.0×12.0	30.9	79.36		
186	ⅢE8e	略円	35.5	17.5	33.3	79.17	B類	

### (3) 土坑

#### SK 03 土坑 (第49図、写真図版15)

微高地北側の土坑や柱穴が比較的集中するⅢD-8・9bグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。SD01・柱穴に切られ、SK55を切る。平面形・規模は、北北西-南南東を長軸方向とする開口部約1.4×1m、底部約1m×65cmの略楕円形を呈する。壁は比較的緩やかに外傾して立ち上がり、上位でやや内湾気味となる。深さは約30cmを測る。埋土は黒ボク系土の7層に細分され、基本的には流入による自然堆積と思われるが、最下層には土器や炭化物と焼土が廃棄された状況を呈した。底面は概ね平坦である。

遺物は底面付近から土師器の甕形土器片がやや多くと環形土器片数点出土したが、形状を把握できた個体はない。このほかフレイク1点が出土した。

#### SK 04 土坑 (第49・54図、写真図版15・33)

微高地北側の土坑や柱穴が比較的集中するⅢD-8bグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。SD01に切られる。平面形・規模は、開口部径約90cm、底部約70×55cmの略円形を呈する。壁は丸みのある底面から明瞭な稜をもたず緩やかに外傾して立ち上がり、深さは約20cmを測る。埋土は黒ボク系土2層に分層される流入による自然堆積と思われる。底面は中央が浅く窪む丸底気味になっている。

遺物は埋土から土師器の甕形土器片数点が出土したが、形状を把握できた個体はない。

#### SK 13・14 土坑 (第49図、写真図版15)

微高地中央部東側のIVD-1fグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。検出プランは歪な楕円形であったが、精査の結果2基の土坑の重複と判明し、SK14がSK13を切り、いずれも柱穴に切られる。

SK14の平面形・規模は、開口部径約65cm、底部約50cmの略円形を呈する。断面形は錐形を呈し、深さは約20cmを測る。埋土は黒ボク系土2層に分層される流入による自然堆積と思われる。底面はやや丸味を帯びている。遺物は出土しなかった。

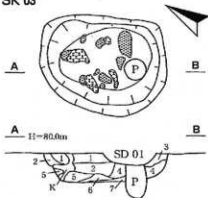
SK13は南側がSK14に破壊されており、全容は不明である。残存部での平面形・規模は、開口部約70×50cm、底部約65×25cmの略楕円状で、壁は外傾して立ち上がり、深さ約20cmを測る。底面は概ね平坦だが、北側は径約45cmの略円形、深さ約10cmの錐形に一段掘り下げられている。埋土は黒ボク系土3層に分層される流入による自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

#### SK16 土坑 (第49・54図、写真図版15・33)

微高地北側の土坑や柱穴が比較的集中するⅢD-8b・cグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。当初は隣接するSK17とSN01を含め、黒ボク土混じりの褐色系土のおよそ3m四方の不整な範囲として確認したものであり、このプランを精査する過程でこれらの遺構や柱穴を数基検出したものである。SKT27と重複し、本遺構が新しいが、検出プランでは新旧の判断ができなかったため、共通のベルトを設定して掘り下げを行い南側の一部を消失してしまった。残存部での平面形は、短い溝状プランの中央に円形のピットが張り出して並列するもので、規模は、長軸推定約1.2m、幅約50cm、深さ約15cm、P1は径約45cm、深さ約25cm、P2は径約35cm、深さ約25cmを測り、いずれも壁は緩やかに外傾して立ち上がる。埋土は黒ボク系土10層に分層される流入による自然堆積と思われる。下位には焼土粒が混じる。底面はやや丸味を帯びている。

ちなみに、この不整プランについて掘り下げを行ったところ深さは3cm以下で、明瞭な壁も立たず、底面はやや凸凹しており、調査時点では遺構との判断は付けかねたものだが、S101・02・04住居跡と等間隔で並列する位置関係から、住居跡の大半が開墾により削平されて消失したものであって、貼床の痕跡である

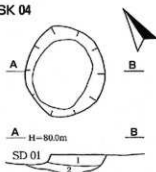
SK 03



SK 03

- 10YR 2 / 1 (黒色) 縞り・粘性有
- 10YR 3 / 1 (黒褐色) 縞りやや有、粘性有、地山粒微量
- 10YR 4 / 4 (褐色) 縞り極めて有、粘性有
- 10YR 2 / 3 (黒褐色) 縞りやや有、粘性有、地山粒少量
- 10YR 3 / 3 (暗褐色) 縞り・粘性有、地山土少量
- 10YR 2 / 2 (黒褐色) 縞りやや有、粘性有、土溜片多量
- 10YR 3 / 1 (黒褐色) 縞り・粘性有、炭化物・粘土粒→ブロック多量

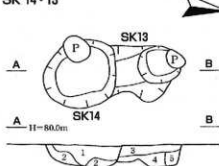
SK 04



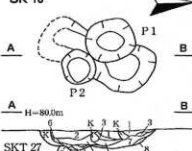
SK 04

- 10YR 2 / 3 (黒褐色) 縞り極めて有、粘性有、地山粒・粘土粒微量
- 10YR 3 / 4 (暗褐色) 縞り・粘性有、地山土多量、粘土粒微量

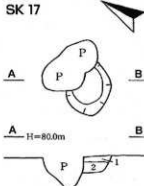
SK 14-13



SK 16



SK 17



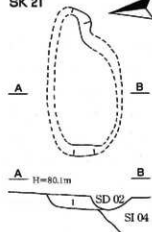
SK 14

- 10YR 3 / 3 (黒褐色) 縞り・粘性有、地山粒少量
- 10YR 3 / 4 (暗褐色) 縞り・粘性有、地山多量

SK 13

- 10YR 3 / 4 (黒褐色) 縞り極めて有、粘性有、地山粒少量
- 10YR 2 / 3 (黒褐色) 縞りやや有、粘性有
- 10YR 3 / 2 (暗褐色) 縞り・粘性有、地山粒少量

SK 21



SK 21

- 10YR 2 / 2 (黒褐色) 縞り無、粘性有

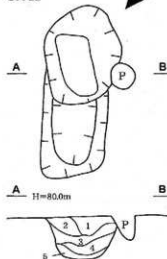
SK 16

- 10YR 2 / 1 (黒色) 縞り・粘性有
- 10YR 2 / 3 (黒褐色) 縞り極めて有、粘性有、地山粒微量
- 7.5YR 3 / 4 (暗褐色) 縞り極めて有、粘性有、地山粒・地山土多量
- 10YR 3 / 3 (暗褐色) 縞り無、粘性有、地山粒微量、粘土粒微量
- 10YR 2 / 2 (黒褐色) 縞りやや有、粘性有、地山粒少量
- 10YR 5 / 6 (黄褐色) 地山ブロック
- 10YR 3 / 3 (暗褐色) 縞り極めて有、粘性有、地山土多量、粘土粒微量
- 10YR 4 / 6 (黒褐色) 縞り極めて有、粘性有、地山土多量、粘土粒微量
- 10YR 3 / 1 (黒褐色) 縞りやや有、粘性有
- 7.5YR 3 / 3 (暗褐色) 縞り・粘性有、粘土粒少量

SK 22

- 10YR 2 / 2 (黒褐色) 縞り無、粘性有、地山粒微量
- 10YR 2 / 3 (黒褐色) 縞りやや有、粘性有、地山粒少量
- 10YR 2 / 3 (暗褐色) 縞り無、粘性有、地山ブロック少量
- 10YR 3 / 4 (暗褐色) 縞り無、粘性有、地山ブロック多量
- 10YR 2 / 3 (暗褐色) 縞り無、粘性有

SK 22



第49図 SK 03・04・13・14・16・17・21・22 土坑

可能性も考えられ、また、これらの北側に位置するSK55の有様も土坑というよりは貼床の掘り方のものであり、本遺構やSK04・17・SN01などはこれに伴ったものかもしれない。他の堅穴住居跡の形態と比較するとSN01はカマド燃焼部焼土の残存かもしれない。

遺物は土師器の甕形土器片が少量と坏形土器片1点が出土したが、全体形状を把握できた個体はない。

#### SK 17 土坑 (第49図、写真図版15)

微高地北側の土坑や柱穴が比較集中するⅢD-9b・cグリッドに位置する。削平されたIV層中で検出したが、その状況と経過はSK16と同様である。平面形・規模は、北側が柱穴に切られ、全容は不明だが、残存部から開口部径約50cm、底部径約30cmの円形を呈すると推定され、断面形は鍋形を呈し、深さは約18cmを測る。埋土は黒ボク系土2層に分層される人為的堆積と思われる。底面は概ね平坦である。

遺物は土師器の甕形土器片と坏形土器片が数点のみ出土した。

#### SK 21 土坑 (第49図、写真図版15)

微高地中央部のⅢD-9hグリッドに位置し、調査区中央の畦道下のⅢ層上面で検出した。SKT07・SIO4・SD02と重複するが、検出プランでは新旧関係が把握できなかったため共通のベルトを設定して精査を行ったところ、断面観察からSD02に切られ、SKT07・SIO4を切ることが判明した。しかし、同時に掘り下げを行ったため本遺構の大半を消失し、全容は不明である。残存部からの平面形・規模は、開口部長軸約1.5m、短軸約80cm、底部では1.4m×50cm程度の略楕円形を呈すると推定され、横断面形は鍋形を呈し、深さは約15cmを測る。埋土は黒ボク土の単層で、底面は概ね平坦である。

遺物は土師器の坏形土器片が2点のみ出土した。

#### SK 22 土坑 (第49図、写真図版16)

微高地中央部調査区西端のⅢD-7iグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。SIO4を切り、柱穴に切られる。平面形・規模は、開口部では約1.8m×70cmの略楕円形を呈するが、底部は明瞭な平坦面をもたず、東側の深さ約10cmから西側では深さ約50cmと全体的に傾斜面となっている。壁は底面からあまり明瞭な稜をもたず外傾して立ち上がる。埋土は黒ボク系土5層に分層される流入による自然堆積と思われる。底面はややフラットとなる西側でも丸みを帯びている。

遺物は縄文土器片が1点のみ出土した。

#### SK 24 土坑 (第50図、写真図版16)

微高地中央部、ⅢD-8hグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。SIO4を切り、柱穴に切られる。平面形・規模は、開口部約1.2m×95cm、底部約90×50cmの歪な略楕円形を呈し、壁は北側は鋭角的に、南側は緩やかに外傾して立ち上がり、深さは約25cmを測る。埋土は黒ボク系土4層に分層される流入による自然堆積と思われる。底面はやや丸みを帯びている。

遺物は土師器の甕形土器片1点と縄文土器片が2点のみ出土した。

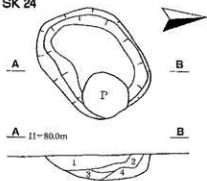
#### SK 26 土坑 (第50図、写真図版16)

微高地南東部縁辺の緩斜面、IVE-1cグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸約1.7m、短軸約1.1mの半円状を呈し、底部は一回り小さく、壁は緩やかに外傾し、南東側斜面下方は壁が存在せず、テラス状の掘り込みとなっている。深さは約10cmを測る。埋土は黒ボク系土の2層に分層される人為的堆積と思われる。底面は概ね平坦だが、西側は径約1m、深さ約5cmほどの略円形に掘り詰められている。

遺物は埋土から土師器の甕形土器片が少量と坏形土器片が1点出土した。



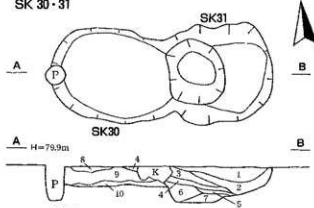
SK 24



SK 24

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒少量
2. 10YR 2/1 (灰色) 締り無、粘性有
3. 10YR 2/3 (黒褐色) 締りやや有、粘性有、地山粒微量
4. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、地山土少量混入

SK 30・31



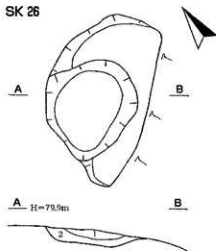
SK 31

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒微量
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、地山土に炭粒混じり
3. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有
4. 10YR 4/4 (褐色) 締り極めて有、粘性有、地山土に黒角土混じり
5. 10YR 4/6 (褐色) 締り極めて有、粘性有、地山土
6. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り無、粘性有、地山粒微量
7. 10YR 4/4 (褐色) 締り・粘性有、地山土に黒角土混じり

SK 30

8. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り極めて有、粘性有、地山粒微量
9. 10YR 3/1 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒微量
10. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り極めて有、粘性有、地山土多量

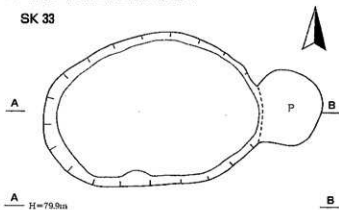
SK 26



SK 26

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り極めて有、粘性有、地山粒微量
2. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り極めて有、粘性有、地山粒少量

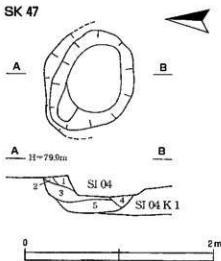
SK 33



SK 33

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有、焼土粒・炭化物・地山ブロック微量
2. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、焼土粒・炭化物・地山粒微量
3. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り無、粘性有、柱跡?
4. 10YR 3/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒少量 } SKP439

SK 47



SK 47

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り極めて有、粘性有、地山粒微量
2. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り極めて有、粘性有、地山粒・焼土粒微量
3. 10YR 3/1 (黒褐色) 締りやや有、粘性有
4. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り極めて有、粘性有、地山粒微量
5. 10YR 4/6 (褐色) 締り極めて有、粘性有、地山土多量、人為堆積

第50図 SK 24・26・30・31・33・47土坑

### SK 30・31 土坑 (第50図、写真図版16)

微高地南側の土坑が比較的集中するⅢD-9・10j・ⅢE-9・10aグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。検出プランは円形が連結したダルマ形を呈しており、2基の土坑の重複と考えられたが、重複する部分が攪乱されていたことと埋土が類似したことから新旧の判断がつかなくなったため一括して掘り下げを行い断面の観察で判断することとした。精査の結果東側のSK31が西側のSK30を切り、いずれも柱穴に切られることが判明した。

SK 30の平面形・規模は、東端がSK31に破壊されているが、残存部から開口部約1.4×1m、底部約1.2m×85cmの楕円形と推定され、壁は鋭角的に外傾して立ち上がり、深さは約20cmを測る。埋土は黒ボク系土3層に分層される人為的堆積と思われる。底面は概ね平坦である。

遺物は埋土から土師器の甕形土器片が少量と坏形土器片が数点出土した。

SK 31は西端が攪乱により不明だが、残存部での平面形・規模は、開口部約1.2×1m、底部約1m×70cmの略楕円形と推定され、壁は外傾して立ち上がり、深さ約30cmを測る。埋土は黒ボク系土と褐色系土が互層となった7層に細分される流入による自然堆積と思われる。底面は西方向に緩やかに傾斜しており、西側は径約60cmの略円形で、深さ約10cmの鍋形に掘り窪められている。

遺物は土師器の甕形土器片と坏形土器片が数点出土した。

### SK 33 土坑 (第50図、写真図版16)

微高地南側の土坑が比較的集中するⅢE-9aグリッドを中心に位置し、削平されたIV層中で検出した。検出時には大小複数の円形プランが連結した様相を呈しており、適宜ベルトを設定して精査を行ったところ、比較的大き目の柱穴との重複と判明し、またSKT11を切る。平面形・規模は、残存部から開口部約2.3×1.6m、底部約2.1×1.4mの楕円形と推定され、壁は緩やかに外傾して立ち上がり、深さは約25cmを測る。埋土は基本的には黒ボク土の単層で、下位に崩落と思われる褐色土が混じる。底面はやや凹凸がある。

遺物は埋土から土師器の甕形土器片と坏形土器片が数点出土した。

### SK 37・56・57 土坑 (第51図、写真図版16)

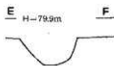
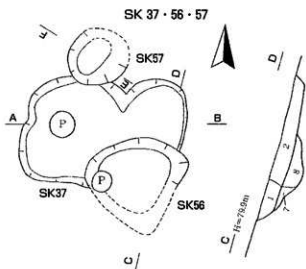
微高地南側の土坑が比較的集中するⅢE-9・10aグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。当初はSKT9・10の間に重複する不整形の黒ボク土のプランを検出したものだが、両陥し穴も含め平面での重複関係が不明瞭であったことから、適宜ベルトを設定して精査を行ったところ、土坑3基(4基の可能性有)と柱穴の重複と判明したもので、主に断面の観察から新旧関係は(新)柱穴→SK37→SK56・57→SKT9・10(古)である。すべて一括して掘り下げを行ったため各々の詳細が不明な部分もある。

SK 37の平面形は、残存部から円形基調のプランの連結した歪なダルマ形を呈し、開口部長軸約1.7m、短軸の西側では約1.2m、東側では約1.5mと推定され、底部は一回り小さいくらいである。壁は外傾して立ち上がり、深さは約15cmを測る。埋土は黒ボク系土7層に分層され、堆積状況から東側が新しい土坑の可能性もある。底面はやや凹凸がある。

遺物は埋土から土師器の甕形土器片と坏形土器片が各々数点出土した。

SK 56はSK37の底面で確認したものであり、推定される平面形・規模は、径約1.1mの略円形で、フラットな底面をもたない丸底鍋形を呈し、本来の深さは約35cmと思われる。埋土は黒ボク系土2層に分層される。遺物は出土しなかった。

SK 57はSKT10の精査段階で確認したものであり、推定される平面形・規模は、開口部径約60cmの略円形で、フラットな底面をもたない丸底鍋形を呈し、深さは約30cmを測る。埋土は基本的には黒ボク系土の単



SK 37

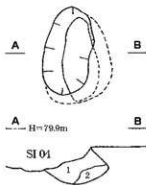
1. 10YR 3/1 (黒褐色) 締り・粘性有
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、地山ブロック多量
3. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、数十粒極めて微量
4. 10YR 4/4 (暗褐色) 締り極めて有、粘性有
5. 10YR 3/4 (暗褐色) 締りやや有、粘性有、地山土少量
6. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り無、粘性有

SK 56

7. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山粒少量
8. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り無、粘性有、炭化物微量



SK 48

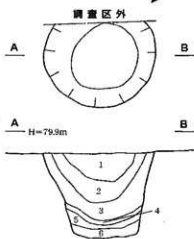


SK 48

1. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り極めて有、粘性有  
無土ブロック微量、地山ブロック多量
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り・粘性有、地山粒微量



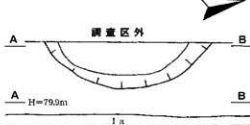
SK 50



SK 50

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有
2. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、地山土盛じり
3. 10YR 4/6 (褐色) 締り・粘性有、地山土
4. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り・粘性有
5. 10YR 4/6 (褐色) 締り・粘性有、地山土
6. 10YR 2/3 (黒褐色) 締りやや有、粘性有

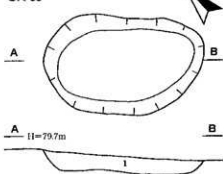
SK 51



SK 51

1. 10YR 2/3 (黒褐色) 締り極めて有、粘性有  
地山粒少量、炭上
2. 10YR 2/2 (黒褐色) 締り・粘性有、地山微細量
3. 10YR 3/3 (暗褐色) 締り極めて有、粘性有  
地山上と黒ボク土の盛じり

SK 53



SK 53

1. 10YR 4/4 (暗褐色) 締り極めて有、粘性有、地山土に黒ボク土盛じり



第51図 SK 37・56・57・48・50・51・53土坑

層である。遺物は出土しなかった。

#### SK 47 土坑 (第50図、写真図版17)

微高地中央部のⅢD-8 h グリッドに位置し、調査区中央の畦道下のⅢ層上面で検出した。当初、平面プランではS I 04の壁崩落部あるいは土坑なのかの判別が適わなかったため、共通するベルトを設定して掘り下げを行った。精査の結果、断面の観察からS I 04に切られ、SK 58を切ることが判明した。南側がS I 04に破壊され、また一括して掘り下げを行ったため一部詳細の不明な部分もある。残存部から平面形・規模は、開口部約1.2×1 m、底部約70×60 cm の略楕円形と推定され、断面形は深さ約35 cm の鍋形を呈し、北西には緩い上り勾配の張り出しが認められた。埋土は上半に黒ボク系土、下半に褐色土の5層に分層され、堅く締まった人為的様相を呈する。底面はやや丸みを帯びている。遺物は出土しなかった。

#### SK 48 土坑 (第51図、写真図版17)

微高地中央部のⅢD-8・9 j グリッドに位置し、削平されたⅣ層中で検出した。SK 48同様、平面プランではS I 04の壁崩落部あるいは土坑なのかの判別が適わなかったため、共通するベルトを設定して掘り下げを行った。精査の結果、断面の観察からS I 04に切られることが判明した。北側がS I 04に破壊され、詳細の不明な部分もある。残存部から平面形・規模は、開口部約95×50 cm の楕円形を呈し、壁は南側が滑り込むような袋状となっており、フラットな底面をもたない。深さは約40 cm を測る。埋土は基本的に堅く締まった黒ボク土の人為的な単層である。

遺物は土師器の甕形土器片と坏形土器片が数点出土した。

#### SK 50 土坑 (第51図、写真図版17)

微高地南側の調査区西端、ⅢE-6・7 b グリッドに位置し、削平されたⅣ層中で検出した。西端が一部調査区外にかかるが、およそ平面形・規模は、開口部径約1.2 m、底部径約70 cm の円形を呈し、検出面からの深さは約90 cm を測り、断面形はバケツ形を呈する。埋土は流入と崩落による黒ボク系土と褐色土がおよそ互層となる自然堆積である。形態的には陥し穴に類似するが、底面は概ね平坦で、逆茂木痕は検出されず、古代の遺物が出土したことから古代の土坑と考えられる。

遺物は土師器の甕形土器片と坏形土器片が各々1点出土した。

#### SK 51 土坑 (第51図、写真図版17)

微高地南側の調査区西端、ⅢE-6 c・d グリッドに位置し、削平されたⅣ層中で検出した。西側の大半が調査区外にかかり全容は不明である。検出部分からは、およそ平面形・規模は、開口部径約2.3 m、底部径約1.7 m ほどの円形を呈すると推定され、壁は外傾して立ち上がり、検出面からの深さは約30 cm を測る。埋土は黒ボク系土3層に分層される人為的堆積と思われる。底面は概ね平坦である。

遺物は土師器の甕形土器片と坏形土器片が各々2点出土した。

#### SK 53 土坑 (第51図、写真図版17)

微高地中央部のⅢD-9 j グリッドに位置し、S I 04の精査過程で検出した。本遺構が古い。検出状況としては当初判然とせず、S I 04粘床除去後にK 1土坑とともに確認し、完掘形態から土坑と判断したものである。平面形・規模は、残存部では開口部約1.7×1 m、底部約1.4 m×70 cm の略楕円形を呈し、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。本来の深さは約40 cm 以上と思われる。埋土は人為的な褐色土の単層である。

遺物は埋土から土師器の甕形土器片と坏形土器片が少量出土した。

#### SK 55 土坑 (第52図、写真図版17)

微高地北側の土坑や柱穴が比較的集中するⅢD-8 a・b グリッドに位置し、削平されたⅣ層中で検出した。

た。当初は隣接するSK03を含め、黒ボク土混じりの褐色系土のおよそ2m四方の不整なプランを確認したものの、新旧の判断ができなかったため、共通のベルトを設定して掘り下げを行ったもので、断面の観察から本遺構が古い。平面形・規模は、開口部長軸約2.1m、短軸60cm～1.3mの歪な瓢箪形を呈し、底部一回り小さい。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、深さは約10cmを測る。埋土は基本的には堅く締まった褐色土混じりの黒ボク系土の人為的な単層である。底面はやや凹凸があり、北側には浅い円形と不整な掘り込みがある。SK16で前述したとおり、竪穴住居跡の跡床痕跡の可能性が高い。

遺物は埋土から土師器の甕形土器片と坏形土器片が数点出土した。

#### SK 58 土坑 (第52図、写真図版18)

微高地中央部のⅢD-8h・iグリッドに位置し、S I 04の床面で検出した。当初はS I 04に伴う土坑とも考えられたが、SK47とも共通するベルト断面の観察からS I 04とSK48に切られる単独遺構と判断した。上位はS I 04に、北側はSK47に破壊され、全容は不明である。残存部での平面形・規模は、開口部約1.8×1.5m、底部約1.4×1.1mの略楕円形を呈し、壁は緩やかに外傾して立ち上がり、本来の深さは約40cmほどと推定される。埋土は黒ボク系土5層に分層されるが、全体的に堅く締まった人為的様相を呈する。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

#### (4) その他の遺構 (炉跡・焼土遺構・溝跡)

##### SN 01 焼土遺構 (第52図、写真図版18)

微高地北側の土坑や柱穴が比較的集中するⅢD-9bグリッドに位置する。前述の隣接するSK16-17を含め、IV層中で確認した黒ボク土混じりの褐色系土のおよそ3m四方の不整な範囲の上面で検出した。平面形は30～40cmほどの不整な広がり、火熱により厚さ約5cm以下に赤色変化した焼土を確認したものである。前述のとおりカマド焼土部焼土の可能性が考えられる。遺物は出土しなかった。

##### SN 04 炉跡 (第52図、写真図版18)

微高地中央部、焼土遺構が集中するⅢD-8hグリッドに位置し、調査区中央の畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部約70×50cm、底部50×40cmの略楕円形を呈し、壁はやや丸みのある底面から明瞭な稜をもたず、緩やかに外傾して立ち上がり、深さは約5cmを測る。埋土は炭化物と黒色系土の混じる堅く締まった廃棄焼土である。底面から南側の壁面にかけて火熱により厚さ約5cm以下に赤色変化していた。周辺の削平されたIV層中で検出した他の焼土遺構も本遺構に形態及び性格が類似したものである可能性が考えられる。

遺物は埋土から土師器の坏形土器片が2点出土した。

##### SN 07 焼土遺構 (第52図、写真図版18)

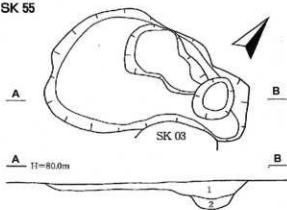
微高地南端のⅢE-7dグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。柱穴に切られる。平面形は長軸約1.1m、短軸約90cmの隅丸長方形基調の広がり、火熱により厚さ約3cm以下に赤色変化した焼土を確認したもので、中央に向かいやや窪んでいる。位置的にはSB01等に関連する可能性も考えられる。

遺物は窪みの部分から土師器の甕形土器片と坏形土器片が数点出土した。

##### SD 01 溝跡 (第53図、写真図版18)

微高地北側のⅢD-8～10a・bグリッドに位置し、水路と並行して東側微高地縁辺から北東-南西に走行し、西側の調査区外に続く。東端の畦道下はⅢ層上面で検出したが、西側の大半は削平されたIV層中で検出したものであり、一部削平により途切れる部分もあるが、形態と走行方向から一連のものと判断した。S

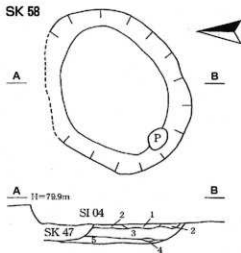
SK 55



SK 55

1. 10YR 3/3 (暗褐色) 細り纏めて有、粘性有、地山砂・ブロック少量
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 細りやや有、粘性有、地山土混入

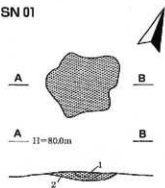
SK 58



SK 58

1. 7.5YR 3/4 (暗褐色) 細り纏めて有、粘性有、炭素質土
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 細り纏めて有、粘性有
3. 10YR 2/2 (黒褐色) 練り・粘性有
4. 7.5YR 4/6 (褐色) 焼土ブロック
5. 10YR 2/3 (黒褐色) 練り・粘性有

SN 01

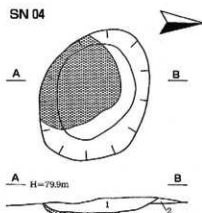


SN 01

1. 5YR 4/8 (赤褐色) 焼土
2. 5YR 4/6 (赤褐色) 焼土



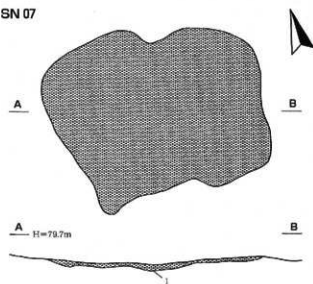
SN 04



SN 04

1. 5YR 5/8 (明赤褐色) 細り纏めて有、粘性有、炭素質土
2. 7.5YR 3/4 (暗褐色) 細り纏めて有、粘性有、炭素質土
3. 5YR 4/8 (赤褐色) 焼土

SN 07

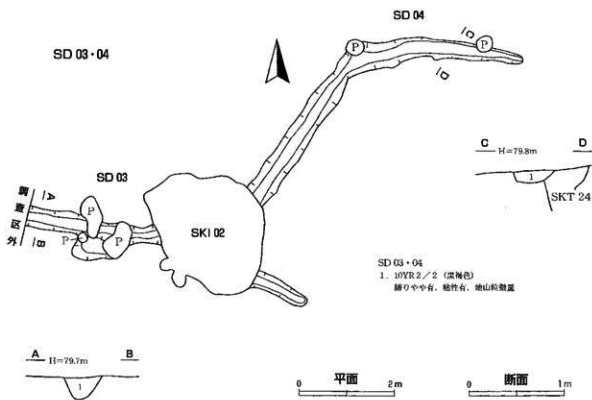
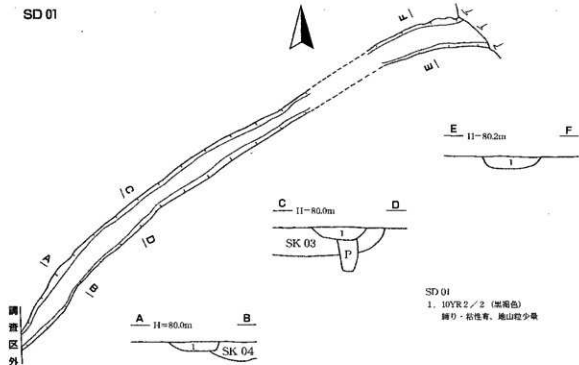


SN 07

1. 5YR 4/6 (赤褐色) 焼土



第52図 SK 55・58 土坑、SN 01・07 焼土遺構・04 炉跡



第53圖 SD 01・03・04 溝跡

K03・04と柱穴と重複し、すべてを切る。検出した部分では総長約11.5m、幅約50cmを測る。横断面形は浅い鍋形を呈し、深さは10～15cmほどを測る。底面は東側から西側に向いかなり緩い傾斜となっている。埋土は黒ボク土の単層である。

遺物は土師器の甕形土器片が少量と坏形土器片が数点、棒状の不明鉄製品と縄文土器片・フレイクが各々1点出土した。

#### SD 03・04 溝跡 (第53図、写真図版18)

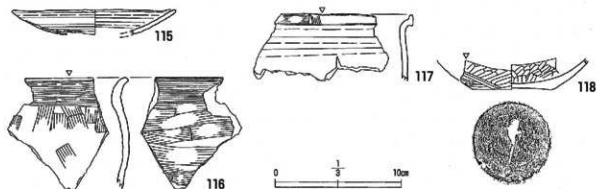
微高地南西部縁辺のⅢE-6～8d・eグリッドに位置し、盛土整地下のⅣ層上面で検出した。いずれもSK102に切られており、走行方向の違いで一応溝跡2条としたが、状況から二段に分かれる一連のものである可能性が高い。また柱穴にも切られる。SK102を跨ぎ東西に走行するものをSD03、北西方向に走行する部分をSD04とした。

SD03は東西方向に走行し、西側の調査区外に続く。検出した部分では推定総長約6m、幅約40～30cmを測る。横断面形はV字状を呈し、深さは最大約25cmほどを測る。底面は西側から東側に向い緩い傾斜となっている。埋土は黒ボク土の単層である。

遺物は土師器の甕形土器片1点と須恵器の甕形土器片2点が出土した。

SD04は北東-南西方向で弓なりに走行し、検出した部分では推定総長約8.5m、幅約50～20cmを測る。横断面形は鍋形を呈し、深さは最大約20cmほどを測る。底面は西側から東側に向い緩い傾斜となっている。埋土は黒ボク土の単層である。

遺物は土師器の甕形土器片2点と坏形土器片1点が出土した。



図番	出土位置・層位	器種	法量 (cm)			成形	装飾等	備考
			口径	器高	底径			
115	SKP196・197・埋土	土師器片	13.05	(2.2)	—	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ	
116	SK04・埋土	土師器片	—	(8.8)	—	非ロクロ	ヘラナデ/ヘラナデ→ヨコナデ	
117	SK16・埋土	土師器片	(12.4)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロナデ/ロクロナデ	
118	SK16・埋土	土師器片	—	(2.3)	6.3	ロクロ	ミガキ/ミガキ	回転糸切り後 回転ヘラズリ再調整

第54図 SK04・16土坑、SKP196・197柱穴出土遺物



## (5) 出土遺物

古代の遺物は、総量で大コンテナ約5箱分が出土したが、鉄砧石2点を除くとおよそ4箱分となる。このうち土器類が大コンテナおよそ3箱半と大半を占める。ところで、古代の土器類のうち酸化焙焼成の土器にはロクロ成形で内面無調整の非内黒の坏類や甕類の所謂「赤焼き土器」と呼称されるものも多く存在するが、用語としては一応、酸化焙焼成＝土師器、還元焙焼成＝須恵器として扱うこととする。土師器は破片数量はともかくとして、個体数では甕形土器に比べ、坏形土器がかなり多い傾向にあり、須恵器については甕形土器及び坏形土器のいずれも破片数は無論のこと個体数も数個体分と極めて少ない。土器類以外の遺物では、土製品として羽口2点、土錘14点、鉄製品として刀子と鉄鏝各1点、棒状不明品3点と板状不明品1点、石器類として鉄砧石2点、砥石1点、鉄滓が13点と種別・数量とも須恵器同様極めて少ない。出土状況としては、ほとんどが4棟の堅穴住居跡から出土したもので、一棟あたりの出土量としては比較的多いものといえる。以下、各々について記述する。

### ①土器類

土器類は、器種としては大きく坏類（坏・皿）と甕類（甕・鉢）等があり、数量的には土師器の坏は卓越しているが、甕類は全体形状を把握できる復元個体もほとんどなく、皿・鉢などについては須恵器と同様に出土量は極めて少ない。ここでは主として堅穴住居跡から出土したもので形状をある程度把握できるもの、特に土師器の坏形土器（34個体）及び甕形土器（23個体）を対象として検討するが、調査区内での遺構や遺物の在り様からはあまり時期幅があるものとは考え難いため、あえて分類のための分類に陥らぬように傾向を概観するに止める。なお、掲載した点数は個体数はともかく量比的には出土総量の約半分ほどであり、ここで抽出した点数はさらに少ないものだが、遺跡（調査区内）の大まかな傾向は窺えるものと思われる。

まず、土師器の坏類であるが、成形はすべてロクロ成形によるもので、底部切り離しは回転糸切り、器形は体部が緩やかにカーブを描いて立ち上がり、口縁部は短くやや外反するものがほとんどを占め、端部の外反が顕著でないものもわずかにある。器形上は画一的である。法量的には口径13.6～約15cm以下のものと口径16cm以上のやや大形のもの（図番35・38・52）があり、底径は5.3～7cmの範疇にほとんど収まるが、口径の大きいものでは7cmをわずかながら超えるものもある。ただし量比的にはやや大形のは一割にも満たない。器高については顕著な対応性は認められず、法量的にはあまり特徴的なまとまりは認められない。

調整、特に内面については、内黒でミガキ（丁寧なミガキはほとんどなく、部分的であったり、ナデのような雑なもの大半を占める。）処理の施されたものと無調整のもの（所謂あかやき土器）があり、量比的には無調整のものが約2割強とあまり多くはない。前者では底部及び体部下端を部分的に再調整しているものがおよそ半数ほど認められたが、後者では認められない。また、無調整のものに口径に対して器高が低く聞いた皿形のもの1点（図番115）のみある。

次に、土師器の甕類であるが、成形はロクロ未使用と使用のいずれもあり、量比的には後者が七割強とかなり多い。完形個体はロクロ使用のもの1点（図番82）のみで全体形状、特に体部下半から底部の状況についてはほとんど不明に近いが、ロクロ未使用のものにあまり明瞭ではないものの、砂粒が付着した所謂砂底風の（図番59・60・86・87）ものがわずかに認められた。法量的には口径の大ききから11cm以上～12.5cm以下の小型、14.3cm以上～16cm以下の中型、19cm以上～25cm以下の大型と大きく3分される。

ロクロ未使用の器形は画一的で、すべて口縁部が短くやや強く外反し、体部は比較的直線的で最大径は口縁部にあるが、体部がやや丸みを帯びているものでは口縁部と胴部で最大径が等しいものもある。調整は口縁部ヨコナデ、体部内外面はヘラナデが施される。法量的には中型の1点（図番48）を除き、大型の長胴甕

が主体となっている。また、口径が最大の1点(図番58)は鉢形を呈するものと思われる。

ロクロ使用の器形は、口縁部の詳細な形状はともかく、口縁部が外反し、体部は比較的直線的で最大径が口縁部にあるものがほとんどを占めるが、体部が比較的丸みを帯びているもので最大径が胴部にあるものもわずかにある。口縁部の形状は、単に外反するもの、折り曲げによる稜線が不明瞭な「ノ」字状に外反するもの、外反させ口唇部を上方向につまみあげるように挽きだしたものの大別3タイプがある。つまみあげとしては口唇部につまみあげが顕著な先端が細いものと軽くつまんだだけの厚めのものがあり、またつまみあげにより出現した端部の面が垂直なものややや内傾するものがある。口縁部の形状と全体的なプロポーシオンの組み合わせとしては最大径が胴部にあるもの(図番21・24)は口縁部が単に外反するものに限られる以外、特にまとまりは認められない。法量的には小型から大型まで平均的な量比となっており、調整は中・大型の長胴甕の外面体部下半のみケズリ・ナデが施されているものが多く、このケズリとナデは明瞭な意図的区別ではなく、製作者の癖的なのか、こそく程度の調整の結果としてナデ様ケズリ様となっているものと思われる。

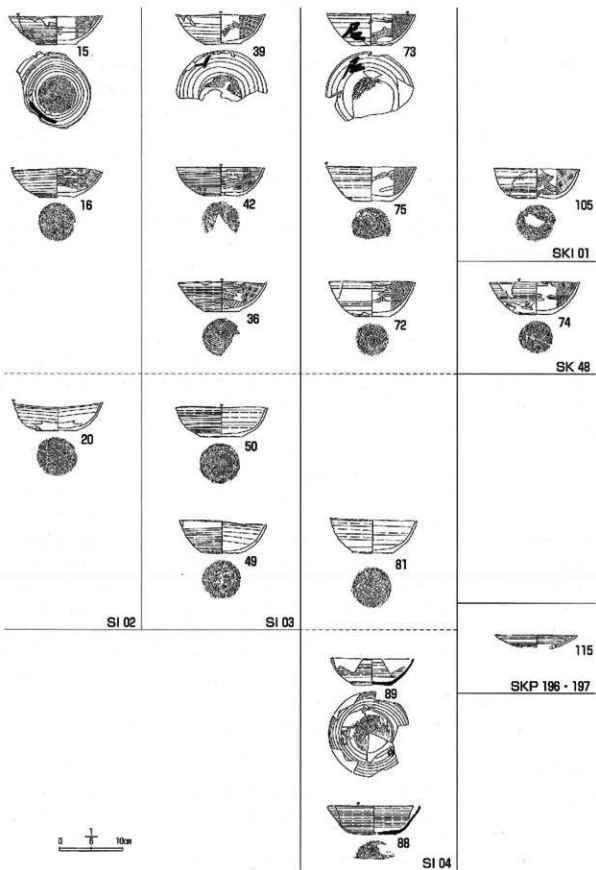
このほか体部の大半がないため詳細は不明だが、鈎付きの甕、所謂羽釜(図番23)が1点あり、口縁部はやや内傾するが直線的に立ち上がり、最大径は胴部にある。残存部での調整は認められない。また須恵器ならば広口壺に分類されるような胴弧形のもの(図番21)と口径に対して器高の低い鉢形(図番61)が例外的に各々1点のみあり、これら機能・用途的には甕と区別されるであろう器形では内面内黒処理とミガキ調整が施されている。

以上、おおよその傾向を示したが、住居毎における出土遺物の伴同関係を概観してみると、坏類では削平により遺存状況が劣悪で出土遺物の少ないS101以外の3棟では、出土個体数はともかく、傾向的には土師器・所謂あかやき土器の量比的にも差異はない。甕類ではS101とS103で非ロクロ及びロクロ成形のいずれも同タイプが出上し、S102とS104では大小という法量的な相違はあるが、ロクロ成形のもの口縁部形状の類似性が認められる。S102には広口壺的ものと判釜、S103には鉢、S104には底部切り離しが回転糸切りで、体部が緩やかにカーブを描いて立ち上がり、口縁部は内湾気味の須恵器坏がある。

最後に年代的位置づけであるが、八木光則氏他による本地域における該期の古代の土器編年試案を参考として本遺跡出土土器の様相をみると、上記とおりの坏及び甕の形態、その器形の画一性、羽釜を含む器種(器形)の多様化の兆し、非ロクロ成形の甕、ロクロ成形で内面調整の有無のある坏類及び甕類、言い換えると土師器及び所謂あかやき土器と須恵器の量比などから、八木氏編年(八木1992)のG・H期(9世紀後半～10世紀前半)に相当するものと思われる。遺構との在り様も加味してみると時期幅はこれほど広くはなく、9世紀後半～10世紀初頭に位置づけられるものと想定され、住居単位の出土遺物の比較からは、この幅の中で時期差というよりも時間差の程度の推移としてS104出土のものがやや古く、S102出土のものがやや新しいものと思われる。

## ②土製品

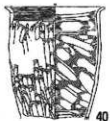
土製品としては羽口と土鍾が出土したが、SK101出土の土鍾2点(図番110・111)を除き、ほとんどがS104からの出土である。羽口は掲載した1個体分(図番90)のみで、成形は胎土の状況が比較的均質であることから、木製の棒に小さな単位の板状粘土を貼り付けたものと思われる。胎土はスサを含む粘土である。表面は雑な指ナデによる調整が一部分的に施されている。形態的には、破片資料のため全体的な形状、特に全長を想定することは困難であるが、おおよそ円筒形を呈し、輪切りした横断面の内側はほぼ凹形を呈するが、外面は調整によるものか面取りしたような縦方向の稜が認められる。見ようによっては一部外面に平坦



第55図 古代の土器集成図1 (坏類)



12



40



48

SI 02



21



58



61



14

SI 01



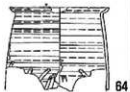
24



23



27



64

SI 04



67



66

SI 03



82



84

第56図 古代の土器集成図2 (猿類)

部を有するかのようにも見受けられる。使用による先端部の浸食は少ない。土鍾は14点が出土し、破砕した1点を除く13点(図番91~111)を掲載した。すべて中央部から両端に向かい細くなる形態で、長軸方向に細い棒状工具により穿孔されている。S I 04出土の11点(図番91~101)は長さ4~5 cm未満、孔径4~5 mm未満、SK I 01出土の2点(図番110・111)は長さ5 cm以上、孔径5 mm以上と大ききで二大別される規格性が認められた。

### ③鉄製品

鉄製品としては掲載した刀子と鉄鎌の各1点(図番70・102)の他、棒状の不明品3点と板状の不明品1点が出土した。図番70の刀子は、刀身の形状がおおよそ長三角形を呈し、刃部は緩やかに湾曲し、側面は背側では鈍角をなすが刃側では楔状となり、基部は刀身とほぼ同様の長さを持ち、形状も茎尻にむけて細く狭まっている。図番102の鉄鎌は、鋳造式の長頭鎌で、細根、小型の鎌身部、長い頸部を有し、刃部は両側縁につく。頸部は台状である。

### ④石器類

石器類としてはS I 04出土の鉄砧石2点(図番103・104)とS I 02出土の砥石1点(図番32)のみである。鉄砧石は鍛錬鍛冶工程における製品鍛打のための台石である。用途上大きく重量を必要とするもので、出土したいずれも9 kg以上の重量があり、石質は安山岩である。使用状態としては片面と表裏2面に鍛打の痕跡が確認されたもので、後者は片側の凹凸が比較的顕著で一次使用面が作業工程上適さなくなったために裏面を再利用して使ったものと思われる。また、使用面は部分的に被熱による赤褐色の弱い色調変化が見られ、スス状の炭化物や滓が若干付着している。砥石は鉄製の刃物類の刃部を作出するための研磨道具で、石質は流紋岩である。形状的には使用による結果ではなく、流紋岩の柱状結晶という石材の特徴から方形基調のものとなっている。3面に使用の痕跡が認められたが、極めて微弱な痕跡であり、頻繁に使用したのではなく、一時的な研磨利用と思われる。

### ⑤鉄滓類

鉄滓類としては、状況から鍛冶滓類と考えられる13点が出土し、半数以上が他の鍛冶関連遺物も出土しているS I 04からの出土であるが、調査時点では鍛冶炉を想定しておらなかったため、鍛冶剥片や粒状滓を採集するための土壌収集を実施しておらず、精錬・鍛錬の工程については不明である。主に外貌観察と磁着の有無及びメタル反応等により分類でき、外貌的には流状鍛冶滓・鍛冶滓・梔形鍛冶滓に大別される。

流状鍛冶滓は、製錬工程における流動滓に類似しており、色調は赤みがかった青黒色を呈し、表面が比較的滑らかな流動状態が認められるもので、磁着しない2点(写番119・122)とメタル反応はないが弱く磁着する1点(写番130)が出土した。鍛冶炉の操業中に流下あるいは滴下して形成されたものと思われる。

鍛冶滓は、色調は極暗赤褐色~茶褐色を呈し、錆に覆われたものが多く、全体的に錆化し、ザラザラ感に強弱はあるが凹凸している。木炭の噛み込みや痕跡を留めるものもある。磁着の有無とメタル反応等により細分され、磁着しない鍛冶滓は2点(写番120・126)、メタル反応はないが弱く磁着する鍛冶滓(含鉄少)は5点(写番123~125・128・131)、磁着し、部分的にメタル反応の強い鍛冶滓(含鉄多)が2点(写番121・127)ある。

梔形鍛冶滓は、炉底で形成されるものであることから、底部が梔形の半円形を呈するもので、精錬・鍛錬両工程で形成されるものである。径約10 cmほどの1点(写番129)のみ出土し、底部には土や砂礫がわずかながら付着しており、部分的に磁着し、一部メタル反応の強い含鉄多のものである。

上台Ⅱ鍛冶滓集計表

写番	出土地点	種類	重量(g)	備考
119	SI 02・床面	液状鍛冶滓	30.0	表面赤味多く、比較的滑らか、磁着無
120	SI 04・南東埴土	鍛冶滓	29.0	表面錆化著しく赤茶色、凸凹、磁着無
121	SI 04・南東埴土	鍛冶滓(含鉄多)	35.0	表面錆化著しく赤茶色、ザラザラ、部分的にメタル反応特L
122	SI 04・K2・埴土	液状鍛冶滓	35.0	表面赤味帯びた青黒、比較的滑らか、磁着無
123	SI 04・K2・埴土	鍛冶滓(含鉄少)	74.0	表面部分的に錆化青黒～赤茶、一部滑らか、弱く磁着
124	SI 04・K2・埴土	鍛冶滓(含鉄少)	81.0	表面錆化著しく赤茶色、ザラザラ、木炭かみこむ、弱く磁着
125	SI 04・K2・埴土	鍛冶滓(含鉄少)	91.0	表面錆化著しく赤茶色、ザラザラ、弱く磁着
126	SKI 01・東ベルト埴土	鍛冶滓	21.0	表面部分的に錆化青黒～赤茶、凸凹、磁着無
127	SKI 01・南東埴土	鍛冶滓(含鉄多)	131.0	表面錆化著しく赤茶色、ザラザラ、部分的にメタル反応特L
128	SKI 02・北ベルト埴土	鍛冶滓(含鉄少)	22.0	表面錆化著しく赤茶色、ザラザラ、弱く磁着
129	SKI 02・埴土	塊形鍛冶滓(含鉄多)	181.0	表面錆化著しく赤茶色、底面ザラザラ、表ややや滑らか一部メタル反応特L、径約10cm
130	T4・西・黒層(褐色)	液状鍛冶滓(含鉄少)	20.0	表面赤味多く、比較的滑らか、一部弱く磁着
131	T4・北・耕作土	鍛冶滓(含鉄少)	116.0	表面錆化著しく赤茶色、ザラザラ、木炭かみこむ、弱く磁着

### 第3節 時期不明の遺構

時期不明とした遺構は、遺物が出土せず、時期を判断できる直接的な重複や形造的な特徴が見出せなかったもので、十坑22基、焼土遺構4基、溝跡1条などがある。分布状況としては、多くが微高地上に立地しているが、土坑のおよそ三分の一は南側低地に位置する。溝跡は東西に走行する畦道と並行するから比較的新しく、削平されたIV層中検出の焼土遺構は状況から、本来十坑状の炉跡の可能性が高い。

#### (1) 土坑

##### SK 05 土坑 (第57図、写真図版19)

微高地のほぼ中央、ⅢD-9 fグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部約85×70cm、底部約45×35cmの略楕円形を呈する。断面形は丸底鍋形を呈し、深さは約40cmを測る。埋土は黒ボク系土の単層である。遺物は出土しなかった。

##### SK 07 土坑 (第57図、写真図版19)

微高地北東部縁辺、ⅢD-10 aグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部径約70cm、底部径約50cmの歪な略円形を呈し、底面には径約40cm、深さ約5cmの略円形の浅い窪みがある。断面形は浅い皿形を呈し、壁高は約10cmを測る。埋土は黒ボク系土3層に分層される流入による自然堆積と思われるが、中央窪み部分には廃棄と思われる焼土ブロックが混じる。遺物は出土しなかった。

##### SK 08 土坑 (第57図、写真図版19)

微高地東側縁辺のⅣD-1 eグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.4m、幅約45cm、底部では長軸長約1.3m、幅約30cmの短い溝状を呈する。長軸方向はおよそ東-西にある。横断面形は鍋形を呈し、深さ約15cmを測る。埋土は黒ボク土の単層である。形造的には短い溝状陥し穴と類似しており、陥し穴の掘りかけかもしれない。遺物は出土しなかった。

#### SK 09 土坑 (第57図、写真図版19)

微高地北東部縁辺、IVD-1 d グリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部径約1m、底部径約85cmの略円形を呈する。断面形は皿形を呈し、深さは約10cmを測る。埋土は黒ボク土の単層である。底面は概ね平坦でややグライ化していた。遺物は出土しなかった。

#### SK 11 土坑 (第57図、写真図版19)

微高地東側縁辺のIVD-1 f グリッドに位置し、検出面は畦道下のⅢ層上面である。当初はSKT29の崩落部と捉えていたものだが、その精査過程において土坑を確認したものであり、重複する北側部分の詳細は不明となってしまった。本遺構が新しい。残存部からの平面形・規模は、開口部径約70cm、底部径約60cmの略円形を呈する。断面形は平底鍋形を呈し、深さは約35cmを測る。埋土は黒ボク系土の流入による自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

#### SK 19 土坑 (第57図、写真図版19)

微高地中央部、ⅢD-9 h グリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部径約85cm、底部径約70cmの略円形を呈する。断面形は皿形を呈し、深さは約15cmを測る。埋土は黒ボク土の単層である。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

#### SK 20 土坑 (第57図、写真図版19)

微高地南東部の柱穴以外には遺構の希薄なIVE-1 a グリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部約70×55cm、底部約50×35cmの略楕円形を呈する。断面形は鍋形を呈し、深さは約25cmを測る。底面はやや丸みを帯びている。埋土は黒ボク土の単層である。遺物は出土しなかった。

#### SK 23 土坑 (第57図、写真図版19)

微高地中央部、ⅢD-8 h グリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。上面にはSN02が存在する。平面形・規模は、開口部で一辺約1m、底部では南西部が盛り上がっているが、およそ一辺約70cmの略方形を呈し、断面形は深さ約15cmほどの箱状を呈する。埋土は6層に細分され、上位はSN02の焼土、以下は黒ボク系土の人為的堆積である。底面はやや凹凸が認められた。遺物は出土しなかった。

#### SK 25 土坑 (第58図、写真図版20)

微高地南東部縁辺、IVE-1 b グリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸約1.4m、短軸約1m、底部では長軸約1.3m、短軸約90cmの隅丸長方形を呈し、断面形は深さ約35cmの箱形を呈する。埋土は上半が黒ボク土、下半が褐色土の堅く締まった2層に分層される人為的堆積である。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

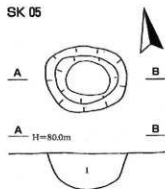
#### SK 27 土坑 (第58図、写真図版20)

微高地南東部縁辺、ⅢE-10 c・IVE-1 c グリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。柱穴を切る。平面形・規模は、開口部で長軸約1.6m、短軸約80cm、底部では長軸約1.5m、短軸約70cmの隅丸長方形を呈し、断面形は深さ約10cmの箱形を呈する。埋土は堅く締まった黒ボク土の単層で、人為的堆積と思われる。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

#### SK 28 土坑 (第58図、写真図版20)

微高地南東部縁辺、ⅢE-10 c・IVE-1 c グリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。柱穴を切る。平面形・規模は、開口部で長軸約1.55m、短軸約80cm、底部では長軸約1.45m、短軸約70cmの隅丸長方形を呈し、断面形は深さ約10cmの箱形を呈する。埋土は堅く締まった黒ボク土の単層で、人為的堆積と思われる。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

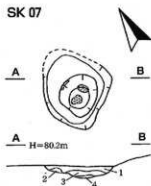
SK 05



SK 06

1. 10YR 3/4 (暗褐色)  
細り纏めて有、粘性有、地山土少量

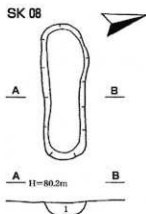
SK 07



SK 07

1. 10YR 2/3 (黒褐色)  
細り纏めて有、粘性有、粘土ブロック少量
2. 10YR 3/4 (暗褐色)  
細り纏めて有、粘性有
3. 10YR 2/2 (黒褐色)  
細り黒、粘性有、地山粒少量
4. 10YR 3/1 (黒褐色)  
細り黒、粘性有、粘土粒少量

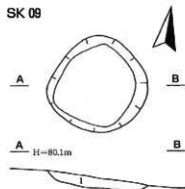
SK 08



SK 08

1. 10YR 2/3 (黒褐色)  
細り・粘性有、地山ブロック微量

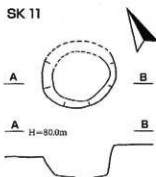
SK 09



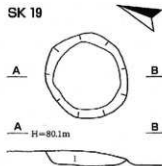
SK 09

1. 10YR 2/3 (黒褐色)  
細り纏めて有、粘性有  
地山粒・炭化炭粒微量  
下位がややグライ化

SK 11



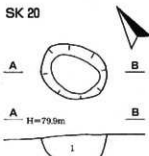
SK 19



SK 19

1. 10YR 2/3 (黒褐色)  
細りやや有、粘性有、地山粒微量

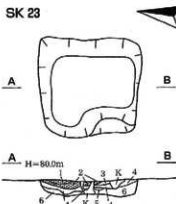
SK 20



SK 20

1. 10YR 4/4 (褐色)  
細り纏めて有、粘性有

SK 23



SK 23

1. 5YR 4/6 (赤褐色) } S N 02 階上
2. 5YR 4/6 (赤褐色)
3. 10YR 2/3 (黒褐色)
- 細り纏めて有、粘性有、粘土粒少量
4. 7.5YR 2/3 (暗褐色)
- 細りやや有、粘性有、地山粒少量
5. 7.5YR 4/4 (にぶい赤褐色)
- 粘土ブロック
6. 10YR 2/3 (黒褐色)  
細り・粘性有、地山土少量



第57図 SK 05・07-09・11・19・20・23 土坑



#### SK 32 土坑 (第58図、写真図版20)

微高地南東部縁辺、ⅢE-10c・IVE-1cグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部約1m×75cm、底部約85×60cmの略楕円形を呈する。断面形は鍋形を呈し、深さ約20cmを測る。埋土は黒ボク系土4層に分層される自然堆積で、底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

#### SK 34 土坑 (第58図、写真図版20)

調査区南端の低地、ⅢF-4・5cグリッドに位置し、耕作土直下のグライ化したⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部約2.4×1.6m、底部約2.1×1.45mの歪な略楕円形を呈する。壁はおよそ外傾して立ち上がり、深さ約25cmを測る。埋土は基本的には黒ボク土の単層である。底面は概ね平坦である。

遺物は20～30cm大の自然礫が数個出土した。

#### SK 38 土坑 (第58図、写真図版20)

調査区南部低地のⅢE-7g・hグリッドに位置し、耕作土直下のグライ化したⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部約1.4m×80cm、底部約1.1×55cmの歪な略楕円形を呈する。壁は底面から明瞭な稜をもたず緩やかに外傾して立ち上がり、深さは約10cmを測る。埋土は酸化鉄を含む黒ボク土の単層である。底面はやや丸みを帯びている。遺物は出土しなかった。

#### SK 39 土坑 (第58図、写真図版20)

調査区南部低地のⅢE-6・7hグリッドに位置し、耕作土直下のグライ化したⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部径約65cm、底部径約30cmの略円形で、断面形は丸底鍋形を呈し、深さは約10cmを測る。東壁際には径・深さともに約10cmほどの柱穴状ピットをもつ。埋土は基本的には酸化鉄を含む黒ボク土の単層である。遺物は出土しなかった。

#### SK 40 土坑 (第59図、写真図版21)

調査区南部低地のⅢE-8fグリッドに位置し、耕作土直下のⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部約1.4×1m、底部約1m×50cmの歪な略楕円形を呈し、断面形は丸みのある底面から明瞭な稜をもたない皿形を呈し、深さ約10cmを測る。埋土は酸化鉄を含む黒ボク土の単層である。遺物は出土しなかった。

#### SK 41 土坑 (第59図、写真図版21)

調査区南部低地のⅢE-9fグリッドに位置し、耕作土直下のグライ化したⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部約80×65cm、底部約70×50cmの楕円形を呈し、断面形は深さ約25cmの鍋形を呈する。埋土は酸化鉄を含む黒ボク土の単層である。遺物は出土しなかった。

#### SK 42 土坑 (第59図、写真図版21)

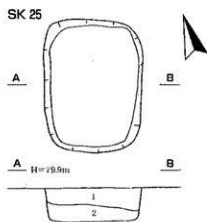
調査区南部低地のⅢE-9eグリッドに位置し、耕作土直下のグライ化したⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部では径約75cmの略円形を呈するが、東側では径約60cmの円形の二段に掘り込まれており、壁は丸みのある底面から緩やかに外傾して立ち上がり、深さは約15cmを測る。埋土は酸化鉄を含む黒ボク土の単層である。遺物は出土しなかった。

#### SK 43 土坑 (第59図、写真図版21)

調査区南部低地のⅢE-7gグリッドに位置し、耕作土直下のグライ化したⅣ層中で検出した。北側上位が削平時の影響によるものかやや開いているが、およそ平面形・規模は、径約50cmの略円形を呈し、断面形は深さ約17cmの丸底鍋形を呈する。埋土は黒ボク系土2層の自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

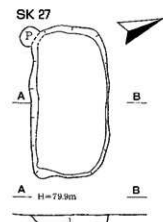
#### SK 45 土坑 (第59図、写真図版21)

微高地南側のⅢE-9cグリッドに位置し、削平されたⅣ層中で検出した。平面形・規模は、開口部径約



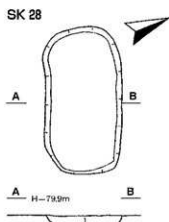
SK 25

1. 10YR 3/3 (黒褐色)  
縞り縞めて有、粘性有  
地山ブロック・砂多量、人為的堆積
2. 10YR 4/6 (褐色)  
縞り縞めて有、粘性有、人為的堆積



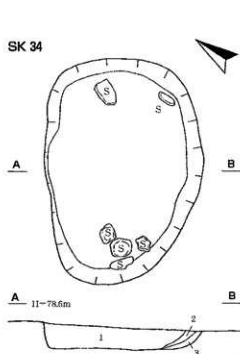
SK 27

1. 10YR 2/3 (黒褐色)  
縞り縞めて有、粘性有  
地山段・ブロック多量、人為的堆積



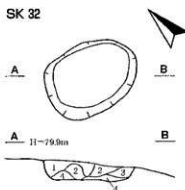
SK 28

1. 10YR 2/3 (黒褐色)  
縞り縞めて有、粘性有  
地山段・ブロック多量、人為的堆積



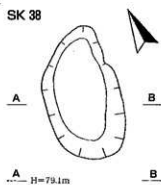
SK 34

1. 10YR 2/2 (黒褐色)  
縞り・粘性縞めて有、地山ブロック少量
2. 10YR 4/6 (黄褐色)  
縞り有、粘性縞めて有、赤サビ混入
3. 2.5GY 5/1 (オリーブ灰)  
縞り有、粘性縞めて有、赤サビ混入、グライ化傾向



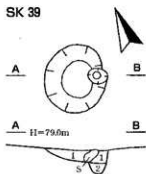
SK 32

1. 10YR 2/3 (黒褐色)  
縞り・粘性有、地山粒少量
2. 10YR 3/3 (黒褐色)  
縞り縞めて有、粘性有、地山粒混入
3. 10YR 3/3 (黒褐色)  
縞り・粘性有、地山粒多量
4. 10YR 2/3 (黒褐色)  
縞り・粘性有、地山粒少量



SK 38

1. 10YR 2/2 (黒褐色)  
縞り縞めて有、粘性やや有  
地山粒少量、赤サビ混入



SK 39

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 縞り縞めて有、粘性有、地山粒少量
2. 10YR 2/2 (黒褐色) 縞り・粘性有、地山段・粘土粒少量



第58図 SK 25・27・28・32・34・38・39土坑

60cm、底部径約45cmの略円形を呈し、断面形は深さ約15cmの鍋形を呈する。埋土は堅く締まった黒ボク土の単層である。遺物は出土しなかった。

#### SK 52 土坑 (第59図、写真図版21)

微高地南西端のⅢE-7 d・cグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形・規模は、開口部約1.1m×90cm、底部約85×65cmの楕円形を呈し、断面形は深さ約10cmの皿形を呈する。埋土は基本的には黒ボク系上3層からなる自然堆積と思われる。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

#### SK 54 土坑 (第59図、写真図版21)

微高地南東側縁辺のIVD-2 jグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形・規模は、開口部で長軸長約1.3m、幅約50cm、底部では長軸長約85cm、幅約15cmの短い溝状を呈する。長軸方向はおおよそ東-西にある。横断面形は逆さ台形状を呈し、深さ約30cmを測る。埋土は基本的には黒ボク系上となる3層に分層される自然堆積と思われる。形態的には短い溝状陥し穴と類似しており、陥し穴の掘りかけかもしれない。遺物は出土しなかった。

## (2) その他(焼土遺構・溝跡)

#### SN 02 焼土遺構 (第60図、写真図版22)

微高地中央部、焼土遺構が集中するⅢD-8 hグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。下位にはSK23が存在する。本遺構が新しい。平面形は80×65~30cmの不整な広がり、火熱により厚さ約8cm以下に赤色変化した焼土を確認したものである。遺物は出土しなかった。

#### SN 03 焼土遺構 (第60図、写真図版22)

微高地中央部、焼土遺構が集中するⅢD-8 hグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形は径約45cmほどの略円形の広がり、火熱により厚さ約5cm以下に赤色変化した焼土を確認したものである。遺物は出土しなかった。

#### SN 05 焼土遺構 (第60図、写真図版22)

微高地中央部、焼土遺構が集中するⅢD-7・8 hグリッドに位置し、削平されたIV層中で検出した。平面形は45×30~15cmの不整な広がり、火熱により厚さ約5cm以下に赤色変化した焼土を確認したものである。遺物は出土しなかった。

#### SN 06 焼土遺構 (第60図、写真図版22)

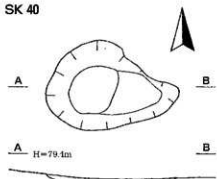
微高地南東側縁辺のⅢE-10 dグリッドに位置し、畦道下のⅢ層上面で検出した。平面形は80×60cmほどの不整な広がり、火熱により厚さ約10cm以下に赤色変化した焼土を確認したものである。

遺物は出土しなかった。

#### SD 02 溝跡 (第60図、写真図版22)

調査区中央のⅢD-7~10 h・iグリッドに位置する。畦道と並行して北東-南西に走行し、西側は調査区外に続くが、東端は延長方向の微高地東側縁辺の畦道下では検出されなかったことから検出した部分までと思われる。畦道下のⅢ層上面で検出したが、S104と重複する部分は平面での識別が困難であったため、共通するベルトを設定して一括して掘り下げを行い、断面の観察から判断した部分が多くなってしまった。S104、SK21、SKT07と重複し、すべてを切る。検出した部分では総長約12.5m、幅約50cmを測る。横断面形は浅い鍋形を呈し、深さは15~20cmほどを測る。底面は東側から西側に向いかなり緩い傾斜となっている。埋土は黒ボク土の単層である。遺物は出土しなかった。

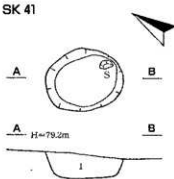
SK 40



SK 40

1. 10YR 2/2 (黒褐色)  
 締り・粘性有、地山粒少量

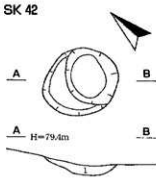
SK 41



SK 41

1. 10YR 3/2 (黒褐色)  
 締り極めて希、粘性有  
 地山粒微量、赤サビ混入

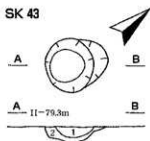
SK 42



SK 42

1. 10YR 2/2 (黒褐色)  
 締り・粘性有  
 地山粒・赤サビ微量

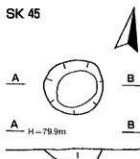
SK 43



SK 43

1. 10YR 2/2 (黒褐色)  
 締り・粘性有、地山粒微量  
 2. 10YR 2/3 (黒褐色)  
 締り・粘性有  
 地山粒・地山ブロック少量

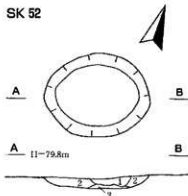
SK 45



SK 45

1. 10YR 3/4 (暗褐色)  
 締り極めて希、粘性有

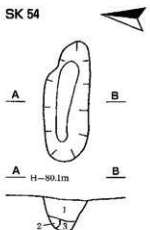
SK 52



SK 52

1. 10YR 2/3 (黒褐色)  
 締り・粘性有  
 2. 10YR 3/3 (暗褐色)  
 締り・粘性有、地山粒少量  
 3. 10YR 4/6 (褐色)  
 締り・粘性有  
 地山土に黒ボク土の混じり

SK 54



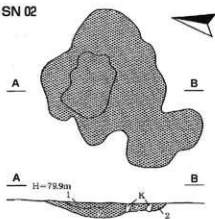
SK 54

1. 10YR 2/2 (黒褐色) 締りやや希、粘性有、地山粒少量  
 2. 10YR 4/6 (暗褐色) 締り無、粘性有、地山土多量  
 3. 10YR 3/4 (暗褐色) 締り無、粘性有、地山土少量



第59図 SK 40~43・45・52・54 土坑

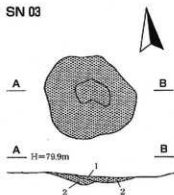
SN 02



SN 02

1. 5YR4/6 (赤褐色) 焼土
2. 5YR4/6 (赤褐色) 焼土

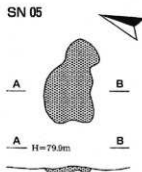
SN 03



SN 03

1. 5YR5/8 (明赤褐色) 焼土
2. 5YR3/6 (明赤褐色) 焼土

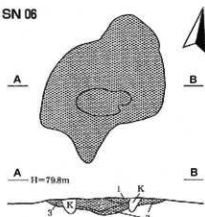
SN 05



SN 05

1. 5YR4/4 (C.I.赤褐色) 焼土

SN 06

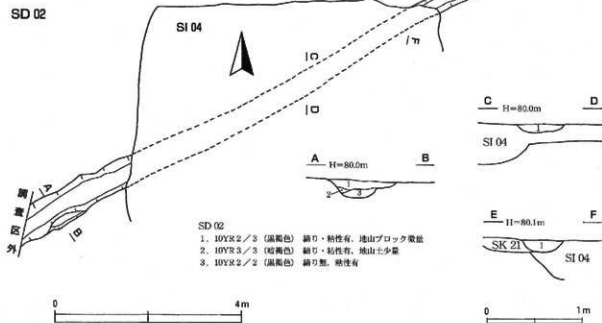


SN 06

1. 5YR4/8 (赤褐色) 焼土
2. 5YR3/6 (明赤褐色) 焼土
3. 7.5YR3/4 (暗褐色) 焼土

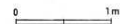
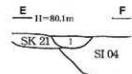
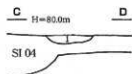


SD 02



SD 02

1. 10YR2/3 (黒褐色) 締り・粘性有、地山ブロック電柱
2. 10YR3/3 (暗褐色) 締り・粘性有、地山土少量
3. 10YR2/2 (黒褐色) 締り無、粘性有



第60図 SN 02・03・05・06 焼土遺構、SD 02 溝跡

## 第5章 まとめ

今回の上台Ⅱ遺跡の調査によって得られた資料は、主な遺構としては縄文時代と考えられる陥し穴31基、古代（平安時代）では竪穴住居跡4棟、竪穴状遺構2棟、掘立柱建物跡2棟、柱穴約400基、土坑23基、炉跡・焼上遺構3基、溝跡3条、時期不明の土坑22基、焼上遺構4基、溝跡1条などがある。これらは時代を問わずほとんどが浮島状となっている微高地上に立地しており、現況で捉えられる微高地約6,000㎡ほどが遺跡範囲と考えられ、今回の調査はおよそ二割ほどの範囲について実施したことになる。

遺物としては縄文時代晩期の土器（実際にはほとんどが磨滅しているため詳細は不明だが）約50点ほどと石器類（不定形・磨製石斧・凹石・フレークなど）が約20点、弥生時代と思われる土器1点、古代（平安時代）では土師器（所謂あかやき土器含む）が大コンテナおよび3箱半、須恵器は破片としては約50点だが数個体分、土製品として羽口2点と土鍾14点、鉄製品として鉄鍬と刀子が各1点と不明品3点、石器類として鉄砧石2点と砥石1点、鉄片が13点、それと近世の陶磁器が数点出土している。全体的な出土状況としては、包含層が消失していることもあって遺構内出土がほとんどを占めるが、縄文時代の遺物は基本的にはすべて遺構外からの出土であり、狩猟場という性格上極めて少ない。古代の遺物は大半が竪穴住居跡4棟からの出土であり、住居単位では比較的多く出土している。

ここでは、調査によって得られた遺構・遺物とも決して多いとは言えないが、縄文時代・平安時代各々について若干のまとめを行い、本報告を終了することとしたい。

### （1）縄文時代の陥し穴について

縄文時代の遺構としては陥し穴のみが検出され、性格的には狩猟場としての土地使用が確認された。全体的な分布状況としてはほとんどが微高地上に占地し、北及び南部と東側の微高地縁辺部には少なく、中央部に集中的に位置する傾向にある。出土遺物がないため各々の時期の特定は適わないが、一応形態分類と配置状況を検討してみる。

形態的には溝状（Ⅰ）・楕円形状（Ⅱ）・円筒形（Ⅲ）の3タイプに大別される。規模的にはⅠ・Ⅱタイプでは長軸長が1.2m～1.8m（A）、2m～2.6m（B）、3m以上（C）の3サイズ、幅は使用等の理由による崩落などの影響の少ないと思われる底部における法量としては20cm以下（a）、25cm～30cm（b）、45cm以上（c）の3サイズでまとまりがあり、B・Cではaサイズ、特に20cm未満に限られるⅠ型となり、cはAサイズに2基のみあってⅡ型となる。bはAサイズに限られ、また、Aのaサイズも開口部プランでは類似してⅡ型的であり、これらはⅠ型とⅡ型の中間的ではあるが、一応タイプⅡとしておく。Ⅲタイプは直径1.2mの1基のみで、逆茂木痕と思われるビット1基を有する。

以上の形態及び規模から以下の6タイプに細分類される。

ⅠBa類 11基（SKT09・13・15・18～20・22・23）

ⅠCa類 1基（SKT07）

ⅡAa類 10基（SKT01・16・17・24・25・29・30A・30B・32・33）

ⅡAb類 6基（SKT03・04・08・14・21・28）

ⅡAc類 2基（SKT26・27）

Ⅲ類 1基（SKT31）

次に配置状況等としては、Ⅰ類は調査区微高地上の中央部に集中しており、長軸方向が北西-南東と南西-北東のものがあるが、およそ東西方向にあり、3乃至4基単位で近接した並行配置となっている。Ⅱ類は明らかな精円形のⅡA・C類は微高地北側のやや内側に位置しているが、ほかは微高地縁付近に多く、長軸方向はおおよそ東西方向のものと南北方向のものがあり、南北方向のものは単独配置が多く、東西方向のものは2基単位での並行配置のものがほとんどである。

配置状況には意図的な様相が窺えることから、Ⅰ型とⅡ型では時期差があるものと思われる、SKT14・15の重複関係からみてⅡ型が古くⅠ型が新しいタイプと考えられるが、単独のⅢ型については言及できない。

## (2) 古代(平安時代)の集落構造と変遷について

古代の集落を構成する主たる遺構としては、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、竪穴状遺構、土坑類などがある。すべて微高地上に立地し、柱穴群を除いてはほとんど重複せず、さらに土坑類を除いては微高地上に分散しており、竪穴住居跡・竪穴状遺構や掘立柱建物跡などは規則性の窺える配置状況となっている。いずれも数量的には多くはないが、形態及び分布状況と出土遺物等から集落の構造と変遷について若干検討してみる。

まず竪穴住居跡であるが、検出した4棟は規模的には一辺3.5~6.5mと大小があり規格性はないが、形態的な類似性と配置的にも規則性がかなり認められる。形態としては西側の大半が調査区外にかかるため詳細が不明なS101を除いては、平面形は隅丸略方形を呈し、貼床が施され、地床炉を有する。S102・04は主柱穴を4基有し、どちらも南側の2基は竪穴の壁から張り出す。カマドは4棟とも東側の南よりに付設され、主軸方位はおおよそ東西方向にあり、カマド構造は本体部は石を芯材として褐色粘土で構築され、支脚には垂角礎を用いている。煙道は最小のS103は削り置き式だが、他の3棟は掘り込み式である。

埋土の状況としては4棟とも基本的には流入による自然堆積であるが、遺物や焼土などが「時的に廃棄されており、調査区内での遺構間(竪穴住居同士とは限らない)の時間差も考えられるが、未調査区には廃棄行為を行った比較的新しい時期(時期差というよりは時間差的程度)の遺構が存在する可能性も否定できない。また上位が開墾により削平されており、不明な部分もあるが、S102・03では埋土上位(本来は中位か)にブロック状に火山灰(分析結果:「和用a降下火山灰)が堆積していた。

分布状況としては4棟とも壁は東西南北方向と一致し、S103を除く3棟は南北方向で一直線に並び、SN01をカマドとする竪穴住居跡を想定するとほぼ等間隔の並列配置といえる。

出土遺物、特に土器類については前述のとおり、時期幅は9世紀後葉~10世紀初頭とあまり広くないものと考えられる。また量的にはかなり少ないが、S102・04では銀冶関連遺物が出土している。

次に竪穴状遺構であるが、検出した2棟では形態的な類似性は認められず、共通項としては配置的に微高地南側縁に位置することと出土遺物に銀冶関連遺物が含まれる程度である。

最後に掘立柱建物跡(柱穴群)であるが、想定されたものは2棟に過ぎないものの、約400基に上る柱穴の存在からは想定し得なかった掘立柱建物跡がある可能性は高い。形態(間尺等)的な類似性は棟数のこともあって見出し得ないが、分布状況としては想定された掘立柱建物跡を含め、竪穴住居跡が位置しない微高地南部から南東部に大半が位置し、一部柱穴においては竪穴住居跡の埋土途中から掘り込まれたものも散見された。想定された掘立柱建物跡に限ると配置的には、調査区微高地南部に位置し、4棟の竪穴住居跡並びと一致するもので、S101・02・04の3棟とは南北方向でほぼ直線状となる並列配置である。

以上のことから推定される集落の構造と変遷は、一応調査区内に限ったことながら主に遺物からは9世紀後葉から10世紀初頭の時期で、重複状況からは同時存在の時期もあるが、相対的に竪穴住居跡がやや古く、

掘立柱建物跡がやや新しいと思われ、この重複関係に火山灰の堆積状況を加味すると十和田 a 降下火山灰の年代代では集落は終焉段階にあったと推測される。つまり、集落の発生から前半期では一部掘立柱建物跡を含む竪穴住居跡を主体とし、後半期には掘立柱建物跡を主体とする集落の構造変遷が想定される。

最後に、今回の調査によって上台 II 遺跡の時代・性格としては縄文時代の狩猟場と平安時代の集落という複合遺跡であることが判明した。報告は推定される遺跡範囲の二割ほどの調査結果ではあるが、遺跡自体の規模もあまり大きくはなく、さらに調査区内での遺構・遺物の在り様としては各時代とも密度は決して濃いものではなく、古代では時期幅も狭いという二極的な存続時期の様相を呈することが窺い知れた。今後、国道 4 号花巻東バイパスの開通によって遺跡残存部に対する開発行為、これに伴う調査が実施される可能性も高く、その結果によって本遺跡の全容が解明されることに期待したい。

#### 参考文献

- 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 「麻理遺跡発掘調査報告書」 第302集  
 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
- 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 「横沢Ⅱ・高松寺・上駒板遺跡発掘調査報告書」 第319集  
 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
- 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「石神Ⅰ遺跡発掘調査報告書」 第341集  
 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
- 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 「似内遺跡発掘調査報告書」 第344集  
 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
- 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 「上似内遺跡発掘調査報告書」 第379集  
 前岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
- 花巻市教育委員会 2000 「麻理遺跡発掘調査報告書」 花巻市埋蔵文化財調査報告書 第24集
- 八木光則 1981 「志波城跡Ⅰ-太田方八丁遺跡範囲確認調査報告-」 盛岡市教育委員会
- 相原康二 1981 「岩手県南部における古代の土器編年試案」 『岩手県文化財調査報告書第60集』
- 高橋信隆 1982 「古代」 『岩手の土器』 岩手県立博物館
- 伊藤博幸 1996 「岩手県の10世紀の土器」 『日本土器辞典』 南山堂
- 八木光則 1992 「古代新渡部と竊塚の土器様相」 『第18回地域官衙遺跡検討会資料』
- 秋田県教育委員会 1991 「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅹ1-竹原遺跡-」 秋田県文化財調査報告書 第209集
- 秋田県教育委員会 1992 「秋田ふるさと村(仮称)建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-富ヶ沢A・B・C遺跡-」 秋田県文化財調査報告書 第220集
- 櫻田隆 1993 「砂土器考」 『考古論叢-久保智三先生追悼論文集-』
- 佐藤孝則 1986 「動物生態学からみた遺跡ピットの機能」 『北海道考古学』 第22輯 北海道考古学



## 付章 自然科学的分析

上台Ⅱ遺跡出土火山灰の分析鑑定報告

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

岩手県花巻市に所在する上台Ⅱ遺跡は、北上川中流域の左岸に形成された低位の段丘上に位置している。本遺跡の発掘調査の結果、縄文時代とされる陥穴や古代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡などの遺構や、縄文土器および古代の土師器・須恵器などの遺物が確認されている。

本報告では、古代の竪穴住居跡検出面に認められた火山灰（テフラ）と考えられる堆積物について、その性状について検証を行う。また、これら堆積物がテフラであった場合、噴山年代の明らかな指標テフラと対比し、これら遺構の年代について評価を行う。

### 1. 試料

試料は、古代の竪穴住居跡2軒（SI02・SI03）から採取された火山灰と考えられる堆積物2点（SI02竪穴住居火山灰サンプル（以下、SI02）、SI03竪穴住居火山灰サンプル（以下、SI03））である。いずれの試料も、遺構検出面直下の2層上面より、ブロック状に堆積する状況が確認されている。

これら試料の肉眼観察の結果、いずれも灰黄褐色を呈するシルト質砂であり、軽石と考えられる白色細粒の砂粒が確認される。

### 2. 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

実体顕微鏡をした後に、試料を篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。火山ガラス比分析は、重液分離によって得られた軽鉱物分中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

### 3. 結果

重鉱物・火山ガラス比分析結果を表1、図1、火山ガラスの屈折率を図2に示す。

分析の結果、2点の試料はほぼ同様の特性が確認される。実体顕微鏡では、砂分の主体が細粒の軽石であることが確認された。軽石は、粒径0.7～1.0mmが主体であり、淘

表1.重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料名	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
SI02	151	34	1	60	4	250	2	0	114	134	250
SI03	111	70	4	62	3	250	1	0	70	179	250

法も非常に良好である。色調は白～黄白色を呈し、スポンジ状によく発泡したものが多し。また、この他に斜長石または斜方輝石の斑晶を包有する軽石が微量認められる。

重鉱物組成は、ともに斜方輝石が多く、少量の単斜輝石と不透明鉱物を伴う組成であり、角閃石も極めて微量であるが認められる。なお、単斜輝石の量比を見るとSI03が若干高い。

一方、火山ガラス比は、ともに軽石型火山ガラスがほとんどであり、バブル型も極めて微量であるが認められる。また、火山ガラスの屈折率は、ともに $n1.503\sim1.507$  (モード $n1.504\sim1.505$ )を示す。

#### 4. 考察

東北地方におけるテフラの産状 (町田ほか (1981; 1984), Arai et al. (1986), 町田・新井 (2003) など) と本分析結果との比較、さらに、上台II遺跡の地理的位置や前述の発掘調査時の所見を考慮すると、2試料とも十和田aテフラ (To-a) の降下堆積物に由来すると考えられる。To-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、噴出年代については、早川・小山 (1998) によれば、西暦915年とされている。なお、To-aは、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている (町田ほか, 1981)。

SI02やSI03におけるTo-aは、その検出状況から判断すると住居跡がある程度埋没した後に降下堆積し、整地・開墾等の擾乱を受けたため、検出時の状況に至ったと判断される。したがって、遺構覆土中よりTo-aが確認されたことを考慮すると、これら遺構は西暦915年より以前に使用・廃棄されたと考えられる。なお、2試料の重鉱物組成を比較すると、試料間で単斜輝石の量比が異なり、また、微量の角閃石を含むことから、To-a本来の重鉱物組成を示しているとは考えられず、擾乱の過程で周囲の土壤に由来する重鉱物が混入した可能性がある。

東北地方では、To-aとほぼ同時期 (上述の早川・小山 (1998) によれば西暦947年) に中国と北朝鮮の国境にある白頭山から噴出した白頭山古小牧テフラ (B-Tm) の堆積も広域に認められている。このテフラは細粒のバブル型の多い火山ガラスを主体とすることや、その屈折率が高い ( $n1.511\sim1.522$ ) ことから、To-aと区別することができる。本分析試料中の火山ガラスの屈折率は $n1.503\sim1.507$ を示し、前述した屈折率とは異なることから、B-Tmに由来する火山ガラスはほとんど含まれていないと考えられる。

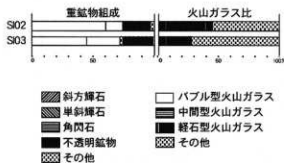


図1 重鉱物組成および火山ガラス比

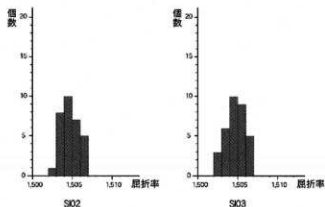


図2 火山ガラスの屈折率

#### 引用文献

Arai,F.・Machida,J.L.・Okumura,K.・Miyachi,T.・Soda,T.・Yamagata,K.,1986,Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II - Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido .Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,223-250.

古澤 明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別地質学雑誌,101,123-133.

早川由紀夫・小山真人,1998,日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日-十和田湖と白頭山-火山,43,403-407.

町田 洋・新井研次,2003,新編 火山図アトラス,336p,東京大学出版会.

町田 洋・新井研次・森脇 広,1981,日本海を渡ってきたテフラ,科学,51,562-569.

町田 洋・新井研次・杉原重夫・小田静夫・道澤邦彦,1984,テフラと日本考古学-考古学研究と関連するテフラのカタログ-,古文化財に関する保存科学と人文・自然科学,865-928,渡辺貞経編,同朋舎.

図版1 軽石・重鉱物・火山ガラス



1. 軽石 SI02 竪穴住居火山灰サンプル



2. 軽石 SI03 竪穴住居火山灰サンプル



3. 重鉱物 SI02 竪穴住居火山灰サンプル



4. 重鉱物 SI03 竪穴住居火山灰サンプル



5. 火山ガラス SI02 竪穴住居火山灰サンプル



6. 火山ガラス SI03 竪穴住居火山灰サンプル

Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Vg: 火山ガラス, Qz: 石英, Pl: 斜長石.

2mm

1.2

0.5mm

3~6



写 真 图 版





遺跡全景



調査終了全景

写真図版1 航空写真（遺跡全景）



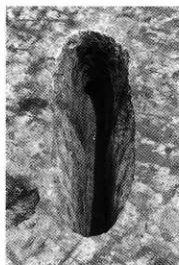


調査前近景



調査終了近景

写真図版2 調査区近景



SKT 01 陥し穴 完掘



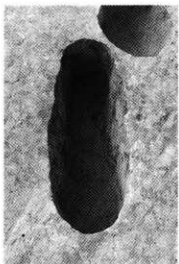
SKT 03 陥し穴 完掘



SKT 04 陥し穴 完掘



SKT 07 陥し穴 完掘



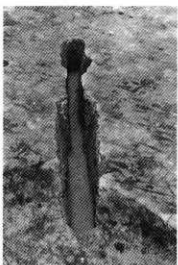
SKT 08 陥し穴 完掘



SKT 09 陥し穴 完掘

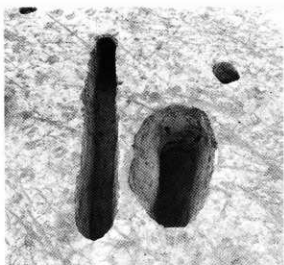


SKT 10 陥し穴 完掘



SKT 11 陥し穴 完掘

写真図版3 縄文時代の遺構1 (陥し穴1)



SKT 12・32 陥し穴 完掘



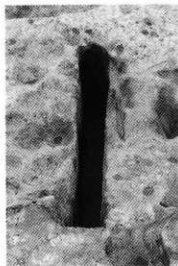
SKT 14・15 陥し穴 完掘



SKT 13 陥し穴 完掘



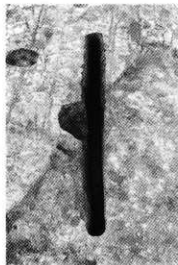
SKT 16 陥し穴 完掘



SKT 17 陥し穴 完掘



SKT 18 陥し穴 完掘

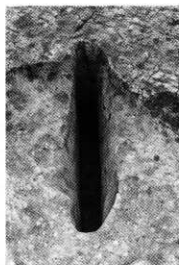


SKT 19 陥し穴 完掘

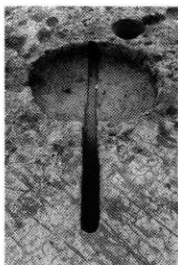


SKT 20 陥し穴 完掘

写真図版 4 縄文時代の遺構 2 (陥し穴 2)



SKT 21 陥し穴 完掘



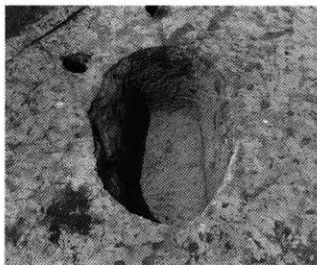
SKT 22 陥し穴 完掘



SKT 23 陥し穴 完掘



SKT 24 陥し穴 完掘



SKT 26 陥し穴 完掘



SKT 25 陥し穴 完掘



SKT 27 陥し穴 完掘

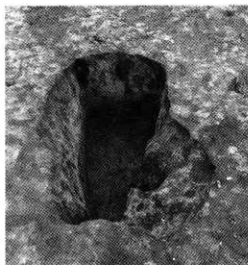
写真図版 5 縄文時代の遺構 3 (陥し穴 3)



SKT 28 陥し穴 完掘



SKT 29 陥し穴・SK 11 土坑 完掘



SKT 30 A・B 陥し穴 完掘



SKT 31 陥し穴 完掘



SKT 32 陥し穴 完掘



SKT 33 陥し穴 完掘

写真図版 6 縄文時代の遺構 4 (陥し穴 4)、古代の遺構 1 (土坑 1)



SI 01 竪穴住居跡 完掘



SI 01 カマド 遺物出土状況

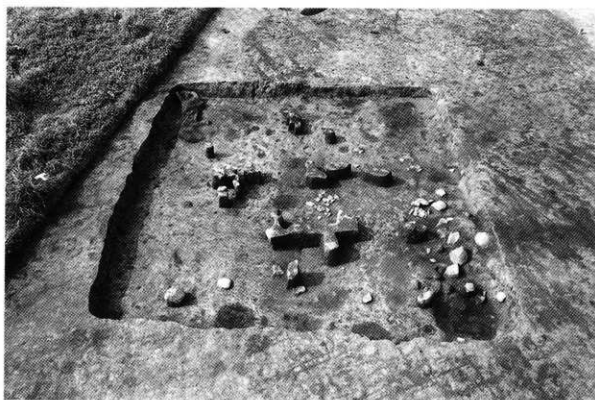


SI 01 カマド・K1・K2 完掘

写真図版7 古代の遺構2 (SI 01 竪穴住居跡)



SI 02 竪穴住居跡 完麗



SI 02 竪穴住居跡 遺物出土状況

写真図版 8 古代の遺構 3 (SI 02 竪穴住居跡 1)



SI 02・K1 完掘



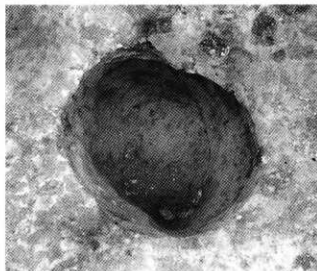
SI 02 カマド 検出状況



SI 02・K2 完掘



SI 02 カマド 完掘



SI 02・K3 完掘

写真図版 9 古代の遺構 4 (SI 02 竪穴住居跡 2)





SI 03 竪穴住居跡 完麗

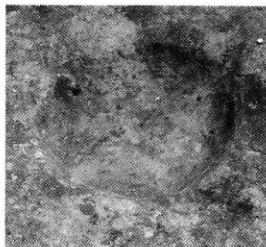


SI 03 竪穴住居跡 遺物出土状況

写真図版10 古代の遺構5 (SI 03 竪穴住居跡1)



SI 03 カマド・K1 完掘



SI 03・K2 完掘



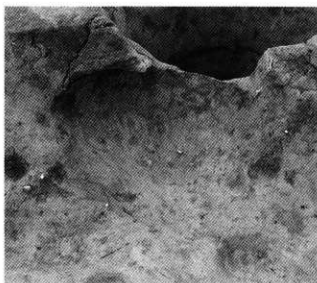
SI 03 カマド 遺物出土状況



SI 03・K3 完掘



SI 03 カマド 検出状況



SI 03・K4 完掘

写真図版11 古代の遺構 6 (SI 03 竪穴住居跡 2)

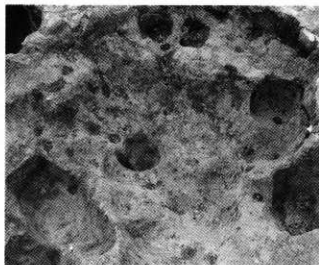


SI 04 竪穴住居跡 完掘

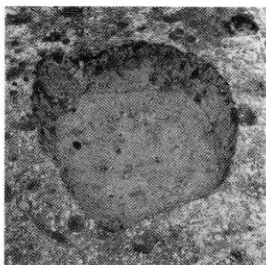


SI 04 竪穴住居跡 遺物出土状況

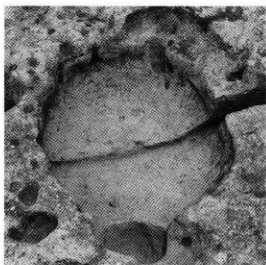
写真図版12 古代の遺構7 (SI 04 竪穴住居跡1)



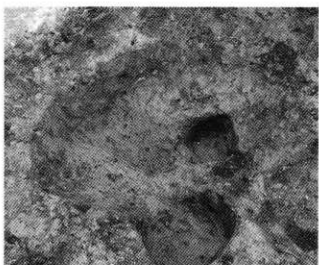
SI 04・K1 完掘



SI 04・K2 完掘



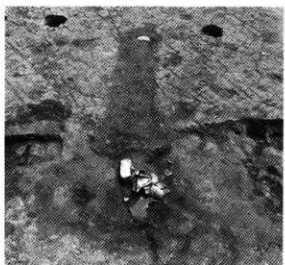
SI 04・K3 完掘



SI 04・K4 完掘



SI 04 カマド 完掘



SI 04 カマド 検出状況

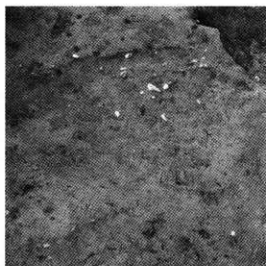
写真図版13 古代の遺構 8 (SI 04 竪穴住居跡 2)



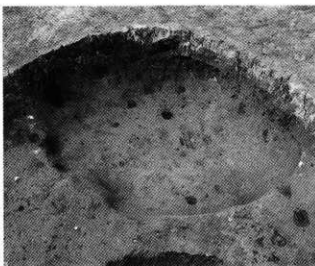
SKI 01 竪穴状遺構 完掘



SKI 01・K3 完掘



SKI 01・K1 完掘



SKI 01・K4 完掘

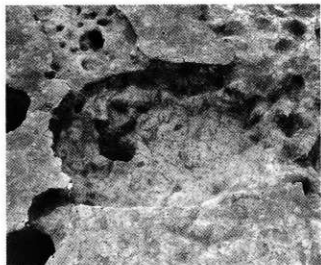


SKI 01・K2 完掘

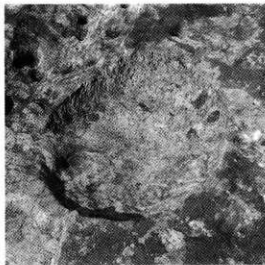


SKI 02 完掘

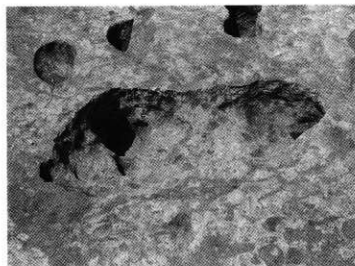
写真図版14 古代の遺構9 (SKI 01・02 竪穴状遺構)



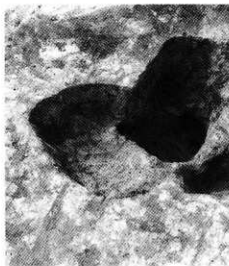
SK 03 土坑 完掘



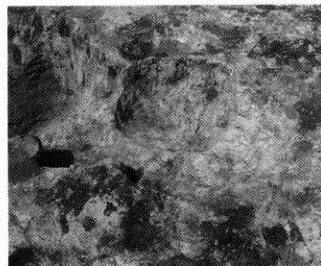
SK 04 土坑 完掘



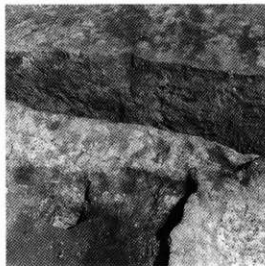
SK 13・14 土坑 完掘



SK 17 土坑 完掘



SK 16 土坑 完掘

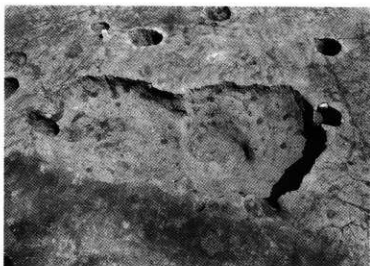


SK 21 土坑 完掘

写真図版15 古代の遺構10(土坑2)



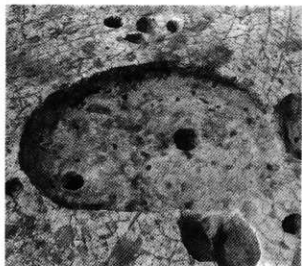
SK 22 土坑 完掘



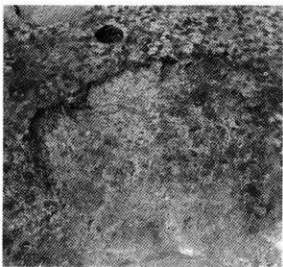
SK 30・31 土坑 完掘



SK 24 土坑 完掘



SK 33 土坑 完掘

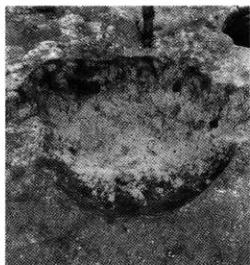


SK 26 土坑 完掘



SK 37・56 土坑 完掘

写真図版16 古代の遺構11 (土坑3)



SK 47 土坑 完掘



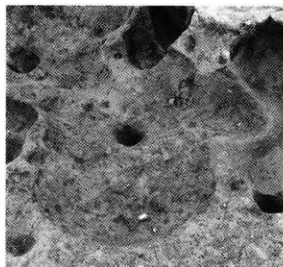
SK 48 土坑 完掘



SK 50 土坑 完掘



SK 51 土坑 完掘



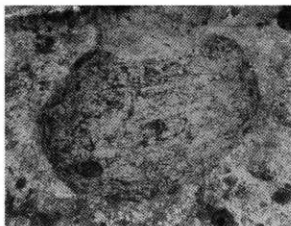
SK 53 土坑 完掘



SK 55 土坑 完掘

写真図版17 古代の遺構12 (土坑4)





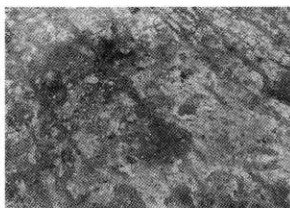
SK 58 土坑 完掘



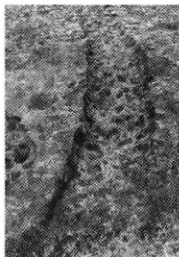
SN 01 焼土遺構 検出状況



SN 04 炉跡 完掘



SN 07 焼土遺構 検出状況



SD 01 溝跡 完掘(東側)



SD 01 溝跡 完掘(西側)

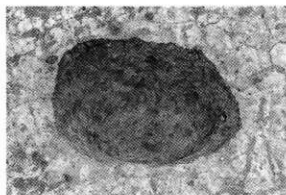


SD 03 溝跡 完掘

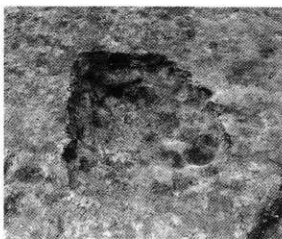


SD 04 溝跡 完掘

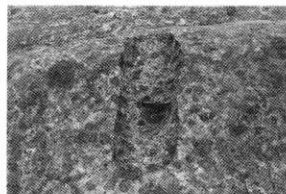
写真図版18 古代の遺構13 (土坑5・炉跡・焼土遺構・溝跡)



SK 05 土坑 完掘



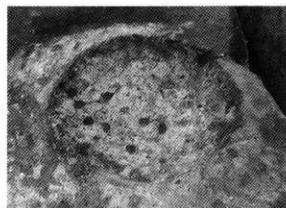
SK 07 土坑 完掘



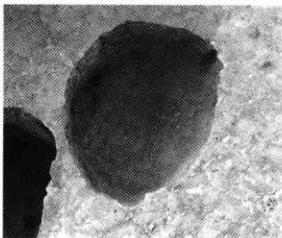
SK 08 土坑 完掘



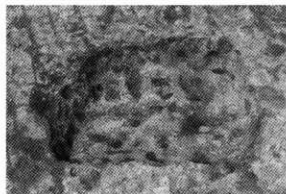
SK 09 土坑 完掘



SK 19 土坑 完掘

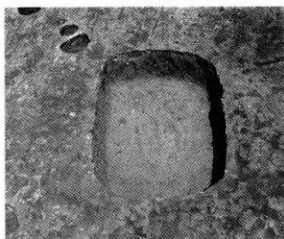


SK 20 土坑 完掘

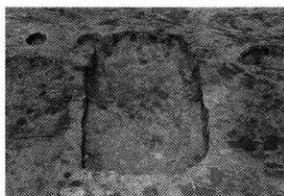


SK 23 土坑 完掘

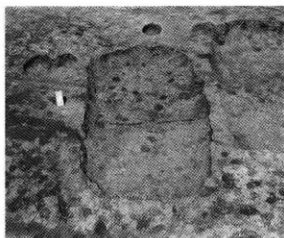
写真図版19 時期不明の遺構1（土坑1）



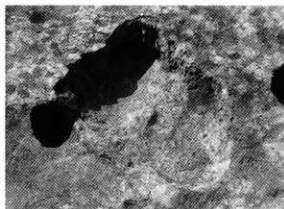
SK 25 土坑 完照



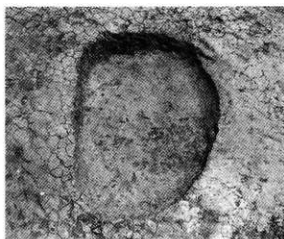
SK 27 土坑 完照



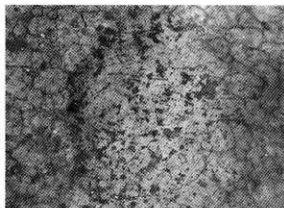
SK 28 土坑 完照



SK 32 土坑 完照



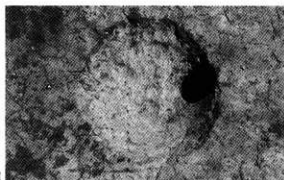
SK 34 土坑 完照



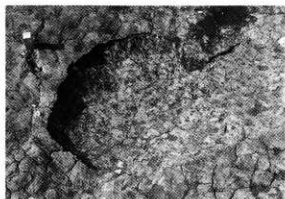
SK 38 土坑 完照



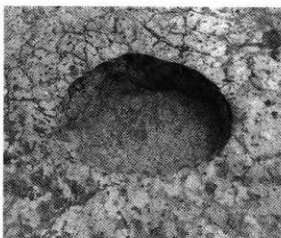
SK 39 土坑 完照



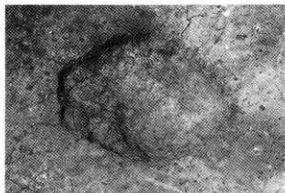
写真図版20 時期不明の遺構 2 (土坑 2)



SK 40 土坑 完掘



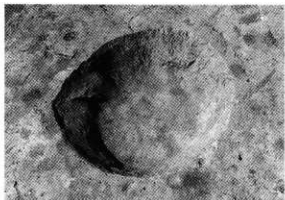
SK 41 土坑 完掘



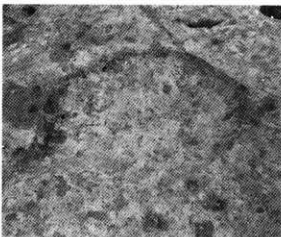
SK 42 土坑 完掘



SK 43 土坑 完掘



SK 45 土坑 完掘

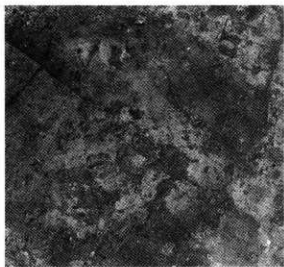


SK 52 土坑 完掘

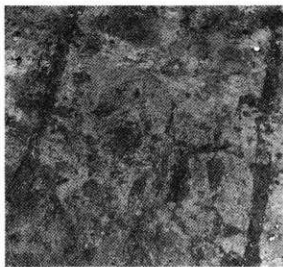


SK 54 土坑 完掘

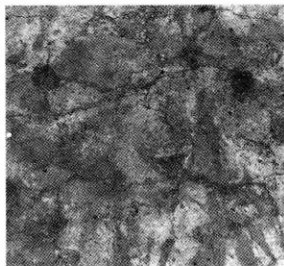
写真図版21 時期不明の遺構 3 (土坑 3)



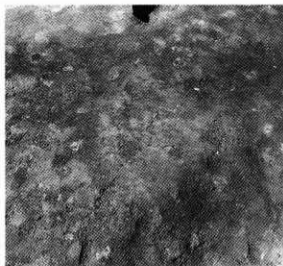
SN 02 焼土遺構 検出状況



SN 03 焼土遺構 検出状況



SN 05 焼土遺構 検出状況



SN 06 焼土遺構 検出状況



SD 02 溝跡 完掘



現地説明会風景

写真図版22 時期不明の遺構4（焼土遺構・溝跡）、現地説明会風景



1



2



3



4



5



6



7



8

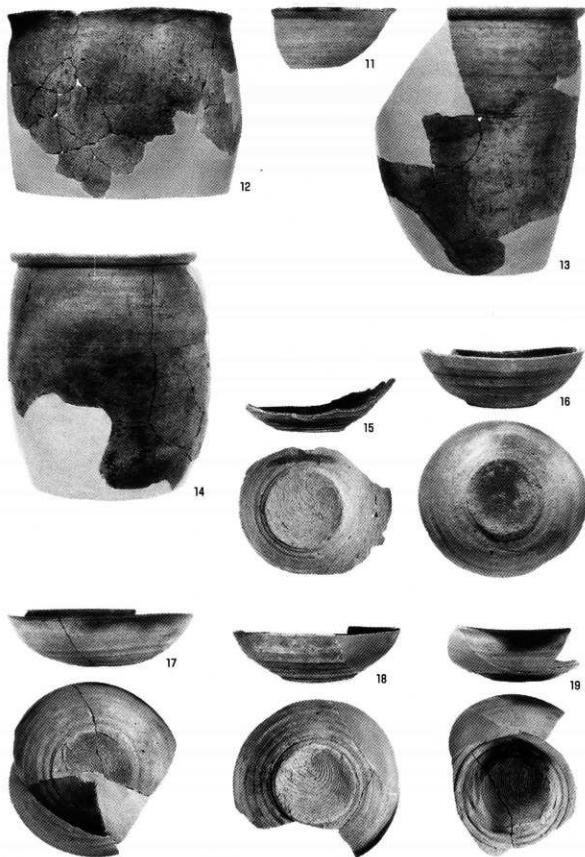


9

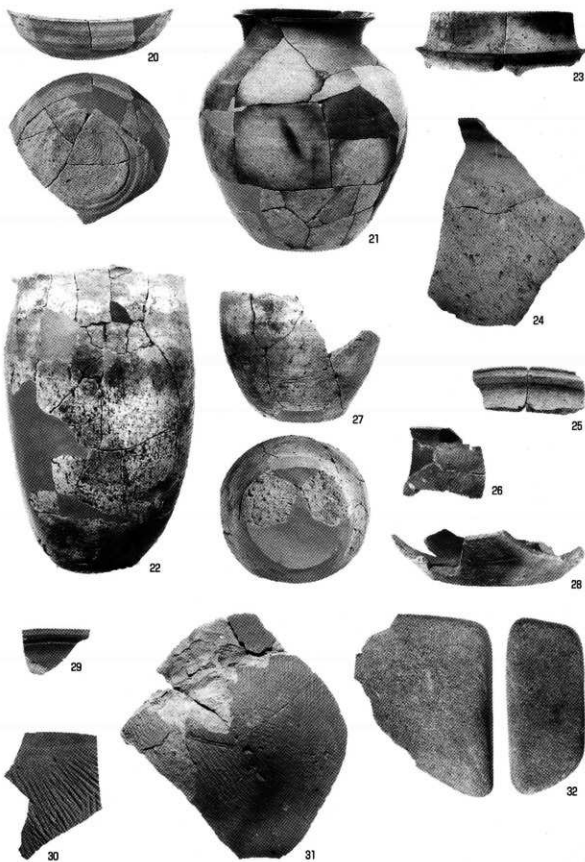


10

写真図版23 縄文時代の遺物

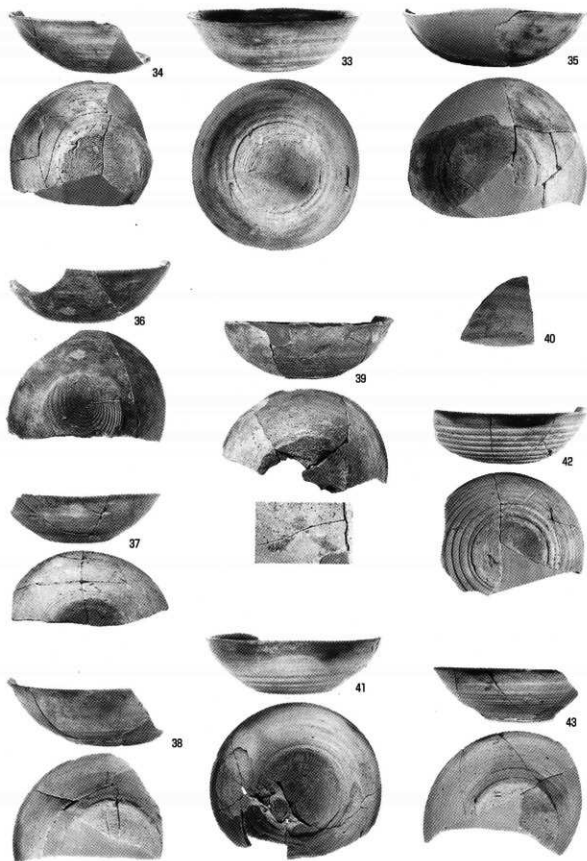


写真図版24 古代の遺物1 (SI 01・02 竪穴住居跡1)



写真図版25 古代の遺物 2 (SI 02 整穴住居跡 2)





写真図版26 古代の遺物 3 (SI 03 竪穴住居跡 1)



写真図版27 古代の遺物4 (SI 03 竪穴住居跡2)



53



54



55



56



57



59



60

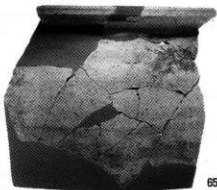


58

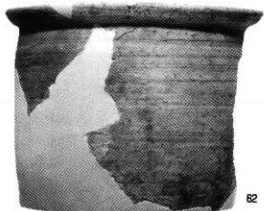
写真図版28 古代の遺物 5 (SI 03 竪穴住居跡 3)



61



65



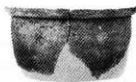
62



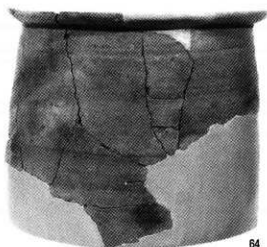
63



66



67



64



68

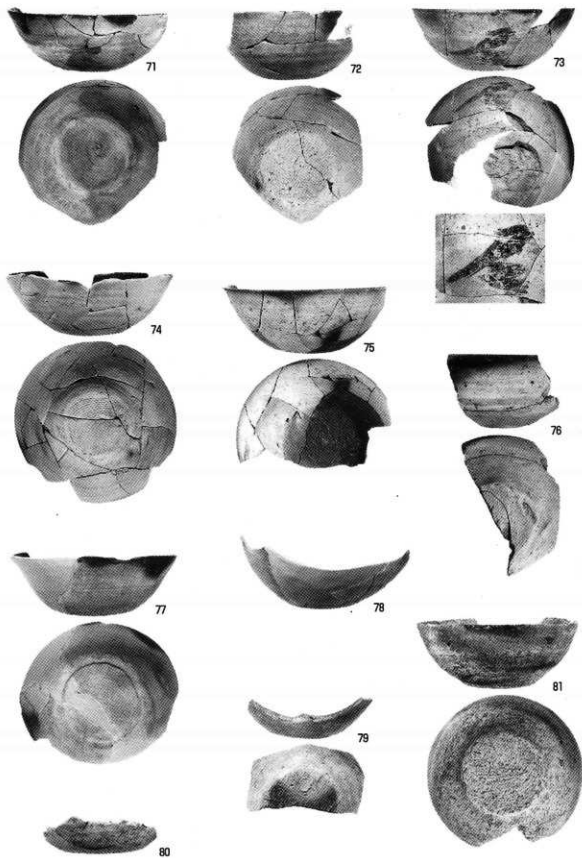


69



70

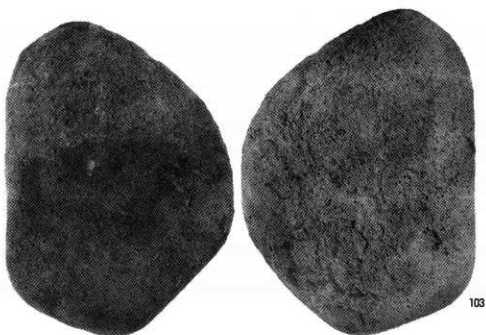
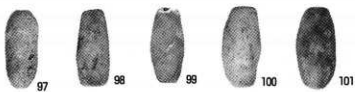
写真図版29 古代の遺物6 (SI 03 竪穴住居跡4)



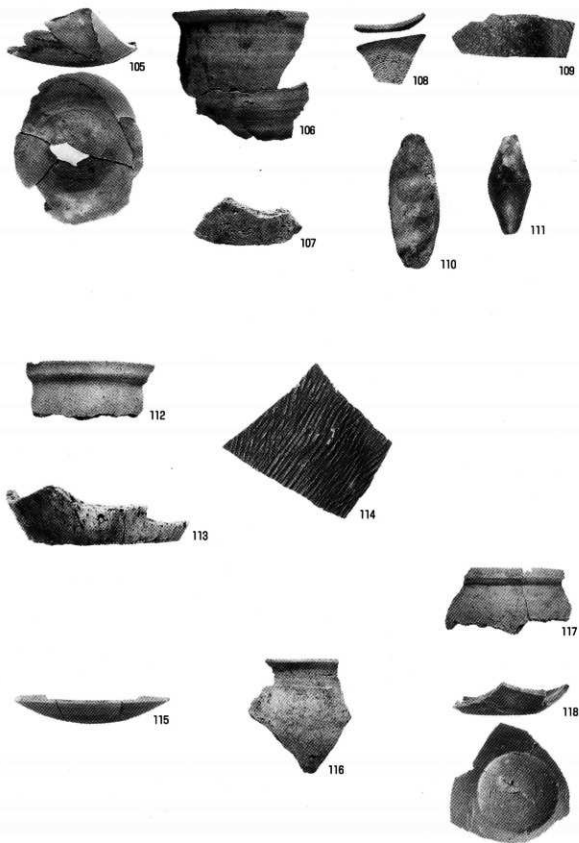
写真図版30 古代の遺物7 (SI 04 竪穴住居跡1)



写真図版31 古代の遺物 8 (SI 04 竪穴住居跡 2)

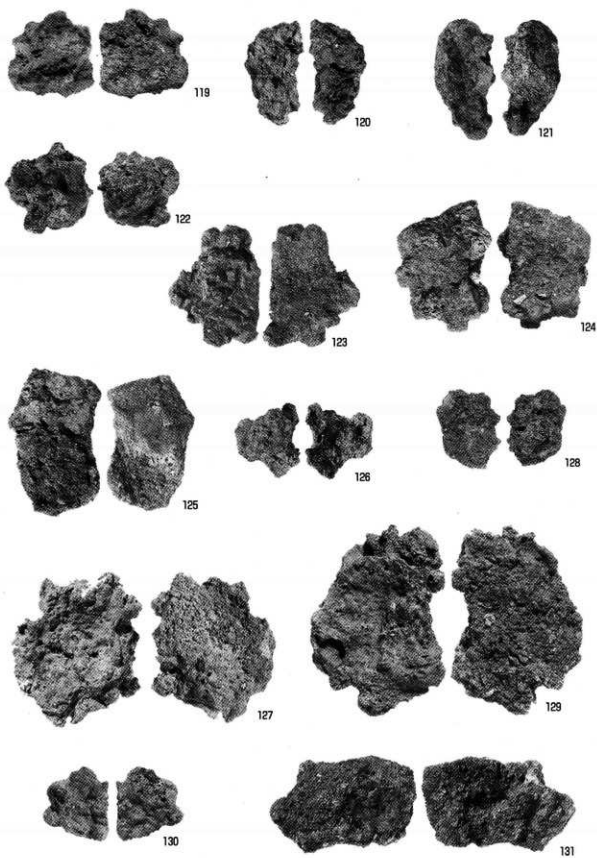


写真図版32 古代の遺物 9 (SI 04 竪穴住居跡 3)



写真図版33 古代の遺物10 (SKI 01・02 整穴状遺構、SK 04・16 土坑、SKP 196・197 柱穴)





写真図版34 古代の遺物11 (鍛冶滓)

## 報告書抄録

ふりがな	うわだいにいせきはくつちょうさほうこくしょ					
書名	上台Ⅱ遺跡発掘調査報告書					
副書名	国道4号花巻東バイパス建設事業に係る発掘調査					
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第459集					
編著者名	小山内 透					
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター					
所在地	〒020-0853 盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL019-638-9001					
発行年月日	西暦2004年11月24日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	北緯 〃	東経 〃	調査期間	調査面積	調査原因
上台Ⅱ	岩手県花巻市 高木第19地割 101-35ほか	39度 23分 10秒	141度 08分 38秒	2003.04.08 ～ 2003.06.19	2,171㎡	道路工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
上台Ⅱ	狩猟場	縄文時代	陥し穴	31基	縄文土器(晩期) 石器	
	集落跡	平安時代	掘立柱建物跡	2棟	土師器(甕・坏類)	
			竪穴住居跡	4棟	須恵器(甕・坏類)	
			竪穴状遺構	2棟	土製品(土鏡・羽口)	
			土坑	23基	石製品(鉄砧石)	
			炉跡	1基	鉄製品(刀子・鉄鏃)	
			焼土遺構	2基	鉄滓類(鍛冶滓)	
			溝跡	3条		
			柱穴	約400基		
		時期不明	土坑	22基		
			焼土遺構	4基		
			溝跡	1条		

平成16年度(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長	相 原 康 二	副 所 長	平 野 允 苗
<b>〔管理課〕</b>			
課 長	蒔 澤 正 吾	嘱 託	高 橋 清 助
課 長 補 佐	小 田 島 宏 道	"	常 泉 治 美
主 任 主 査	中 嶋 賢 一	"	伊 藤 滋 子
主 事	猿 橋 幸 子		
<b>〔調査第一課〕</b>			
課 長	三 浦 謙 一		
課 長 補 佐	高 橋 義 介		
文化財専門員	金 子 昭 彦	文化財調査員	米 田 寛
文化財調査員	水 上 明 博	"	北 田 勲
"	阿 部 勝 則	"	島 原 弘 征
"	杉 沢 昭 太 郎 (郷之御所支援派遣)	"	村 田 淳
"	溜 浩 二 郎	期限付調査員	石 崎 高 臣
"	村 上 祐	"	立 花 裕
"	戸 根 貴 之	"	菅 野 梢
"	八 木 勝 枝	"	新 井 田 えり子
"	丸 山 浩 治		
<b>〔調査第二課〕</b>			
課 長	佐々木 清 文	文化財調査員	林 勲
主幹兼課長補佐	中 川 重 紀	"	塚 雅 之
文化財専門員	小 山 内 透 (県教委研修派遣)	"	西 澤 正 晴
"	金 子 佐 知 子	"	丸 山 直 美
"	濱 田 宏	"	村 木 敬
"	羽 柴 直 人	"	福 島 正 和
文化財調査員	吉 田 充	"	北 村 忠 昭
"	阿 部 徳 幸	"	須 原 拓
"	早 坂 淳	"	川 又 晋
"	小 松 則 也	期限付調査員	中 村 絵 美
"	窓 岩 伸 吾		小 針 大 志 (6月退職)
"	亀 澤 盛 行		
"	鈴 木 裕 明		
"	新 妻 伸 也		

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第459集

## 上台Ⅱ遺跡発掘調査報告書

国道4号花巻東バイパス建設事業に係る発掘調査

印刷 平成16年11月18日

発行 平成16年11月24日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
TEL (019)638-9001

印刷 大場印刷工業株式会社  
〒020-0062 岩手県盛岡市長田町14番31号  
TEL (019)623-3228

the 1990s, the number of people with a mental health problem has increased in the UK, and the number of people with a mental health problem who are in contact with mental health services has also increased (Mental Health Act 1983, 1990).

There is a growing awareness of the need to improve the lives of people with a mental health problem, and to reduce the stigma and discrimination that they experience. This has led to a number of initiatives, including the development of self-help materials, the establishment of self-help groups, and the development of community mental health teams.

Self-help materials are designed to help people with a mental health problem to understand their condition, and to manage their symptoms. They can be used by people who are in contact with mental health services, or by people who are not in contact with mental health services. Self-help materials can be used in a number of ways, including reading, listening to audio tapes, and watching video tapes.

Self-help groups are groups of people who have a mental health problem, and who meet regularly to discuss their experiences and to provide support to each other. Self-help groups can be used by people who are in contact with mental health services, or by people who are not in contact with mental health services. Self-help groups can be used in a number of ways, including meeting in person, and using telephone or video conferencing.

Community mental health teams are teams of professionals who work together to provide mental health services to people in the community. Community mental health teams can be used by people who are in contact with mental health services, or by people who are not in contact with mental health services. Community mental health teams can be used in a number of ways, including providing support to people in the community, and providing services to people in the community.

The development of self-help materials, self-help groups, and community mental health teams is a key part of the effort to improve the lives of people with a mental health problem, and to reduce the stigma and discrimination that they experience. These initiatives are essential for the development of a more inclusive and supportive society for people with a mental health problem.

## References

- 1. Mental Health Act 1983, 1990.
- 2. Department of Health (1999) *Mental Health: A New Beginning*. London: HMSO.
- 3. Department of Health (2002) *Mental Health: A New Direction*. London: HMSO.
- 4. Department of Health (2005) *Mental Health: A New Vision*. London: HMSO.
- 5. Department of Health (2007) *Mental Health: A New Partnership*. London: HMSO.
- 6. Department of Health (2008) *Mental Health: A New Future*. London: HMSO.
- 7. Department of Health (2009) *Mental Health: A New Dawn*. London: HMSO.
- 8. Department of Health (2010) *Mental Health: A New Day*. London: HMSO.
- 9. Department of Health (2011) *Mental Health: A New Tomorrow*. London: HMSO.
- 10. Department of Health (2012) *Mental Health: A New Tomorrow*. London: HMSO.